



就職指導 実践事例集

令和7年4月改訂版

POINT
01

道立高校における就職指導の効果的な事例を掲載

POINT
02

就職指導に関する5年間の研究成果を一挙掲載



生徒一人一人の希望を尊重した
進路実現に向けて

北海道教育庁学校教育局高校教育課

はじめに

技術革新・産業構造の変化、グローバル化など社会の急激な変化が伴う中、高等学校卒業後に就職を希望する生徒において、職業や働くことの意義についての理解を深めるとともに、働くことへの関心や意欲を高めるほか、社会生活上の基本的なマナーやコミュニケーション能力など、社会人・職業人としての基本的な能力を身に付けることが、これまで以上に求められております。

北海道教育委員会では、こうした状況を踏まえ、このたび、各学校で行われている効果的な就職指導の取組をまとめた「就職指導実践事例集」を作成しました。

各学校において、本事例集が有効に活用され、就職を希望する一人でも多くの生徒の希望が実現されるよう期待しております。

本事例集の構成

本事例集は、学校や教育局、高校教育課が取り組んだ効果的な事例からなる第1部と、「就職指導の改善に関する研究」の報告書である第2部で構成しています。

目次

学校・教育局・高校教育課の効果的な事例編

N o	実施高校等	職 業 理 解	早 期 離 職 防 止	キ ャ リ ア 教 育 の 推 進	C P S V と の 連 携	効 率 的 な 進 路 指 導	保 護 者 に 向 け た 取 組	そ の 他	主な取組	ペ ー ジ
1	砂 川	○							ジョブスタート事業	1
2	奈 井 江 商 業			○					外部講師による面接指導	2
3	美 唄 尚 栄	○							社会体験実習、校内職業説明会	3
4	芦 別	○		○					模擬面接練習、企業説明会	4
5	札 幌 白 陵			○	○				CPSV による面談、就職対策講習会	5
6	石 狩 翔 陽			○					石狩市高校生就職支援セミナー	6
7	札幌北(定時制)				○				CPSV と連携した効果的な就職指導	7
8	小 樽 水 産	○	○						インターンシップ、労働条件セミナー	8
9	苫小牧総合経済		○	○					民間業者の活用、卒業生講話	9
10	富 川		○						高校生就職ガイダンス、卒業生講話	10
11	大 野 農 業	○							お仕事スタートアップガイダンス	11
12	福 島 商 業			○					中学校と連携したキャリア教育	12
13	檜 山 北	○		○					進路説明会、3年次生による講話	13
14	美 瑛			○	○				個別カウンセリング、工夫した面接指導	14
15	苫 前 商 業				○				進路講話「職業の4分類」	15
16	利 尻	○		○					中学校・高校合同の「学問研究ガイダンス」	16
17	網 走 桂 陽	○							お仕事スタートアップガイダンス	17
18	雄 武				○				CPSV による進路講話	18
19	更 別 農 業	○		○					外部講師を活用した社会人マナー講習	19
20	釧 路 工 業	○		○					工事現場見学会、外部と連携した資格取得	20
21	別 海	○	○						教員インターンシップ、地元企業との懇談会	21
22	滝 川 工 業					○			求人票デジタル検索システム	22
23	札 幌 工 業	○					○		保護者向け建設現場見学会	23
24	大 野 農 業	○		○					実習生産物の活用による6次産業化の学習	24
25	富 良 野	○	○	○					地域の経済団体と連携したインターンシップ	25
26	北 見 工 業	○							半導体に関する出前講座	26
27	札 幌 西			○					同窓会企画のキャリア形成講演	27
28	札 幌 丘 珠		○						「しごとびと」を招いたキャリア座談会	28
29	室 蘭 工 業	○							洋上風力発電に関する学び	29
30	苫小牧総合経済	○							地域観光を学ぶ	30
31	根 室		○						地元企業の事業所訪問	31
32	中 標 津	○							普通科における地元建設業の現場見学	32
33	渡 島 教 育 局	○		○	○				高校×企業との交流会 in 渡島	33
34	留 萌 教 育 局	○	○		○				じもと×しごと発見フェア(振興局と連携)	34
35	高 校 教 育 課		○		○				就職内定者サポートセミナー	35
36	高 校 教 育 課				○			○	多様な生徒に対応した就職指導の事例	36

<第2部>「就職指導の改善に関する研究」報告書まとめ編

年度	指定校	ペ ー ジ
令和2年度	美唄尚栄、余市紅志、伊達、常呂、大樹、白糠	31
令和3年度	芦別、伊達開来、静内農業、美深、遠別農業、標津	44
令和4年度	伊達開来、静内農業、松前、旭川北(定時制)、白糠、標津	51
令和5年度	野幌、伊達開来、苫小牧工業(定時制)、静内農業、幕別清陵、標津	60
令和6年度	野幌、伊達開来、静内農業、北見緑陵、幕別清陵、釧路湖陵(定時制)	72

(注)「就職指導の改善に関する研究」は北海道教育委員会が平成14年度から取り組んでいる研究事業

<資料>

就業体験活動の充実～長期インターンシップ、デュアルシステム～(リーフレット)	84
公立高等学校の調査月ごとの就職内定(決定)率の推移	86

管内	空知	学校名	北海道砂川高等学校	学科	普通科	全学級数	6
----	----	-----	-----------	----	-----	------	---

◆ 職業理解を深める取組

取組名	ジョブスタート事業（平成 28 年度より実施） <目的> ・砂川市と高校が連携し、生徒が地元の企業を知り、働く意義を考える標記事業を実施し、生徒が自分自身のキャリアデザインを構築するとともに、地域の人材育成を図る。	
概要	○ 期日 令和5年2月24日（金） 13：25～15：15 ・事前打合せ（説明会の内容の検討） 令和4年11月17日（木） 令和4年12月16日（金） 令和5年1月27日（金） 14：00～16：00 ○ 場所 本校体育館 ○ 対象 第1学年 ○ 実施教科・科目 総合的な探究の時間 ○ 内容 ・地元企業と生徒が複数回にわたり説明会の内容の検討を行う。 ・若手従業員と生徒が交流する場面をつくり、生徒の働くことへの不安を解消する。 ・地元企業の PR や仕事の紹介を行い、職業理解を深める。  【生徒会と企業の事前打合せの様子】  	
連携先	・砂川市（経済部商工労働観光課） ・砂川市雇用創出協議会、 ・砂川商工会議所 ・北海道医療大学（説明会のコーディネーター）	
工夫している点	・毎年、11月から1月にかけて、参加企業と砂川高校の生徒会が事前に集まり、高校生が知りたいことや地元企業が伝えたいことなどをすり合わせ、説明会の内容をブラッシュアップしている。	
得られる効果	・生徒が地元の魅力ある企業を知ること、高校卒業時や進学後に地元企業への就労を検討する機会となっている。 ・市内企業と高校の連携が深まり、インターンシップ先の拡充や求人確保が可能となり、早期離職の減少につながっている。	

管内	空知	学校名	北海道奈井江商業高等学校	学科	商業科	全学級数	3
----	----	-----	--------------	----	-----	------	---

◆ キャリア教育を推進する取組

取組名	外部講師による面接指導																																																																																										
	<目的> ・緊張感をもって面接の要領を体得させ、進路意識の高揚を図る。 ・自己分析を進めることで、受験先の企業を具体的に意識させる。																																																																																										
概要	○ 期日 令和4年6月24日（金）、7月22日（金）、8月26日（金） 9：50～12：40 ○ 場所 本校特別教室 ○ 対象 第3学年 ○ 実施教科・科目 総合的な探究の時間 ○ 内容 ・講話「面接試験の心構えと作法」 ・実践「面接練習」																																																																																										
	 【面接講話の様子】  【自己分析の様子】	<table><tr><th colspan="2">面接評価票</th><th colspan="3">3年 番 氏 名</th></tr><tr><th colspan="2">面接実施日</th><th>6月24日</th><th colspan="2">7月22日</th><th>8月26日</th></tr><tr><th colspan="2">面接者氏名</th><th colspan="2">面接回数 1回目</th><th>2回目</th><th>3回目</th></tr><tr><th rowspan="5">基本事項</th><th>評価の観点</th><th colspan="4">各項目の評価</th></tr><tr><td>身だしなみ</td><td>A・B・C・D・E</td><td>A・B・C・D・E</td><td>A・B・C・D・E</td><td>A・B・C・D・E</td></tr><tr><td>入退室・礼・挨拶</td><td>A・B・C・D・E</td><td>A・B・C・D・E</td><td>A・B・C・D・E</td><td>A・B・C・D・E</td></tr><tr><td>目線・姿勢・動作</td><td>A・B・C・D・E</td><td>A・B・C・D・E</td><td>A・B・C・D・E</td><td>A・B・C・D・E</td></tr><tr><td>話し方 （声の大きさ・敬語の使い方）</td><td>A・B・C・D・E</td><td>A・B・C・D・E</td><td>A・B・C・D・E</td><td>A・B・C・D・E</td></tr><tr><th rowspan="4">質問に関する事項</th><td>志望動機</td><td>A・B・C・D・E</td><td>A・B・C・D・E</td><td>A・B・C・D・E</td><td>A・B・C・D・E</td></tr><tr><td>企業（学校）の内容把握</td><td>A・B・C・D・E</td><td>A・B・C・D・E</td><td>A・B・C・D・E</td><td>A・B・C・D・E</td></tr><tr><td>社会人になるための心構え （進学への自覚）</td><td>A・B・C・D・E</td><td>A・B・C・D・E</td><td>A・B・C・D・E</td><td>A・B・C・D・E</td></tr><tr><td>自己PR</td><td>A・B・C・D・E</td><td>A・B・C・D・E</td><td>A・B・C・D・E</td><td>A・B・C・D・E</td></tr><tr><td></td><td>上記以外の質問事項</td><td>A・B・C・D・E</td><td>A・B・C・D・E</td><td>A・B・C・D・E</td><td>A・B・C・D・E</td></tr><tr><th rowspan="2">コメント</th><td>良かった点</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>改善すべき点</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td colspan="2">自己評価</td><td colspan="2">担任確認</td><td>担任確認</td><td>担任確認</td></tr></table>			面接評価票		3年 番 氏 名			面接実施日		6月24日	7月22日		8月26日	面接者氏名		面接回数 1回目		2回目	3回目	基本事項	評価の観点	各項目の評価				身だしなみ	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E	入退室・礼・挨拶	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E	目線・姿勢・動作	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E	話し方 （声の大きさ・敬語の使い方）	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E	質問に関する事項	志望動機	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E	企業（学校）の内容把握	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E	社会人になるための心構え （進学への自覚）	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E	自己PR	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E		上記以外の質問事項	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E	コメント	良かった点					改善すべき点					自己評価		担任確認		担任確認	担任確認
面接評価票		3年 番 氏 名																																																																																									
面接実施日		6月24日	7月22日		8月26日																																																																																						
面接者氏名		面接回数 1回目		2回目	3回目																																																																																						
基本事項	評価の観点	各項目の評価																																																																																									
	身だしなみ	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E																																																																																						
	入退室・礼・挨拶	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E																																																																																						
	目線・姿勢・動作	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E																																																																																						
	話し方 （声の大きさ・敬語の使い方）	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E																																																																																						
質問に関する事項	志望動機	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E																																																																																						
	企業（学校）の内容把握	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E																																																																																						
	社会人になるための心構え （進学への自覚）	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E																																																																																						
	自己PR	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E																																																																																						
	上記以外の質問事項	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E																																																																																						
コメント	良かった点																																																																																										
	改善すべき点																																																																																										
自己評価		担任確認		担任確認	担任確認																																																																																						
連携先	・石狩教育局（キャリアプランニングスーパーバイザー） ・ジョブカフェ北海道 ・ハローワーク滝川																																																																																										
工夫している点	・空知教育局、ジョブカフェ北海道、ハローワーク滝川と連携した面接練習を継続的に行うようにしている。 ・面接の評価を面接評価表（個別シート）に蓄積し、事前に前回の反省点を確認してから面接練習ができるようにしている。																																																																																										
得られる効果	・講師が継続して同じ生徒を指導することで、前回からの成長を的確に見取ることができ、生徒の就職試験に対する意欲の向上につながっている。 ・外部講師の活用により、本番さながらの緊張感ある面接練習となっている。 ・面接の専門家から、きめ細かいアドバイスを得ることができる。																																																																																										

管内	空知	学校名	北海道美唄尚栄高等学校	学科	総合学科	全学級数	6
----	----	-----	-------------	----	------	------	---

◆ 職業理解を深める取組

取組名	社会体験実習
	<目的> 働くことの社会的意義や企業の社会的役割を理解し、望ましい勤労観や職業観を育てる。
概要	○ 期日 令和4年9月22日（木） 9：00～15：00 ○ 場所 市内12の事業所 ○ 対象 第2学年 ○ 実施教科・科目 総合的な探究の時間 ○ 内容 美唄市内12の事業所の中から、生徒が希望する事業所でのインターンシップを実施 
連携先	・美唄市経済部経済観光課
工夫している点	・終了後に、進路ノートの演習や作文の作成を行い、実習中に達成できたことや不十分だったことをまとめている。また、まとめをもとに事後面談を行い、実習の振り返りが深まるようにしている。
得られる効果	- 生徒の希望に沿った場所を選定することで、実習先のミスマッチがなくなり、生徒は意欲的に実習に取り組み、職業理解を深めている。 - 働く意義や企業の社会的役割について理解を深めることができている。

取組名	校内職業説明会
	<目的> 地元企業や事業所に対する理解を深めるとともに、職業観を育成し、今後の進路活動に対する意識の向上を図る。
概要	○ 期日 令和4年6月23日（木） 13：30～15：20 ○ 場所 本校各教室 ○ 対象 第3学年 ○ 実施教科・科目 総合的な探究の時間 ○ 内容 美唄市内の企業10社を招き、各企業の仕事内容に関する説明会を開催 
連携先	・美唄市経済部経済観光課
工夫している点	・進路希望調査をもとに、生徒が希望している業種を市役所の担当者に事前に伝え、来校する企業の選定を行っている。
得られる効果	・業務内容や求められる資質等、地元企業への理解が深まり、生徒の就労意識が向上している。その結果、多くの企業から内定をいただいている。

管内	空知	学校名	北海道芦別高等学校	学科	普通科	全学級数	6
----	----	-----	-----------	----	-----	------	---

◆ キャリア教育を推進する取組

取組名	芦別ロータリークラブによる模擬面接練習	
	<目的> ・就職試験に向けた面接力の向上を図る。	
概要	○ 期日 令和4年9月8日(木) 13:25~15:15 ○ 場所 第3学年 HR 教室・自習室(各6名4展開) ○ 対象 第3学年 就職希望者 ○ 実施教科・科目 総合的な探究の時間 ○ 内容 就職希望者を4班に分け、生徒1人に対し、芦別ロータリークラブの面接官2~3名で10分間の面接練習を行う。	
連携先	・芦別ロータリークラブ	
工夫している点	・事前に生徒の志望企業を担当者に伝え、志望企業に合った質問項目を考えてきていただいている。 ・事前に担任が基本的な礼法を生徒に身に付けさせておくことで、面接練習当日は、受け答えの内容や伝え方を中心とした助言をいただくようにしている。	
得られる効果	・本番同様の形態や緊張感の中で練習でき、生徒の自信につながっている。 ・生徒が面接官からの評価票を見て自分の面接を振り返ることで、受け答えの内容や伝え方の改善点が明確になり、生徒の面接力が向上している。	

◆ 職業理解を深める取組

取組名	芦別市内企業説明会	
	<目的> ・事業内容や魅力を知り、地元企業に対する興味や関心を深める。	
概要	○ 期日 I: 令和4年5月20日(金) 10:50~12:40 II: 令和4年12月1日(木) 10:50~12:40 ○ 場所 芦別高校体育館 ○ 対象 I: 第3学年、第2学年(希望者) II: 第2学年、第1学年(希望者) ○ 実施教科・科目 総合的な探究の時間 ○ 内容 ・市内企業15社が集まり、体育館にブースを設置する ・生徒はブースを回り、15分×3社からの説明を聞く	
連携先	・芦別市商工会議所	
工夫している点	・生徒の希望に添った企業の参加となるよう、商工会議所と連携している。 ・地元の複数の企業の説明を聞き、職業の選択肢が広がるようにしている。	
得られる効果	・地元企業の魅力を知ることができ、地元で就労する生徒が増加した。 ・卒業生が説明を担当することも多く、卒業生が実際に活躍している姿を見て、就業後の具体的なイメージをもつことができている。	

管内	石狩	学校名	北海道札幌白陵高等学校	学科	普通科	全学級数	11
----	----	-----	-------------	----	-----	------	----

◆ キャリアプランニングスーパーバイザーと連携した効果的な取組

取組名	キャリアプランニングスーパーバイザーによる面談
	<目的> ・早期より正しい職業観を培い、キャリア発達を促す。
概要	○ 期日 令和5年3月7日（火）、10日（金）、14日（火）、15日（水） 8：55～14：10 ○ 場所 進路指導室 ○ 対象 第2学年 ○ 実施教科・科目 総合的な探究の時間等 ○ 内容 ・就職する上での心構えや基本的な事項を学ぶ。 ・進学する際にその先の自己実現の仕方等、自身のキャリアプランを描く力を涵養する。
連携先	・石狩教育局（キャリアプランニングスーパーバイザー）
工夫している点	・生徒に対して、自己実現をどのように目指すのかを考えさせる。 ・キャリアプランニングスーパーバイザーに本校生徒の特徴等に伝えるなど連携を密に行い、的確な指導に努めている。
得られる効果	・自己の進路について早期から計画的・系統的に考える生徒を育てている。 ・生徒から「就職への意識が高まった」との感想が多く寄せられている。

◆ キャリア教育を推進する取組

取組名	就職対策講習会
	<目的> ・就職活動に必要な知識・心構えなどを身に付けさせる。
概要	○ 期日 令和4年6月15日（水）、7月28日（木） 13：30～15：20（6月） 8：55～15：20（7月） ○ 場所 大講義室 ○ 対象 第3学年の就職希望者 ○ 実施教科・科目 LHR 等 ○ 内容 ・求人票の見方・履歴書の書き方を学ぶ（6月） ・面接のポイントや実践的な面接の練習（7月）
連携先	・ジョブカフェ北海道 ・札幌新卒応援ハローワーク
工夫している点	・6月の概論的な講話から意識の向上を図り、7月で具体的な就職先について考える実践的な活動を行い、継続的・段階的な取組を実施している。 ・就職希望先が曖昧な生徒については、上記連携先の講師からカウンセリングを実施し、意識の高揚に努めている。
得られる効果	・生徒が、社会人として必要なことが実は今まで積み重ねてきた基礎・基本が大切だということを再確認するとともに、後日行う後輩への発表を通して、下級生に就職への意欲等が伝播している。

管内	石狩	学校名	北海道石狩翔陽高等学校	学科	総合学科	全学級数	24
----	----	-----	-------------	----	------	------	----

◆ キャリア教育を推進する取組

取組名	石狩市高校生就職支援セミナー
	<目的> ・石狩市の若者人材育成、職場定着支援事業の一環として、本格的な就職活動を間近に控えた高校3年生を対象に、働くことの意義、就職の全体像、自己理解、企業が求める人材、履歴書作成のポイント、面接のポイントなどを学ばせる。
概要	○期日〔1日目〕令和4年7月27日（水）10:00～15:00 〔2日目〕令和4年9月6日（火）10:00～15:00 ○場所 花川北コミュニティセンター ○対象 3年次 就職希望者 ○内容 自立型人材育成を合い言葉として、研修事業を展開する民間企業より講師を招聘し、次の点について、聴講、ディスカッション、実技・実演など、様々な形の活動を通して生徒へ理解を深めさせる。 〔1日目〕①自己理解、企業が求めている人材の理解 ②スポーツ選手に学ぶ企業が欲しがるとの特徴 ③仕事の意味を理解することが就活成功の第一歩 ④目の前のことを全力でやることの大切さ ⑤個別模擬面接 〔2日目〕①自立型の姿勢で臨む就職活動とは ②自分の強みと自立型の姿勢 ③面接時に評価が上がる聴き方、話し方のポイント ④面接時に緊張しないメンタルの整え方 ⑤集団模擬面接
連携先	・石狩市企画経済部商工労働観光課
工夫している点	・聴講時は座席を小グループに分け、提起された問題について議論させることで、他者の多様な考え方を尊重させながら、自身の考えを深化させる。 ・他の生徒の前で面接教官との面談や模擬面接を実施し、個々に応じた的確な助言や教示、労いや称賛の言葉をかけることにより自信をもたせる。
得られる効果	・実践的な自己PR方法の習得が期待できる。 ・講話やディスカッションを通じて、企業側が何を求め、それにどう応えればよいかを考えさせることができる。 ・ディスカッションの中で出合った意見や講師からの助言により、前向きで確固たる思考や意思の構築が期待できる。

管内	石狩	学校名	北海道札幌北高等学校	学科	定時制普通科	全学級数	5
----	----	-----	------------	----	--------	------	---

◆ キャリアプランニングスーパーバイザーと連携した効果的な取組

取組名	キャリアプランニングスーパーバイザーと連携した効果的な就職指導 <目的> ・豊富な知識と経験、様々な企業情報を有するキャリアプランニングスーパーバイザーと連携し、就職内定率 100%を目指す。
概要	<令和3年度> ※コロナのため全て Zoom で実施 ① 期日 令和3年8月3日（火）～5日（木）13：00～17：05 内容 ・進路相談（個別面談・1人35分） ② 期日 令和3年8月26日（木）17：40～20：15 内容 ・履歴書（志望理由）、面接等の指導（個別指導・1人30分） ③ 期日 令和3年9月30日（木）17：40～18：25 内容 ・就職試験不採用生徒への個別面談 <令和4年度> ・期日、内容は令和3年度とほぼ同じであるが、全員が1回目の就職試験で内定したため、就職試験不採用生徒への指導は実施していない。
連携先	・石狩教育局（キャリアプランニングスーパーバイザー）
工夫している点	・令和2年度は履歴書の書き方の全体指導を行い、その後、履歴書の志望動機の添削を含めた個別面談（1人10分）を実施した。就職未決定生徒については、新規高卒者就職面接会（ハローワーク主催）参加に向け、生徒の情報共有を定期的に行い、指導に当たった。 ・令和3年度は前年度の反省から、1回目は個に応じた個別面談（就職希望先未定生徒から決定している生徒への対応・夏期休業中に実施）、2回目は書類発送前に履歴書の志望動機の添削、模擬面接を実施している。 ・本校の生徒実態に基づいた効果的な進路実現に向けて、令和2年度より同一のキャリアプランニングスーパーバイザーによる継続した連携を図るとともに、局主催の就職促進マッチング事業も活用し、生徒の情報共有など連携を深めている。
得られる効果	・令和3・4年度は早い段階で就職内定率 100%であった。 ・効率的な面談を実施する上で、事前に履歴書などを送付し、計画的に余裕をもった生徒の活動（履歴書作成など）につなげることができ、推薦開始時には全員が書類を発送することができた。 ・キャリアプランニングスーパーバイザーから企業の情報（職場の雰囲気や労働環境、通勤方法など）が具体的に生徒に提供されることで、一人一人に応じた進路指導を行うことができた。 ・面談終了後に進路相談内容等の記録を共有することで、担任をはじめ、進路指導部での生徒理解が深まり、その後の進路指導に役立った。

管内	後志	学校名	北海道小樽水産高等学校	学科	水産科	全学級数	12
----	----	-----	-------------	----	-----	------	----

◆ 職業理解を深める取組

取組名	インターンシップ
	<目的> ・就業体験を通して、自己の職業適性について考える。また、望ましい勤労観、職業観の育成を図る。
概要	○ 期日 令和4年9月14日（水）～16日（金） 9：00～17：00 ○ 場所 小樽市内各事業所 ○ 対象 第2学年全員（131名） ○ 実施教科・科目 総合的な探究の時間 ○ 内容 各事業所の指導に基づき、見学、作業、講義などの就業体験を行う。 ○ 方法 ・生徒の希望に応じた実習先を探し、受入れを依頼する。 ・終了後、実習日誌と感想文を提出させ、個別指導に活用する。 
連携先	・小樽市内各事業所
工夫している点	・インターンシップの実施に当たり、事業所について調べ、概要書を作成した。また、自己紹介書を作成して事業所に送付した。実施後には自己評価を行い、インターンシップのまとめを作成し、事業所にも配布した。
得られる効果	・当初の目的に加え、社会性（積極性・協調性・責任感）、情報収集力及び分析力、表現力（プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力）の育成を図ることができた。

◆ 早期離職防止を目指した取組

取組名	外部講師の活用（労働条件セミナー）
	<目的> ・社会人として働くうえで必要な労働関係法令の基礎知識を学び、安心して働くための知識を身に付ける。
概要	○ 期日 令和4年12月16日（金） 10：45～11：35 ○ 場所 本校体育館 ○ 対象 第3学年全員（147名） ○ 実施教科・科目等 特別活動（LHR） ○ 内容 遭遇した労働トラブルを解決できる道筋を学ぶ。 ○ 方法 外部講師による講話
連携先	・LEC 東京リーガルマインド（厚生労働省委託事業）
工夫している点	・生徒に分かりやすく解説するために、外部講師が具体的な事例を交えながら講演をすること。
得られる効果	・労働関係法令の正しい理解を深めることができた。 ・会社と本人との間での労働条件の認識のずれをなくし、早期離職を防ぐための助言を受けることができた。

管内	胆振	学校名	北海道苫小牧総合経済高等学校	学科	商業科	全学級数	10
----	----	-----	----------------	----	-----	------	----

◆ キャリア教育を推進する取組

取組名	民間業者による「基礎力診断テスト」を活用した資料分析説明会	
	<目的> ・生徒一人一人が、学習面を中心に学校生活等に係る分析結果を踏まえ、キャリア形成に見通しをもち、今後の進路活動において工夫・改善を図る。	
概要	○ 期日 令和4年6月16日（木） ○ 場所 本校体育館 ○ 対象 全学年（学年毎に分かれて実施） ○ 実施教科・科目 総合的な探究の時間等 ○ 内容 ・離職者問題について ・分析結果の見方について	
連携先	・株式会社ベネッセコーポレーション	
工夫している点	・ベネッセコーポレーション担当者による分析説明会及び2回目の診断テスト終了後、学習活動（進路活動）に不安を抱える生徒を対象に進路指導部が中心となり個別面談を実施。面談内容を担任及び学年団へ報告することにより、対象生徒の進路活動への意識の高揚を促す。	
得られる効果	・本校における教育活動を踏まえ、第1学年から生徒一人一人が自己進路実現に向けた目標設定につなげることができる。	

◆ 早期離職防止を目指した取組

取組名	卒業生講話	
	<目的> ・自己理解とキャリア形成に向けた探究活動の推進を図る。	
概要	○ 期日 令和4年4月29日（金）、5月18日（水） ○ 場所 本校体育館及び教室 ○ 対象 第3学年 ○ 実施教科・科目 課題研究 ○ 内容 ・卒業生による在学中の取組 ・進路決定に向けて重要視したこと ・社会人としての毎日のスケジュール ・仕事をする上で先輩方から学んだことや自分自身が努力したこと ・仕事をする上で壁に当たったときの乗り越え方 ・後輩に向けて残りの高校生活を有意義に過ごすためのアドバイス	
連携先	・本校卒業生	
工夫している点	・自己の進路決定を目前に控えた生徒が、就職先で起こりうる事柄と、対応についての知識・知恵を卒業生から学ぶ。 ・卒業生が、進路決定におけるプロセスや高校時代の取組について、体験談を通して講話することで、生徒が自らのキャリア形成について考えを深める機会とする。	
得られる効果	・卒業生による具体的な講話を聞くことで、生徒は、進路の実現に向けて残りの高校生活で身に付けるべき力を意識して学校での活動に取り組むことができる。	

管内	日高	学校名	北海道富川高等学校	学科	普通科	全学級数	3
----	----	-----	-----------	----	-----	------	---

◆ 早期離職防止を目指した取組

取組名	高校生就職ガイダンス	
	<目的> ・キャリア教育の一環として、就職活動の日程や求人票の見方、雇用形態の違い、身だしなみやマナーについて学ぶことで、生徒に見通しをもたせ、主体的な就職活動へつなげる。 ・模擬面接等に挑戦することにより、生徒の就職活動への意欲を高める。	
概要	○ 期日 令和5年1月13日（金）8：45～14：45 ○ 場所 本校講義室 ○ 対象 第2学年の希望者 ○ 実施教科・科目 冬季休業中 ○ 内容 就職ガイダンス事務局から派遣された講師による講話や模擬面接等を実施。	
連携先	・就職ガイダンス事務局 ・ハローワーク苫小牧	
工夫している点	・外部講師を活用して、講話により就職活動に係る事項を学ぶとともに、模擬面接を実施して、生徒一人一人にセミナーのまとめを行った。	
得られる効果	・外部講師からの講話だけでなく、グループワークや模擬面接等の活動を取り入れることで、今後の就職活動に向けての主体性を参加生徒に育むことができた。	



取組名	卒業生講話	
	<目的> ・卒業生による講話を通して、生徒が進路に対して主体的に考えるきっかけとする。	
概要	○ 期日 令和4年3月18日（金）13：15～15：05 ○ 場所 校内各教室 ○ 対象 第1、2学年 ○ 実施 総合的な探究の時間 ○ 内容 卒業生がWebで参加し、就職後の体験談等について講話を行う。	
連携先	・卒業後3年程度経過の卒業生を中心に、進学者、就職者をバランスよく選定する。	
工夫している点	・進路に対して主体的に考えるきっかけとするため、生徒が感想文を書き、振り返る機会を設定した。	
得られる効果	・生徒から卒業生に対し、高校在学時に取り組むべきことや就職試験に向けた活動に関することについて積極的に質問するなど、生徒の進路意識の高揚を図ることができた。	



管内	渡島	学校名	北海道大野農業高等学校	学科	農業科	全学級数	9
----	----	-----	-------------	----	-----	------	---

◆ 職業理解を深める取組

取組名	お仕事スタートアップガイダンス	
	<目的> ・地域産業や地域企業について理解を深め、多様な職業への関心や就労の意欲を高める。	
概要	○ 期日 令和4年10月20日（木） 10：00～15：15 ○ 場所 本校 ○ 対象 第1学年（10：00～11：50） 第2学年（13：30～15：15） ○ 実施教科・科目 第1学年 LHR 第2学年 総合的な探究の時間 ○ 内容 ・地域の企業等の担当者による講話と実演 ・仕事の体験 【企業担当者による講話の様子】 【企業担当者による実演（左）と生徒が体験（右）している様子】	
連携先	・北海道就業支援センター及び地域の企業等	
工夫している点	・北海道就業支援センターと連携して地域の企業等を選定し、全10箇所のブースで各担当者による講話の他、体験的な学びができるような内容を設定した。 ・事前に生徒への希望調査を行って、生徒が関心のある企業等のブースを訪れるようにした。 ・第1年生全員が11月10日（木）に開催された「地元のおしごと紹介フェア」（主催：渡島総合振興局、共催：渡島教育局）に参加し、本ガイダンスで学んだことをさらに深められるようにした。	
得られる効果	・講話や体験的な学びを通して、生徒が多様な職業について関心を高め、将来の職業選択について考えるようになった。 ・就職指導に係る他の学習機会（「地元のおしごと紹介フェア」への参加、進路講話、職業探究等）と関連させることで、生徒が地域の企業や各業種の仕事について理解を深め、働くことのイメージをより具体的にもつようになった。	

管内	渡島	学校名	北海道福島商業高等学校	学科	商業科	全学級数	3
----	----	-----	-------------	----	-----	------	---

◆ キャリア教育を推進する取組

取組名	中学校と高校が連携したキャリア教育の推進（「職業を知るガイダンス」） <目的> ・中学校と高校で生徒に身に付けさせたい「基礎的・汎用的能力」を共有し、中高で一貫したキャリア教育に係る取組を実践する。
概要	○ 期日 令和4年6月29日（水） 9：50～11：40 ○ 場所 本校 ○ 対象 本校第1、2学年 福島町立福島中学校の生徒 ○ 実施教科・科目 第1学年 LHR 第2学年 総合的な探究の時間 ○ 内容 大学、専門学校、町役場、企業等の担当者による講話や実演 【「職業を知るガイダンス」の様子】 ガイダンスの事前と事後に、『働く』とは、どの様なことだと思えるか』を記載し、生徒が職業観や勤労観の変容を振り返ることができるようにした。 【職業観・勤労観等を記録するワークシート】
連携先	・福島町立福島中学校 ・大学、短大、専門学校、町役場、企業等
工夫している点	・福島町立福島中学校と本校の教員で、生徒のキャリアプランニング能力の育成を図るために、合同で「職業を知るガイダンス」を実施した。 ・ガイダンスの前後に、ワークシートを活用して生徒の職業観や勤労観を記録することで、生徒の自己理解を深めた。
得られる効果	・町内の中学校と高校が連携することで、中学1年生から高校2年生までの5年間を見通してキャリア教育に取り組むことができるようになり、ワークシートによる記録を蓄積する仕組みを構築することができた。 ・ガイダンスを通して、生徒は、学ぶこと・働くことの意義や役割について理解を深め、将来の目標を明確にすることの大切さに気付いた。

管内	檜山	学校名	北海道檜山北高等学校	学科	総合学科	全学級数	6
----	----	-----	------------	----	------	------	---

◆ 職業理解を深める取組

取組名	進路相談会
概要	<目的> ・進路の検討や実現のため、主体的に企業の情報を得る姿勢を養うことや、説明を聞くことで進路に向けての視野や考えを広げる。 ○ 期日 令和4年6月17日（金） 13：20～15：10 ○ 場所 体育館、柔剣道場、多目的教室 ○ 対象 全校生徒 ○ 実施教科・科目 1年次「産業社会と人間」 2・3年次「総合的な探究の時間」 ○ 内容 ・各企業の相談ブースにおいて、担当者と面談の実施（体育館） ・各学校等の資料の配付（柔剣道場） ・進路に関する講演動画の視聴（多目的教室）
連携先	・地域の行政機関、病院、建設会社等
工夫している点	・職業理解を深め、進路に向けての視野を広げるため、各生徒が2つ以上のブースを回って担当者から説明を聞くことにしている。 ・生徒のさまざまな進路希望に対応するため、3会場を設置している。
得られる効果	・それぞれの生徒が、企業等からさまざまな情報を得ることにより、自分自身や進路について深く考える契機となった。



◆ キャリア教育を推進する取組

取組名	3年次生による講話
概要	<目的> ・進路選択に役立てるとともに、多様な進路活動を知る。 ・自己の進路実現に向けて具体的な方法を知り、目標を明確にする。 ○ 期日 令和5年2月1日（水） 13：20～15：10 ○ 場所 多目的教室 ○ 対象 1・2年次 ○ 実施教科・科目 1年次「産業社会と人間」 2年次「総合的な探究の時間」 ○ 内容 3年次生から1・2年次生へ、自らの進路活動における成功談や失敗談等について講話
連携先	・3年次生
工夫している点	・2年次生には、進路希望に対応した具体的な講話を行うため、大学・看護学校希望者、専門学校希望者、公務員希望者、就職希望者に分けている。 ・1年次生には、今後の学校生活における見通しをもたせるため、学校生活において気を付ける点など、具体的な講話内容としている。
得られる効果	・それぞれの生徒が、3年次生の進路活動の体験談を聞くことにより、進路に向けての自分自身の取組や学校生活の過ごし方について深く考え、意欲を高める契機となった。



管内	上川	学校名	北海道美瑛高等学校	学科	普通科	全学級数	3
----	----	-----	-----------	----	-----	------	---

◆ キャリアプランニングスーパーバイザーと連携した効果的な取組

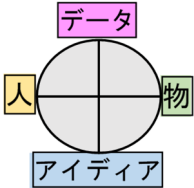
取組名	進路意識を高める個別カウンセリング <目的> ・個別カウンセリングにより、生徒が自らの進路を主体的に考えることで、進路意識を高め、見通しをもって進路活動を行えるようにする。
概要	○ 期日 令和4年5月17日（火）～20日（金） 1～4校時 ○ 場所 本校小会議室 ○ 対象 第3学年の就職希望生徒 ○ 内容 ・上川教育局のキャリアプランニングスーパーバイザーによる個別カウンセリングの実施 ・生徒が進路活動の見通しをもてるよう、一人ひとりの希望職種の業務内容や必要とされる資質・能力の具体的な提示 
連携先	・上川教育局（キャリアプランニングスーパーバイザー）
工夫している点	・個別カウンセリングでは、生徒が自らの進路を主体的に考えることができるよう、生徒への問いかけや、生徒が発言する機会を増やした。 ・生徒が進路実現に向けて具体的な行動ができるよう、個別カウンセリング後に生徒に進路活動の計画表を作成させた。 ・コロナ禍の状況を踏まえ、オンラインによる個別カウンセリングを可能とした。
得られる効果	・生徒に主体的に進路活動に取り組む姿勢を身に付けさせることができた。

◆ キャリア教育を推進する取組

取組名	学校運営協議会（コミュニティ・スクール）委員による面接指導 <目的> ・地域や学校、生徒の現状をよく知る学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の委員が面接指導を行うことで、模擬面接に緊張感をもたせるとともに、職業理解を深めるアドバイスを得る機会とする。
概要	○ 期日 令和4年9月7日（水） 9：25～15：30 ○ 場所 本校小会議室 ○ 対象 第3学年の就職希望生徒 ○ 内容 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の委員による模擬面接の実施
連携先	・北海道美瑛高等学校学校運営協議会
工夫している点	・学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の委員の中から、美瑛町役場の管理職に面接指導をお願いするなど、人選を工夫した。
得られる効果	・学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の委員から、職業理解を深めるアドバイスをいただき、生徒は自信をもって就職試験に臨むことができた。

管内	留萌	学校名	北海道苫前商業高等学校	学科	商業科	全学級数	3
----	----	-----	-------------	----	-----	------	---

◆ キャリアプランニングスーパーバイザーと連携した効果的な取組

	進路講話「職業の4分類」																													
取組名	<目的> ・職業の基礎である4つの分類（データを使う、物を使う、人と接する、アイディアを出す）について知ること、職業の成り立ちを理解させる。 ・職業と4つの分類の関係を通じて、自分の興味・関心について再確認させ、進路選択に役立てる。																													
概要	○ 期日 令和4年10月20日（水）14：25～15：15 ○ 場所 本校視聴覚室 ○ 対象 第2学年 ○ 実施教科・科目 総合的な探究の時間 ○ 内容 1 職業は単に1つの分類で成り立つのではなく、4つの分類の組合せで構成されていることを説明する。（図1） 2 生徒に職業の4つの分類のカード（4分類×各10枚＝計40枚）を配布する。（図2） 3 カードに記載された文章を読み、4つの項目（下表）にカードを分けた後、項目毎にワークシートに貼る。  【図1 職業の4分類（イメージ）】 <table><tr><td>得意／できる</td><td>好き／やってみたい</td></tr><tr><td>苦手／できない</td><td>嫌い／やりたくない</td></tr></table> 4 4つの項目毎に4つの分類それぞれの枚数を集計表（下表）に記入し、自分の興味・関心を振り返る。 記入例 <table><tr><th>分類</th><th>得意</th><th>好き</th><th>苦手</th><th>嫌い</th></tr><tr><td>データ</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>1</td></tr><tr><td>物</td><td>5</td><td>3</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>人</td><td>1</td><td>1</td><td>6</td><td>2</td></tr><tr><td>アイディア</td><td>1</td><td>1</td><td>7</td><td>1</td></tr></table>  【図2 職業の4分類のカード（一部）】	得意／できる	好き／やってみたい	苦手／できない	嫌い／やりたくない	分類	得意	好き	苦手	嫌い	データ	2	3	4	1	物	5	3	1	1	人	1	1	6	2	アイディア	1	1	7	1
得意／できる	好き／やってみたい																													
苦手／できない	嫌い／やりたくない																													
分類	得意	好き	苦手	嫌い																										
データ	2	3	4	1																										
物	5	3	1	1																										
人	1	1	6	2																										
アイディア	1	1	7	1																										
連携先	・留萌教育局（キャリアプランニングスーパーバイザー）																													
工夫している点	・生徒が集中して取り組めるように、心理学者ブレディガーのワークタスク・ディメンションの理論を活用した講話を依頼した。 ・生徒が熟考して作業できるよう十分に時間を取り（25分）、全員がワークシートを時間内に完成できるように、作業が滞っている生徒に対して声をかけ、サポートした。																													
得られる効果	・生徒が、職業の4つの分類を通して職業の成り立ちを学び、自分の興味・関心を理解し、主体的に進路を選択することができるようになる。																													

管内	宗谷	学校名	北海道利尻高等学校	学科	普通科・商業科	全学級数	6
----	----	-----	-----------	----	---------	------	---

◆ キャリア教育を推進する取組

取組名	利尻島内中学校・高校合同「学問研究ガイダンス」	
	<目的> ・学問と実社会との関連性についての学び、「学ぶこと」と「働くこと」の意義について生徒の理解と認識を深める。	
概要	○ 期日 令和4年5月9日（月）～11日（水） 10：30～13：00 ○ 場所 本校体育館及び教室 ○ 対象 全校生徒（利尻島内の中学生 60 名程度） ○ 実施教科・科目 総合的な探究の時間 ○ 内容 ・進路講演会（講師 植松 努 氏） ・大学体験授業 ・上級学校講師による地域PRの手法に係る講演及び模擬講義	
連携先	・道内大学、専門学校等	
工夫している点	・中学校と合同で実施することで、島内の連携や故郷に対する愛着の育成を図っている。 ・生徒の進路実現への意識や勤労観を高めるため、大学や専門学校の講師から「学ぶこと」と「働くこと」に特化した講義を行っていただいている。	
得られる効果	・利尻島に関する職業等について興味・関心を喚起し、進路目標・人生設計を考える機会とすることができる。 ・進学して学問を探究する意義を理解するとともに、職業選択の幅を広げ、進路実現に対する意欲を向上させることができる。	

◆ 職業理解を深める取組

取組名	企業勉強会	
	<目的> ・様々な企業を知り、進路に関する視野を広げることや、利尻島内での就職の促進を図る。	
概要	○ 期日 令和4年12月9日（金） 13：25～15：15 ○ 場所 本校体育館 ○ 対象 第1・2学年 ○ 実施教科・科目 総合的な探究の時間 ○ 内容 利尻島内十数社の企業担当者を招き、ブース形式で1回につき25分程度の勉強会を3回に分けて行う。	
連携先	・利尻島内の各種企業	
工夫している点	・企業による勉強会を3回に分けて実施することで、生徒が職業に関して段階的に学ぶことができるよう工夫している。	
得られる効果	・利尻島内の企業の説明を聞くことで、利尻島内の企業の概要を知るとともに、地元への愛着を形成することができる。	

管内	オホーツク	学校名	北海道網走桂陽高等学校	学科	普通科・商業科	全学級数	12
----	-------	-----	-------------	----	---------	------	----

◆ 職業理解を深める取組

取組名	お仕事スタートアップガイド
	<目的> ・早期離職の予防のため、地域企業就職担当者から直接企業説明を受ける機会を設けて生徒の就業意識を醸成する。
概要	○ 期日 令和5年1月30日（月） 10：50～12：40 2年普通科 13：20～15：10 2年商業科・事務情報科 令和5年1月31日（火） 10：50～12：40 1年普通科 13：20～15：10 1年商業科・事務情報科 ○ 場所 第2学年：体育館 第1学年：格技場、社会科教室、自習室、進路資料室 ○ 対象 第1・2学年 ○ 実施教科・科目 ACT ○ 内容 網走商工会議所の協力を得て、網走の商工会の会員企業と本校の卒業生が就職したことのある企業を学校で選び、その中から16の企業を1・2学年に提示し、説明を受ける企業を調整して、1人の生徒が4つの企業から説明を受けた。   
連携先	・網走商工会議所 ・オホーツク教育局
工夫している点	・生徒の視野を広めるために、希望分野以外の企業の説明を受けられるよう心がけている。
得られる効果	・生徒の就職や進路選択の幅が広がる。 ・企業側が高校生の様子を理解する貴重な機会となっている。

管内	オホーツク	学校名	北海道雄武高等学校	学科	普通科	全学級数	3
----	-------	-----	-----------	----	-----	------	---

◆ キャリアプランニングスーパーバイザーと連携した効果的な取組

取組名	第1学年向けキャリアプランニングスーパーバイザーによる進路講話	
	<目的> ・講話を通して、進路に向けての情報収集をするとともに進路意識の高揚を図る。 - また、進路活動に見通しをもたせ、今後の計画に具体化を促す。	
概要	○ 期日 令和4年5月12日(木) 13:25～15:00 ○ 場所 本校多目的室 ○ 対象 第1学年 ○ 実施教科・科目 総合的な探究の時間 ○ 内容 ・高校卒業後の進路を考える	
連携先	・オホーツク教育局（キャリアプランニングスーパーバイザー）	
工夫している点	・1年生の早い時期から進学・就職についての講話を取り入れることで、進路意識を向上させた。 ・生徒の実態に合わせた内容となるよう、担任と進路部で内容を確認し、進路指導員と念入りな打合せを行った。	
得られる効果	・進学、就職先の探し方や情報ツールの活用の仕方などを学ばせることができた。 ・講話実施後の進路活動に向けて、生徒が主体的に情報収集や今後の進路活動で取り組まなければならないことを考えさせることができた。	

取組名	第3学年向けキャリアプランニングスーパーバイザーによる進路講話	
	<目的> ・講話を通して、新社会人に求められていることや、早期離職を防ぐための考えを深め、卒業後にに向けた心構えをつくる。	
概要	○ 期日 令和5年1月17日(火) 13:25～15:00 ○ 場所 多目的室 ○ 対象 第3学年 ○ 実施教科・科目 総合的な探究の時間 ○ 内容 ・新社会人に求められること ・早期離職を防ぐために	
連携先	・オホーツク教育局（キャリアプランニングスーパーバイザー）	
工夫している点	・マナーや名刺交換など、社会に出たら必要な知識を身に付ける体験学習を行った。 ・離職率の話や情報管理の話の中で具体的な数値や例を挙げることで、関心をもたせる工夫をした。	
得られる効果	・ワークショップを通じて、マナーや挨拶、言葉遣いを意識するようになり、さらに知識を高めようと、積極的に調べる姿が見られた。 ・講話後の生徒の感想から、相談対応や職業支援をする機関を知ったことで、就職後の仕事や職場付き合いの不安が払拭されたとの声が多く見られた。	

管内	十勝	学校名	北海道更別農業高等学校	学科	農業科	全学級数	6
----	----	-----	-------------	----	-----	------	---

◆ 職業理解を深める取組

取組名	お仕事スタートアップガイダンス	
	<目的> ・第1学年から生徒が主体的に職業を体験できる環境を整えることにより、職業についての理解と進路選択の意識付けを行う。	
概要	○ 期日 令和4年10月21日(金) 5、6校時 ○ 場所 体育館・調理室・被服室・家庭経営室・各HR教室 等 ○ 対象 第1学年、第2学年 ○ 実施教科・科目 LHR ○ 内容 管内企業を招き、高校生の進路選択に役立つ情報を得るとともに職業体験を行う。	
連携先	・ジョブカフェ帯広	
工夫している点	・十勝管内企業12社(公務員を含む)が来校し、実演や職業体験ができる十分なスペースを校舎内に確保して実施した。 ・事前アンケートを実施して、最低2社受講できるように設定した。	
得られる効果	・早い段階で生徒が興味をもっている企業・団体を招き、体験することにより、高校生の進路選択に役立つ情報や職業体験を通して進路選択の意識付けができた。	

◆ キャリア教育を推進する取組

取組名	外部講師を活用した社会人マナー講習	
	<目的> ・面接試験への心構えを身に付けさせることにより、各学年に応じた進路の意識付けを行う。	
概要	○ 期日 (3年) 令和4年7月20日(水)・令和5年1月23日(月) 5、6校時 (2年) 令和4年8月23日(火) 5、6校時 (1年) 令和5年3月9日(木) 5、6校時 ○ 場所 本校体育館 ○ 対象 各学年 ○ 実施教科・科目 LHR、課題研究 ○ 内容 面接試験への心構えについて実際の場面を想定した形で実習する。	
連携先	・帯広商工会議所	
工夫している点	・社会人になるに当たって身に付けなければならない基本マナーを、各学年に必要なポイントに絞ってそれぞれ指導した。 ・毎年、同一の講師が担当することで、継続的な指導ができる。	
得られる効果	・各学年に応じた講習を受講することで、段階的に進路への意識付けができた。 ・同一講師による講習のため、講師と生徒との人間関係が構築され、より深い進路指導ができた。	

管内	釧路	学校名	北海道釧路工業高等学校	学科	工業科	全学級数	15
----	----	-----	-------------	----	-----	------	----

◆ 職業理解を深める取組

取組名	工事現場見学会（土木科）	
	<目的> ・実際の工事現場を見学し、建設業の役割及び業務内容を正しく理解する。	
概要	○ 期日 令和4年10月13日（木）8：40～15：20 ○ 場所 北海道横断自動車道（釧路市美濃他） ○ 対象 第1学年（全員） ○ 実施教科・科目 実習 ○ 内容 ・工事現場見学、概要説明 ・最新の測量機器操作体験 ・卒業生講話、ディスカッション	
連携先	・釧路開建建設業人材育成連携会議事務局 （釧路開発建設部、釧路建設業協会、釧路建親会、釧路測量設計業協会）	
工夫している点	・工事現場の他に現場事務所の見学も実施している。 ・最新機器の操作体験及び卒業生や企業の方とのディスカッションを通じて、生徒の興味・関心を高めている。	
得られる効果	・1年生を対象としているため、建設業の役割や職場環境の正しい理解につながり、土木技術者を目指すための意識の向上が見られる。	



◆ キャリア教育を推進する取組

取組名	2級土木施工管理技術検定の合格に向けて（土木科）	
	<目的> ・地元建設業協会の支援を受けながら、2級土木施工管理技術検定第一次検定合格を目指す。	
概要	○ 期日 令和4年4月11日（月）～10月23日（日） ○ 場所 本校、釧路建設業協会 ○ 対象 第3学年（全員） ○ 実施教科・科目 土木施工 ○ 内容 ・授業内容と並行して試験準備を行う。 ・日建学院発行のテキストを用いて試験内容を理解する。 ・釧路建設業協会主催の直前講習会に参加する。	
連携先	・釧路建設業協会	
工夫している点	・生徒の負担を軽減するため、釧路建設協会よりテキスト代と検定料の支援を受けている。 ・試験直前の講習会を試験2週間前に設定し、総まとめを実施している。	
得られる効果	・国家資格の取得を目指すことにより、土木施工の内容を理解するとともに、建設業で働く意識の向上につながっている。	

管内	根室	学校名	北海道別海高等学校	学科	普通科・農業科	全学級数	12
----	----	-----	-----------	----	---------	------	----

◆ 職業理解を深める取組

取組名	べっかい！先生のたまごプロジェクト（教員インターンシップ）
	<目的> ・小中学校でインターンシップを体験し、教員の仕事内容や楽しさ、やりがいなどについて理解を深め、魅力を高めるとともに、「将来、地域（別海）の子どもたちを育てたい！」と考える「先生のたまご」を育てる。
概要	○ 期日 令和4年9月13日（火）～12月6日（金） ○ 場所 別海町内小中学校（生徒の出身学校） ○ 対象 第1学年から第3学年の希望者（1年BSAG（進学を目指す有志グループ）は全員参加） ○ 内容 1年（1日間）：授業参観、生徒との交流、教員との懇談 2年（2日間）：授業参観、学習補助、生徒との交流、教員との懇談 3年（3日間）：授業参観、学習補助、担任体験、放課後の業務参観、教員との懇談
連携先	・根室教育局 ・別海町内小中学校 ・別海町教育委員会
工夫している点	・生徒の出身校で体験することで、児童生徒としての体験と教員側の指導の関連を理解させるとともに、地域に貢献したい気持ちを育てる。 ・1年生では「教員に対する興味や関心を高める」、2年生は「教員の仕事への理解を深め、大学選択などの進路実現に役立てる」、3年生では「教員に向かう態度を高め、大学進学後の充実した大学生活に生かす」といった、学年ごとのねらいを明確にし、効果的な体験とする。 ・事前学習で心構えや礼儀作法を養い、体験後は他の生徒に対し、成果を普及する報告会を実施している。
得られる効果	・北海道及び根室管内における教員の確保を目指す。 ・将来の職業に関しての理解の向上により、学習意欲の向上を図る。 ・地域の方々からの本校及び本校生徒に対する理解を促進する。

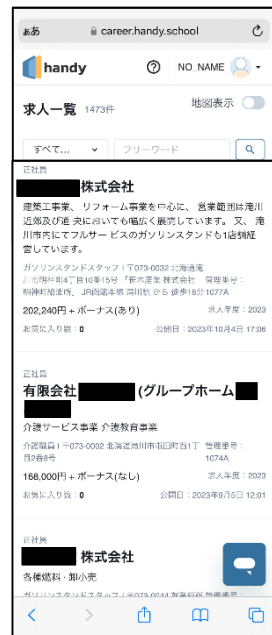
◆ 早期離職防止を目指した取組

取組名	職場訪問、地元企業との懇談会（企業見学・企業との懇談）
	<目的> ・就職を希望するに当たり、地元企業の理解を深める。 ・高校生と企業の相互の認識の違いを解消し、早期離職の防止を図る。
概要	【企業訪問】 ○ 期日 令和5年1月24日（火）13：15～15：05（公欠で参加） ○ 場所 町内企業、役場等 ○ 対象 第1、2学年の就職希望者 【地元企業との懇談会】 ○ 期日 令和5年2月2日（木）15：50～17：30 ○ 場所 体育館 ○ 対象 第1、2学年の就職希望者
連携先	・根室教育局 ・別海町役場商工観光課
工夫している点	・1年生から取り組むことで、早期からの自己啓発に努めるようにする。 ・生徒一人ひとりの希望に沿った所に行けるよう考慮しつつも、希望以外の職種の企業との懇談の場を設けることで、職業に関する視野を広げる。
得られる効果	・早期離職の減少 ・就職に関する意識の向上による、自己の適性の把握 ・地域に対する理解の伸長

管内	空知	学校名	北海道滝川工業高等学校	学科	電子機械科 電気科	全学級数	6
----	----	-----	-------------	----	--------------	------	---

◆ 効率的な進路指導を目指した取組

取組名	生徒が自身の端末で求人票を検索できるシステムを用いた進路指導の取組	
	<目的> ・生徒及び保護者が、時間や使用場所に制限されることなく、学校に届いた求人票を閲覧し、自らの進路を深く考える機会とするため。 ・学校に届いた求人票のデータ化、分類、整理に係る業務負担軽減のため。	
概要	○ 利用サイト 高校生向け求人管理システム Handy 進路指導室 ○ 期 日 令和4年4月～ ○ 対 象 全生徒・保護者・教職員 ○ 取扱説明時間 1年生 4月 入学時のガイダンス 2年生 11月頃 保護者向け進路ガイダンス 及び生徒向け進路ガイダンス 3年生 4月～6月 三者面談で、担任から再度説明 ○ 生徒及び保護者向け説明内容 スマートフォンまたはタブレットから学校に届いた求人票を自宅で生徒と保護者が一緒に閲覧できることを説明 ○ 登録・閲覧方法 1 閲覧希望者は進路指導部にメールアドレスを連絡 2 進路指導部担当者は Handy 進路指導室にメールアドレスを登録 3 Handy 進路指導室より登録したメールアドレスに記載されている本登録へのリンク先にアクセスし、パスワードを入力 4 サイトにアクセスし、ログインすることで、自由に求人票を検索可能	
連携先	ハンディ株式会社 https://handy.school/	
工夫している点	・生徒だけでなく、保護者にも取組内容を理解してもらえるよう、進路説明会で説明を行っている。 ・求人票をスキャナで読みとり、クラウドへアップする際、編集可能なテキストデータに変換している。スキャナによるテキストデータへの変換は年々精度が上がってきているが、記載情報に間違いがないか確認を行っている。大変な作業であるが、入力が正確に行われることで、求人票のデータ検索が容易になる。	
得られる効果	・今までは、届いた求人票のコピー1部を教室に掲示して閲覧していたが、本システムを導入したことで、生徒は場所や時間を問わず、自由に閲覧できるようになった。 ・生徒と保護者、保護者と教員の進路面談でのやり取りが円滑になった。 ・希望の職種や勤務地を入力して検索が可能であるため、生徒の求める条件にアクセスすることが容易になった。 ・進路指導部員は、本システムからデータを取り出すことができるため、業務負担軽減に大きく貢献している。	



【求人一覧の画面】

管内	石狩	学校名	北海道札幌工業高等学校	学科	工業科	全学級数	24
----	----	-----	-------------	----	-----	------	----

◆ 保護者に向けた取組

取組名	保護者向け建設現場見学会
	<目的> ・建設業の施工現場等の見学を通じて、高校生の保護者に建設産業を広く理解してもらい、将来を担う若者の入職の促進を図る。
概要	○ 期 日 令和5年9月29日（金） ○ 見学場所 道央圏連絡道路 南幌町 南13線改良工事 ○ 対 象 札幌工業高等学校 保護者 ○ 内 容 ・建設現場見学 ・ICT、IoT 施工機器見学及び体験 ・先輩技術者（札幌工業高校卒業者）との意見交換  【技術者との意見交換会の様子】  【ドローン体験の様子】  【建機シミュレーター体験の様子】  【ICT施工 見学の様子】
連携先	・北海道開発局札幌開発建設部 ・一般社団法人札幌建設業協会 ・岩田地崎建設株式会社
工夫している点	・建設業への理解と関心を深めるため、普段立ち入ることのできない建設現場で、実際に見学や体験をしてもらう機会を設けた。 ・建設業は、土木・建築科だけではなく全ての学科が関わるため、見学会の参加対象者は、全ての科の保護者とした。
得られる効果	・建設業の最新技術を見学・体験することで、保護者の建設産業への理解と関心を深めることができた。 ・将来を担う若者の建設産業への入職促進を図ることができた。

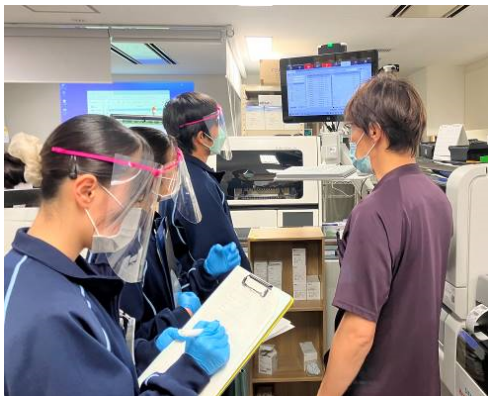
管内	渡島	学校名	北海道大野農業高等学校	学科	農業科学科	全学級数	9
----	----	-----	-------------	----	-------	------	---

◆ 職業理解を深める取組

取組名	実習生産物の活用による6次産業化の学習									
	<目的> ・農業高校の特徴を生かし、生乳の生産から、ヨーグルトの製造、販売までを体系的に学習し、6次産業化への理解を深める。 ・マーケティングの学習において、eコマース・ふるさと納税の基礎・基本を理解するとともに、販売形態を明確化したマーケティングを実践する。									
概要	○ 対象 食品科学科第1学年～第3学年 ○ 実施科目（学年）									
	<table><tr><th>内容</th><th>科目（学年）</th></tr><tr><td>1次産業の内容 （生乳生産）</td><td>総合実習（1年） 課題研究（2・3年） 畜産環境（3年）</td></tr><tr><td>2次産業の内容 （ヨーグルト製造）</td><td>食品製造（2・3年） 課題研究（2・3年）</td></tr><tr><td>3次産業の内容 （ヨーグルト販売）</td><td>食品製造（2・3年） 課題研究（2・3年）</td></tr></table>	内容	科目（学年）	1次産業の内容 （生乳生産）	総合実習（1年） 課題研究（2・3年） 畜産環境（3年）	2次産業の内容 （ヨーグルト製造）	食品製造（2・3年） 課題研究（2・3年）	3次産業の内容 （ヨーグルト販売）	食品製造（2・3年） 課題研究（2・3年）	
	内容	科目（学年）								
	1次産業の内容 （生乳生産）	総合実習（1年） 課題研究（2・3年） 畜産環境（3年）								
2次産業の内容 （ヨーグルト製造）	食品製造（2・3年） 課題研究（2・3年）									
3次産業の内容 （ヨーグルト販売）	食品製造（2・3年） 課題研究（2・3年）									
【生乳生産の学習】										
	○ 内 容 ・本校で飼育している乳牛から搾った生乳を使用し、食品製造実習で「大農ヨーグルト（ハードタイプヨーグルト）」を製造。 ・製造したヨーグルトは、校地内のアンテナショップ（農産物直売所）で定期的に販売するとともに、地域のイベント等での販売会で販売するなど、6次産業化モデルを実践。 ・対面販売の実習のほか、eコマースを活用した販売についての学習や、実習生産物で道南地域を活性化する取組を実施。									
										
	【ヨーグルトの製造】	【地域イベントでの販売】								
連携先	北斗市役所・一般社団法人北海道中小企業家同友会函館支部・ローカルレボリューション・函館コミュニティプラザGスクエア									
工夫している点	・学校の施設を活用して6次産業化が学べるよう、教材を設定している。 ・地域の企業等と連携し、地域と一体となった教育実践を提案している。									
得られる効果	・農業経営の在り方や多様な販売方法について学習を深めることができる。 ・地域課題を理解し、地域の持続的な発展を支える人材の育成につながる。									

管内	上川	学校名	北海道富良野高等学校	学科	普通科	全学級数	11
----	----	-----	------------	----	-----	------	----

◆ 職業理解を深める取組

取組名	地域の経済団体と連携したインターンシップ	
	<目的> ・社会経験、職業体験を通して職業観の醸成を図るとともに、地域の教育力を生かした異年代との交流から社会性の発達を促す。 ・基礎的・汎用的能力を育成し、社会とのつながりを意識させる中で視野を広げ、学習意欲と進路選択への積極性の向上につなげる。	
概要	○ 期日 令和5年10月20日（金） 9：00～16：00 ○ 場所 富良野市内の公共機関や事業所など（計39カ所） ○ 対象 1年次全員 ○ 実施時間 総合的な探究の時間 ○ 内容 公共機関や事業所の協力のもと、見学・作業などの就業体験を実施することに加え、「働く意義」や「仕事のやりがい」などについて生徒が職員や従業員に取材する時間を設定した。	
	 【病院で職員に取材する様子】	 【建設会社で作業を体験する様子】
連携先	・富良野市商工会議所 ・インターンシップ先（市役所、小中学校、図書館、保育所、消防署、自衛隊、病院、歯科医院、介護事業所、新聞社、印刷会社、建設会社、設備工事会社、電気設備会社、廃棄物処理業者、運送会社、ホテル、美容室、製菓店、生花店、農園、画家、演劇、スポーツトレーナー 他）	
工夫している点	・インターンシップ先の確保について、富良野市商工会議所からの協力を得て、富良野市内の各事業所に依頼した。 ・生徒は取材中、メモや写真を撮り、探究した内容を年次の報告会（11月）や探究活動の全体発表会（12月）で発表した。	
得られる効果	・地域の職業人から働くことの意義や、やりがい、その職業に就くまでの人生について学び、自分自身のライフプランを考えることができる。	

管内	オホーツク	学校名	北海道北見工業高等学校	学科	電気科	全学級数	9
----	-------	-----	-------------	----	-----	------	---

取組名	半導体に関する出前講座
	<目的> ・半導体産業の更なる振興や次世代半導体に関わる人材の育成の在り方を理解する。 ・次世代半導体の原理や役割等について理解を深め、職業意識の醸成を図るとともに将来の進路活動の一助とする。
概要	○ 期日 令和5年11月8日(水) 10:05~10:55 ○ 場所 視聴覚室 ○ 対象 1年電気科 18名 2年電気科 20名 ○ 実施教科・科目 1年電気科 電気回路 2年電気科 電子回路 ○ 内容 ・半導体とは スマートフォンやタブレットなどの身近にある電化製品は半導体が利用されている。そのため、半導体がどのように製造され、半導体が果たす役割とは何かを理解する。 ・半導体関連産業の振興 北海道千歳市に最先端の半導体を製造するRapidus（ラピダス）株式会社が進出し、次世代半導体の開発や製造を目指すプロジェクトが進む中、工業高校生として、自らの進路選択について考察する。 ・半導体関連産業の現状や将来の展望 半導体関連産業が千歳市に進出することによる経済効果や北海道各地に及ぼす将来的な変化や展望について理解する。 また、半導体産業の担い手として必要なスキル等について学ぶ。
	 【出前講座の様子】
連携先	経済部産業振興局次世代半導体戦略室
工夫している点	・出前講座の受講前に、電気に関する専門科目において、半導体の性質や役割、社会生活の中で半導体が欠かせない製品であることを理解させる。 ・出前講座の受講後に、振り返りを行い、自らの進路について考察する。
得られる効果	・半導体産業が地域社会に与える効果を理解することができた。 ・次世代半導体の原理や役割等についての理解を深め、半導体産業の担い手となる意識を高揚させることができた。

管内	石狩	学校名	北海道札幌西高等学校	学科	普通科	全学級数	24
----	----	-----	------------	----	-----	------	----

◆キャリア教育を推進する取組

取組名	同窓会企画のキャリア形成講演「NO WEST NO LIFE」 <目的> ・キャリア形成において、「同窓生」というヒューマンリソースを活用し、同窓生から在校生へのキャリア伝達の機会、本校卒業後のネットワーク形成の機会の一助とする。
概要	○ 期日 (第1回) 令和6年6月21日(金) 15:45~17:00 (第2回) 令和6年10月4日(金) 15:45~17:00 ○ 場所 本校視聴覚室 ○ 対象 (第1回) 全学年希望生徒 (第2回) 1・2学年希望生徒 ○ 内容 テーマ「今を、未来を、どう生きますか?」として、各回3名の同窓生が来校し、講話やパネルディスカッションを実施 (第1回) ・(ハウスメーカー勤務者) 大学再入学、就職に至るまでの経歴や、現在の技術開発・研究、AIやデータ分析に係る仕事について ・(子育て支援センター勤務者) 子育てをしながら働くこと、人脈が広がること、国際交流事業や地域社会との関わり方について ・(医療従事者) 海外留学、サラリーマン時代のコミュニケーション力向上、起業に至るまで、医療ツーリズムについて (第2回) ・(医師) 経歴、JICA カンボジア保健省アドバイザーとして勤務する現状等について ※現地カンボジアからオンラインでライブ中継 ・(IT企業勤務者) 高校の文理選択、受験、大学・大学院時代、会社でのスピンアウト、転職等の経歴、仕事と趣味の両立について ・(大学教授) 現在勤務する大学に至るまでの経歴、進路(大学)選択を考える際のポイント、大学入試の実態や大卒就職の現状について  
連携先	・本校同窓会(輔仁会) ※幹事期イベント部
工夫している点	・講師選定や日程調整、資料作成等は、学校からの要望や意見を踏まえ、同窓会幹事期イベント部がほぼ全て行うため、教員負担は少ない。
得られる効果	・本校の同窓生で各方面の一線で活躍されている方からの講話のため、生徒の進路実現へのモチベーション向上の効果がある。 ・本校の同窓生という点で、初対面の社会人ではあるが、質問がしやすい。

管内	石狩	学校名	北海道札幌丘珠高等学校	学科	普通科	全学級数	21
----	----	-----	-------------	----	-----	------	----

◆ 早期離職防止を目指した取組

取組名	「しごとびと」を招いたキャリア座談会 <目的> 地域の事業所等で働く若手社員との懇談を通して、働くことの意義や進路決定に向けた取組について学び、高校卒業後の進路選択や社会における自身の在り方を考える契機とする。
概要	○ 期日 令和6年9月10日（火） 13:25～15:15 ○ 場所 本校体育館 ○ 対象 第2学年 ○ 実施教科・科目 総合的な探究の時間 ○ 内容 - 事前学習として「円滑なコミュニケーション」や「働くこと」をテーマとした講演を実施。 - 丘珠地区所在の企業で就労する20代～30代の社員と生徒による座談会を実施。 ※講師1名に対し生徒10名程度のグループが車座となり、最初に講師による話を聞き、その後、生徒との質疑応答を行う。 丘珠地区『しごとびと』によるおしごとキャリア座談会 年 組 番 名前: 前 半 後 半 話を聞く上の大切なポイント 聞いた話が「素晴らしい人生」ではない。 聞いた話は自分の人生の「参考」にして、自分なりに活かしてみよう。 相手の関心に関心を持つ。 聞いた話をメモしよう。 ・名前 ・会社名/大学名 ・どのような人生を歩んできた？ ・どんな仕事をしている？ ・何がきっかけで変化があった？ ・どんな取り組みをしている？ ・上記の中で学んだこと・気づいたことは？ ・聞いてみたいことは（気になったこと）？ ・自分の中でやってみたいと思ったことは？
連携先	- 株式会社すみか - 丘珠地区事業所等
工夫している点	- 生徒と年齢の近い講師の、就職するまでの経緯、高校時代の活動や進路実現に向けた考えを聞くこと。 - 現時点で高校生が何を考えて行動するべきか、具体的なアドバイスを受けること。 - 直接のやりとりから、働くことの意義を学ぶこと。
得られる効果	- 漠然とした進路目標に対し、さまざまな職種の内容を理解し、進路の選択肢を広げられること。 - 生徒が現時点で抱えている将来に対する不安への対処方法や、興味の具現化を図ることができること。

管内	胆振	学校名	北海道室蘭工業高等学校	学科	電気科	全学級数	12
----	----	-----	-------------	----	-----	------	----

◆ 職業理解を深める取組

取組名	洋上風力発電への学びから地域の発電産業について考える <目的> ・ 室蘭市が取り組んでいる最新の洋上風力発電について学び、地域の発電産業について考える
概要	○ 期日 令和6年7月10日（水） 13:40 ~ 15:10 ○ 場所 日本工学院北海道専門学校 ○ 対象 第2学年（専門学校生と合同開催） ○ 実施教科・科目 工業・電気回路、電気機器 ○ 内容 ・ 洋上風力発電への取組について ・ なぜ室蘭市で洋上風力なのか ・ 室蘭港のポテンシャルについて ・ 洋上風力関連事業推進協議会（MOPA）について  
連携先	・ 日本工学院北海道専門学校 ・ 洋上風力関連事業推進協議会（MOPA） 本取組はM-Con（エムコン）連携の一つとして行われたもの ※M-Con（エムコン）とは Muroran Technical Consortium を省略したもの 本校を中心とした上級学校・保護者・地域・自治体・企業・関係団体などとの共同事業体（Consortium）のこと。
工夫している点	・ 本講話を通して、発電産業について学ぶとともに、室蘭市の鉄鋼業が発電産業に貢献していることを知り、地元の産業についての理解をさらに深める機会とする。
得られる効果	・ 生徒が室蘭市の基幹産業である鉄鋼業についての理解を深める一助となっている。 ・ 洋上風力発電の最新の取組について学ぶことで、地元の産業の課題について考え、今後の課題研究に生かすことができる。

管内	胆振	学校名	北海道苫小牧総合経済高等学校	学科	流通経済科	全学級数	9
----	----	-----	----------------	----	-------	------	---

◆ 職業理解を深める取組

取組名	地域観光を学ぶ
	<目的> ・苫小牧市の観光ビジネスについて、外部講師から学ぶことで、観光業の現状や今後の課題等についての理解を深めるとともに、生徒自身が観光ビジネスの未来について主体的に調べ、考え、発信するための糧とする。
概要	○ 期日 令和6年7月2日（火） 3～4校時 ○ 場所 本校 ○ 対象 第3学年 ○ 実施教科・科目 商業・観光ビジネス ○ 内容 ・苫小牧市の観光の現状と課題 ・今後観光業に求められること ・ニューツーリズムによる地域活性化 ・体験型コンテンツの重要性について
連携先	・苫小牧観光協会 ・苫小牧市観光振興課
工夫している点	・これまでの科目「観光ビジネス」の授業での学びをもとに、外部講師からの講話や講師への質疑応答を行うことで、現在直面している苫小牧市の観光業の課題をより深く理解する。
得られる効果	・「苫小牧市は登別温泉等の観光地へ行くための『通過型』のまち」と言われる苫小牧市の観光業における課題について、生徒が講話をもとに、自ら考え、探究学習を行う一助となっている。

管内	根室	学校名	北海道根室高等学校	学科	普通科・商業科	全学級数	15
----	----	-----	-----------	----	---------	------	----

◆ 早期離職防止を目指した取組

取組名	地元企業の事業所訪問 <目的> ・就職を希望する第3学年の生徒が、市内の企業や事業所の訪問を通し、会社等の雰囲気や印象、従業員の働く姿や活気などを体験的に学ぶことにより、就職することへの意識の高揚を図る。
概要	○ 期日 令和6年7月22日(月) 13:00~16:00 ○ 場所 市内の企業や事業所 ○ 対象 第3学年 就職希望者 ○ 内容 ・32名の生徒が4つのグループに分かれ、それぞれ5、6箇所を訪問した。 ・各事業所等までの移動はバスを利用し、教員が各グループを引率するとともに、連携先である根室市雇用対策協議会のメンバーがそれぞれ同行した。    生徒のアンケートから、「実際の仕事を見ることで、自分が働く姿を想像することができた」、「初めて見る職種を知ることができた」、「自分の将来像が明確になり、就職することにやる気が出た」等、肯定的な感想が見られた。
連携先	・根室市雇用対策協議会 ・市内の各事業所等(22箇所)
工夫している点	・参加する事業所等は、令和7年度に高卒採用の予定があるところとした。 ・事前に根室市の担当職員との打合せにて目的を共有するとともに、学校が行った生徒の事前アンケートを基に、訪問先のコースを作成した。 ・公務員希望者も「地元の企業を知る」という観点から参加することとした。 ・外部講師による「応募前の職場見学のポイント」講座や、企業の求人票を資料とした質問の準備など、事前学習の充実に努めた。 ・事後アンケートを実施することにより、生徒が事業所訪問を振り返るとともに、市役所及び各事業所へのフィードバックに活用した。
得られる効果	・令和7年度に高卒採用の予定がある地元企業等を実際に訪問することにより、生徒は就職に対する理解が深まり、就職活動への意欲が喚起された。 ・応募前の職場見学へ参加する生徒数が大幅に増加した。 (令和6年度は29社延べ37名。令和5年度は5社延べ5名) ・市内で就職する生徒の割合が上昇した。 (令和6年度は82%、令和5年度：74%、令和4年度：62%)

管内	根室	学校名	北海道中標津高等学校	学科	普通科・総合ビジネス科	全学級数	13
----	----	-----	------------	----	-------------	------	----

◆ 職業理解を深める取組

取組名	普通科における地元建設業の現場見学
	<目的> ・地域における建設業界の現状と職業について知ることを通し、地域への愛着心を育むとともに、社会人との交流による体験的な学びにより、望ましい職業観や勤労観を養う。
概要	○ 期日 令和6年10月12日（土） ○ 場所 中標津町合同庁舎建設現場 ○ 対象 全学年（希望者） ○ 内容 ・建設中の工事現場の見学 ・重機の操作体験 ・建設業界で働く社会人による講話 ・事務所見学    中標津建設業協会が主催している本事業は、建設業に就く若者が減少していることを背景に、担い手の確保を目的として、5年ほど前から毎年開催されている。 本校は毎年、多くの生徒が参加し、建設業界の現状と職業について知ることを通して、建設業が地域に必要な仕事であることを学び、「地域への愛着心」を育んでいる。 また、参加した生徒からは、「休日がしっかり取れることや給料が高めであることが分かり、就職先の候補の一つとして考えたい」という感想が挙げられた。
連携先	・中標津建設業協会
工夫している点	・生徒に地域社会のよさを実感させるとともに、「学校と地域社会は密接につながっていること」、「学校での学びは未来の社会で活躍する準備であるということ」などに気付かせられるような内容とした。
得られる効果	・働くことを想像できない生徒が、見学を通して実際の仕事内容を知ることにより、職業理解や今後の就職活動につなげることができた。 ・地域の現状を体験的に学び、本校での学びが社会と密接につながっていることを考えることにより、自ら考え行動したり、大人を含む他者と対話したり、新たなことに挑戦したりする資質・能力を育成することができた。

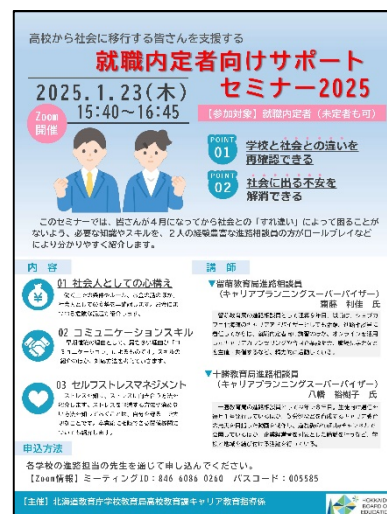
管内	渡島教育局
----	-------

取組名	令和5年度「高校×企業との交流会 in 渡島」
	<目的> ・高校の進路指導教諭と渡島管内企業経営者との相互理解を深め、生徒の就職・採用活動に資する関係を構築する。
概要	○ 期日 令和6年2月7日（水）13：00～16：30 ○ 場所 北海道渡島合同庁舎3階講堂 ○ 参加校 管内全ての公立高等学校、北斗高等支援学校、函館高等支援学校 ○ 人数 教員23名（高校19名、特別支援学校4名）、企業関係者24名 ○ 内容 - 企業の経営者と各学校の教諭を5グループに分け、次の流れで意見交換を5クール実施。1クール終わるごとに、教員のグループが移動する。 (1) 名刺交換（5分） (2) 企業→高校（15分） 人材不足問題に対する企業での取組、業種の現状、高校への要望等 (3) 高校→企業（10分） 生徒の特色、企業への要望など ○ 参加者の感想 ・教員の進路指導力を高める観点では、企業の考えを生徒に還元できるよい機会であり、もっと多くの教員が参加すべき取組である。 ・企業が気になっていることを知ることができてよかった。また、高校に求められているものの具体が分かってよかった。 ・今後も同じような企業と学校が交流する機会があるとありがたい。 【交流会の様子】
連携先	渡島総合振興局 【連携の経緯】北海道中小企業家同友会函館支部から渡島総合振興局あて、「新規高卒生を採用したいが、学校での就職指導がどのように進められているかわからない」との相談があった。このことから、渡島総合振興局と渡島教育局が連携し、高校と企業をマッチングする機会を設定し、お互いの相互理解を進めるために、本交流会が企画された。
工夫している点	・企業から高校に対する質問を事前に確認し、各業種において多く挙げられた質問項目に対して、教員が答えるという形式を取った。
得られる効果	・限られた時間ではあったが、直接会社を訪問しなくとも、学校と企業が一堂に会し、採用や早期離職についての意見交流を行うことができた。 ・求人や採用について、企業と学校の認識のずれ（求人票を見る観点等）を相互に確認することができた。

管内	留萌教育局
----	-------

取組名	じもと×しごと発見フェア（留萌振興局商工労働観光課との連携）
	<目的> ・生徒や進路指導教員を対象に、農業分野・水産物加工分野など、留萌管内において求人が多い企業・業種に対する理解促進を図るための職場見学会を実施し、職業選択の幅を広げるなどキャリア教育を推進するとともに就職支援の充実を図る。
概要	○ 期 日 令和5年11月6日（月） 9時20分～14時25分 ○ 会 場 るもい農業協同組合、（株）森田自動車工業 （株）加藤水産、北海道開発局（（株）堀田組 小平町現場） ○ 参加校 Aコース 遠別農業高校、天塩高校 Bコース 羽幌高校、苫前商業高校 Cコース 留萌高校 ○ 人 数 51名（生徒44名、教員7名） ○ 内 容 ・高校1・2年生を対象に、留萌管内で求人が多い4業種の現場を、3つのグループに分かれてバスで移動し、見学会を実施した。 ・各事業所では、担当者からの丁寧な説明や現場見学等が行われ、職業理解が深まった。 【水産加工作業見学】 【建築土木DXを活用した作業の説明】 【自動車整備についての説明】
連携先	・留萌振興局産業振興部商工労働観光課 ・北海道開発局北海道開発建設部
工夫している点	・留萌の中心産業を担う企業を複数種選定することで、生徒が様々な業種に触れ、職業理解が一層深まるよう工夫した。 ・生徒の興味・関心が高まるよう、企業先と綿密に事前打合せを行い、企業の特色を活かした臨場感のある「現場見学」ができるよう工夫した。
得られる効果	・生徒は、本取組によって企業が人手不足等の対策として導入しているDX化が推進していることを理解するとともに、その職業に対する先入観等が大きく変容し、新たな興味・関心が生まれた。

取 組 名	就職内定者サポートセミナー <目的> 新規高卒者における早期離職の減少に向け、就職を予定している生徒を対象にしたセミナーを行うことで、企業等で必要とされる知識やスキルに加え、卒業後に相談できる関係機関等について理解を深める。
概 要	○ 期日 令和7年1月23日(木) 15:40~16:45 ○ 場所 各学校(オンライン開催) ○ 参加校及び人数 33校 252名 ○ 講師 ・留萌教育局キャリアプランニングスーパーバイザー 齋藤 利佳 ・十勝教育局キャリアプランニングスーパーバイザー 八幡 裕樹子 ○ 内容 ①社会人としての心構え 労働条件通知書や就業規則、給料明細の見方、給料から差し引かれる税金、クレジットカードの利用上の注意、高校生と社会人の違いなど ②コミュニケーションスキル 入社後を見据え、ホウ・レン・ソウの徹底やクッション言葉の使用、アサーティブなコミュニケーション、場面を想定した対応など ③セルフストレスマネジメント ストレスの要因や身体・心理・行動面のストレス反応、ストレスの軽減方法、ストレスを溜めない考え方、ストレスとの付き合い方など ④卒業後に相談できる関係機関 「労働相談ホットライン」、「みんなの人権110番」、各地の公共職業安定所(ハローワーク)の紹介
連 携 先	留萌教育局・十勝教育局
工 夫 し て い る 点	・生徒が関心をもって話が聞けるよう、一方的な講義形式ではなく、講師二人による対話形式で、セミナーを開催した。 ・生徒が参加しやすいよう、オンラインで開催し、時間も放課後の時間帯となるよう設定した。
得 ら れ る 効 果	・職場のルールや労働条件、給料について理解が深まり、社会人としての責任を自覚し、就業に向けた準備を行うことができる。 ・早期離職の要因の一つであるコミュニケーションについて理解が深まるとともに、入社後、社員との円滑な関係づくりにつながる。



●多様な生徒に対応した就職指導の事例

多様な生徒に対応するため、関係機関と連携して取り組むなどして対応した事例を紹介します。

生徒の状況	学校や関係機関との連携
自閉症と診断され、自分の考えをうまく表現できない生徒	学校が保護者の了承のもと、地域若者サポートステーションと連携し、担当者に何度も来校いただき、支援を受けながら就職活動を行い、内定を得た。
I型糖尿病と診断され、体調面に不安を感じる生徒	地域若者サポートステーションと連携を図り、体調面からフルタイムではない仕事を選択、受験し、内定を得た。
クローン病を患っているが、一般枠での採用を希望し、就職活動を行った生徒	就職試験を数回受験したが、内定を得られなかったため、学費支援制度を活用して専門学校への進学を選択した。
就職先を決定できない生徒	生徒が教育局のCPSVと面談し、業種や企業の理解を深めるとともに、正規雇用と非正規雇用の違いを学んだ。 その結果、前向きに就職活動に取り組むことができ、自分で希望する企業を選択することができた。
生活保護受給世帯の生徒	生徒が教育局のCPSVとの面談で、就職後の家計状況を想定することができ、寮や社宅がある企業を選択し、内定を得た。
発達障害と診断され、場面緘黙の傾向も強い生徒	保護者が外部機関との連携や進学等を拒んだため、学校が保護者の了承のもと直接企業と連携し、複数回の面談を実施した。 その結果、生徒が当該企業を見学し、企業も複数回生徒の状況を確認したことで、内定を得ることができた。

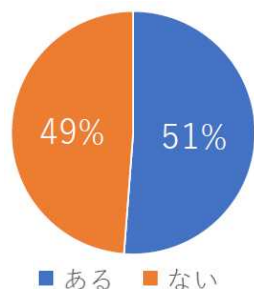
高校生の早期離職に関わる好事例について

(令和2年度「就職指導の改善に関する研究」指定校報告書まとめ)

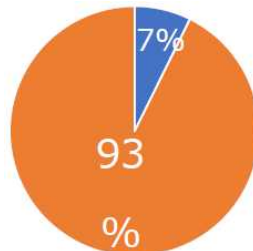
1 高校を卒業して就職後3年以内の就業者に対して、就業状況の調査を行ったところ、次のような事例があった。

[伊達高校の過去3年間の就職者138名を対象(H29～R1年度卒業生)にアンケートを実施したもの]

◆離職を考えた率◆



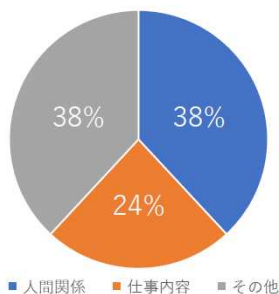
◆離職率◆



【分析】

離職したいと思ったことはあるが、実際には継続している生徒が多い。

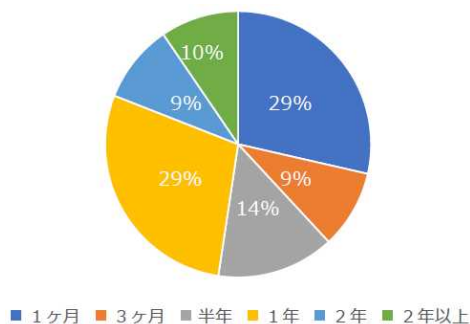
◆離職を考えた理由◆



【その他の理由】

- ・給料が少ない
- ・働くこと自体が嫌い
- ・環境の変化（早朝出勤、夜勤）
- ・残業時間の増加
- ・休憩時間がない又は短い
- ・退勤時間にすぐ帰ると怒られる

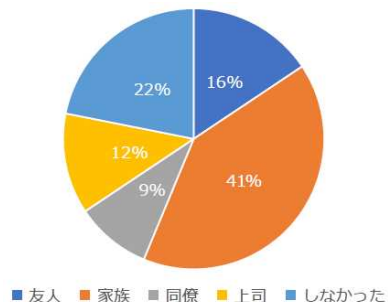
◆離職を考えた時期◆



【分析】

- ・実際に離職した生徒は、入社後半年から1年の間に集中していた。
- ・入社後すぐ及び1年後に辞めようと思う卒業生が多い。
- ・1年以上続けてから離職しようと思った理由は、収入面や他にやりたいことが見つかったことなどが多い。

◆離職を考えたときの相談者◆



【分析】

- ・実際に離職した卒業生の多くは、相談相手が家族しかないケースが多く、職場に相談できる相手がいない。

◆離職を考えたが思いとどまった理由◆

- ・相談することで気持ちが楽になり、もう少し頑張ってみようと思った。
- ・上司に相談したところ異動することができ、職場環境が改善された。
- ・上司から期待されていることが分かった。
- ・「あなたの顔を見るためにきた」と言ってくれる顧客が増えたので、頑張ろうと思った。
- ・嫌な先輩に負けた気がして悔しかった。
- ・上司が優しく悩みを聞いてくれた。

◆離職を考えたことがない卒業生の理由◆

- ・覚えることが多いが、多くの顧客がおり、やりがいを感じる。新型コロナウイルス感染症で臨時休業になっても、給料が支払われた。
- ・一から仕事を丁寧に教えてくれたから、その期待に応えたい。
- ・体力面では大変だが、人間関係がよく、やりがいを感じて働いている。
- ・社員を大事にしてくれている会社だと感じる。
- ・上司や先輩が優しく、楽しい職場であり、新しいことを覚えるのが楽しい。

◆離職者が少ない条件とは◆

- ・上司との良好な関係を築けているか。
- ・職場に相談相手がいる卒業生は、離職者が少ない。
- ・相談相手がいらない又は家族のみである卒業生は、離職者が多い。
- ・職場内での人間関係の構築ができるかどうか。

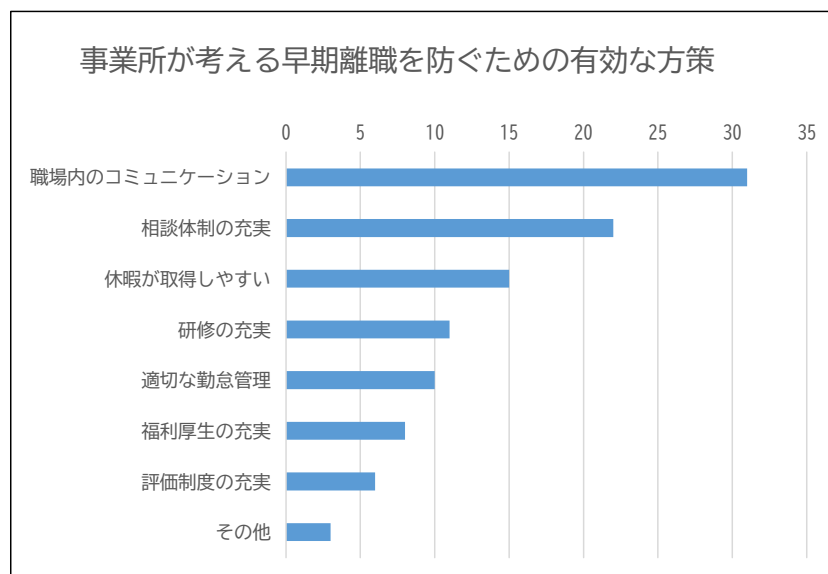
◆早期離職を防ぐために◆

- ・職場でよい人間関係を構築する必要がある。
- ・ワークショップなどを授業で積極的に取り入れ、コミュニケーション能力や協調性、協働意識などの資質を高める指導を増やしていく必要がある。

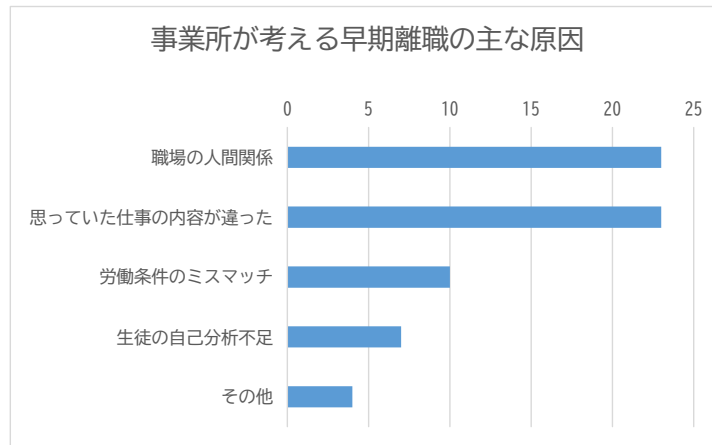
2 離職の実態や課題等について、事業所にアンケートを実施したところ、次のような事例があった。

〔白糠高校の卒業生が過去3年間に就職した事業所にアンケートを発送し、回答があった35社の回答をまとめたもの〕

◆早期離職を防ぐための方策として有効なもの（複数回答可）◆



◆早期離職の主な原因として考えられるもの（複数回答可）◆



◆新規高卒者への対応で気を付けていること◆

- ・言葉遣いなど、基本的なことから教育をしている。
- ・話しやすい雰囲気心を掛けて怒らない。
- ・入社して1～2か月は体調を崩す者が多いので気を配っている。
- ・相談出来る体制を設け、コミュニケーションをとれるようにしている。
- ・人間関係を築くためのコミュニケーション、新入社員フォローアップ研修、事業所の労働環境改善、勤怠管理等を充実させている。
- ・企業が定期的に社員の状態を把握し、よりよい環境づくりをしている。
- ・ミスマッチを防ぐため、多くの情報を開示するようにしている。
- ・社会人となった不安を解消するために声かけを意識し、一人で悩まないように配慮し、何でも相談してもらえように、コミュニケーションを図るように心掛けている。
- ・新入社員の気持ちに寄り添い、不安を抱えさせないようにして、個人の力を最大限に発揮できるように指導している。
- ・先輩からの声かけ、安全教育、一つ一つを丁寧に説明するとともに、新入写真に対する指導方針についてミーティングをしている。
- ・無理せず仕事に慣れてもらうようサポートしている。
- ・メンターを配置し、コミュニケーションを柱とした職場雰囲気の向上に努めている。

◆新規高卒者の対応で困っていること◆

- ・精神的な弱さのある新規高卒者が多く感じる。
- ・せっかく仕事を覚えても、すぐに辞めてしまう。
- ・挨拶や接遇などの仕事に対する姿勢が不足しており、教育が大変である。
- ・社会人としての自覚が足りない。何事にも興味が乏しく感じる。
- ・何を考えているのか分からないことがある。
- ・進路選択に対する自主性が乏しいのか、業界における仕事等を理解せずに入社する人が一定数存在する。
- ・事業所側の問題だが、身近な先輩職員が日々の業務に追われ、本人の悩みに気付いて、余裕をもって話を聞く時間がとれず、適切なアドバイスができていないと感じる。
- ・新規高卒者は仕事で悩むとすぐに退職を決断してしまう傾向があるので、早期にフォローできるように目配りしている。
- ・コミュニケーションがとれなく、言葉のキャッチボールができない。
- ・個人主義の者が多く、組織に馴染むまで時間がかかる傾向がある。
- ・意思表示が苦手（研修での発言や指示などを理解しているかなど）、自分からコミュニケーションをとれない、仕事に対して責任感が希薄（すぐに辞めてもいいだろうなど）である。
- ・困っていること、悩んでいることがあっても発信しない。
- ・自分の意見など、自己表現が苦手な若者が多くなり、本人の気持ちに共感することが難しい上、世代間の格差が急激に広がる傾向があり、本人のプライベート領域の見極めが難しい。
- ・全員が新入社員を大切にしよう、職場の雰囲気を明るくしようという気持ちをもっている。

- ・高卒者の新入社員プログラムを用いて、業務内容が進みすぎたり、過剰になったりしないように進めている。
- ・業界の若手職員と意見交換会を行っている。
- ・仕事を教える時は順序立てて説明する。「これくらい言わなくてもできるだろう、分かるだろう」は間違いである。
- ・社会人としての心構えを自覚してもらうべく、さりげなく促しアドバイスしている。
- ・積極的なコミュニケーションに重点をおき、新卒者の認識や価値観を共有し、行動の基となる考えを理解し、心身の健康状態を把握すること。

◆新規高卒者に身に付けてほしい力◆

- ・関連会社や取引先の方がいてこそ、仕事が完成する。自社だけでは完成しないことを知ってほしい。
- ・主体的に考えて行動する力を身に付けてほしい。
- ・自分自身の意見をはっきり発信できる能力と、それに物怖じしない胆力。
- ・仕事に明るく元気に取り組む姿勢。
- ・うそやごまかしをせず、就職面接では苦手なことは正直に話してほしい。面接で迷いながらも正直に答えていた人は今も継続して働いている。
- ・積極的に仕事に取り組む姿勢、分からないことを聞く力。遠慮しないでほしい。仕事に対する責任感、自分の力で問題を解決する力。ただ、仕事をして給料をもらうだけではなく、生きる目的やライフスタイルを確立してほしい。
- ・パソコンのタイピングスキル。漢字のスキル（特に、部首名は顧客の名前を聴取する際に役立つ）。
- ・人と関わってコミュニケーションをとること（アルバイトやボランティア等）
- ・電話応対等の社会常識やマナー。
- ・1年目は大変だったが、3年目になると仕事を覚えた。継続することが大切である。
- ・人間関係をつくる力を身に付けてほしい。先輩に対する気配りができて機転が利く体育会系の生徒は減った。楽しいことや自分の可能性を見つけてほしい。
- ・現在の教育プログラムにおいて、プレゼンやグループディスカッションに対して熱心に取り組んでおり、実際の業務においても活用されているので継続をお願いしたい。
- ・忍耐力、鈍感力、働く前の心構え。挨拶、返事の習慣。
- ・社会人基礎力やソーシャルスキルの力。
- ・積極的に仕事を覚えようとする姿勢。向上心。
- ・コミュニケーション能力、自分の考えていることを伝えられる能力。
- ・幅広い対人コミュニケーション能力、自身の意見や意思を表現する力、理解力、吸収力。

◆高校で必要だと思う指導や取組◆

- ・働くということ、給料をもらうということの意味
- ・挨拶や一般常識（マナー）
- ・人間関係形成力、自己管理能力
- ・自己承認力、自己肯定感が高まるような指導
- ・目の前のことから逃げない、楽な方へ逃げない考え方
- ・仕事内容と本人の適性のミスマッチで早期に離職する者がいるので、具体的な仕事内容をイメージさせるなどのアドバイス
- ・道徳、人間性の教育及び働く意味、心構えなど
- ・正社員として働くことのメリット
- ・クラスの誰とでもコミュニケーションをとれること
- ・発声練習（大きな声をだすことを恥ずかしいと感じる方も多い）
- ・外部との通話練習（誰の電話か分からない受電をすることで、対外的なスキルの重要性に気付くため）
- ・仕事は遊びの延長でないこと、戦力の一人として雇用される意味
- ・学校内外、初見の方へ自分から積極的に挨拶すること
- ・自己理解、コミュニケーションの基本などを伝え、必要ならば地域資源を活用すること

- ・職種に対する理解を深めるため就職先への見学
- ・十分な業務紹介の機会を設けて、多くの職業人から「生の声」を聞かせることで、生徒の希望職種と実際の仕事とのミスマッチを減らし、生徒の視野と選択肢を広げる取組

3 新入社員が身に付けている能力について、卒業生と事業所にアンケート調査をしたところ、次のような事例があった。

〔余市紅志高校が早期離職の改善の取組として、令和元年度の卒業生16名及び就職先の事業所にアンケートを実施し、回答をまとめたもの〕

◆概要◆

卒業生の自己評価からは、8の「自分の意見を分かりやすく伝えることができる」の評価が最も低く課題となっており、事業所側の評価との差が一番大きいことが読みとれた。

また、事業所側の評価からは、6の「課題の解決や仕事の達成に向けて計画的に行動することができる」の評価が最も低く、本人の受け止め方とは異なる点での課題が読みとれた。

No	項 目	卒業生 自己評価	事業所 評価	差
1	現在の仕事内容について理解している（職業のミスマッチがない）	3.3	3.4	0.1
2	社会人としてのマナー（挨拶、一般常識、電話対応、FAXやメールの対応、席次など）	2.9	3.1	0.2
3	指示したことを的確に実施できる	2.9	2.9	0.0
4	物事に進んで取り組むことができる	2.8	3.1	0.3
5	現状分析に基づく目的や課題を明らかにすることができる	2.9	2.7	-0.2
6	課題の解決や仕事の達成に向けて計画的に行動することができる	2.8	2.5	-0.3
7	相手の話を丁寧に聴くことができる	3.2	3.2	0.0
8	自分の意見を分かりやすく伝えることができる	2.5	3.1	0.6
9	職場の中で豊かな人間関係を築くことができる	3.3	3.0	-0.3
10	多様な集団の中で（異世代、他部署など）適切で円滑なコミュニケーションができる	3.1	2.9	-0.2
11	社会のルールや人との約束を守るなど、自己を律する力がある	3.4	2.9	-0.5
12	ストレスに対し柔軟に対応することができる	3.1	2.9	-0.2

4 常呂高校が行った就職指導における効果的な事例

◆遠隔システムによる就職指導連絡協議会の実施◆

○概 要

全道の7校とオンラインによる就職指導連絡協議会を2回開催

○協議内容

- ・早期離職の未然防止に向けた取組及び有効な就職指導の方法
- ・就職指導の素敵な思い出、苦い思い出
- ・早期離職のあれこれ

◆卒業生進路調査の実施◆

○調査概要

- ・対象者 平成22年度から令和元年度（10年間）の卒業生186名
- ・方 法 ウェブアンケート方式（Googleフォーム）
- ・回答数 82名

○質問項目

現在の居住地、在学・就職先、転職・退職歴とその理由、高校へのメッセージ

○調査結果

- ・卒業生のうち、現在、常呂町で就業している割合は46%

- ・うち第一次産業関係者は56%、家業に就いている者は54%
- ・離職経験者は回答者中56%であり、ほとんどのケースは入社後3年以内に離職

◆施設等の訪問・調査◆

○施設概要

- ・施設名 就労移行支援事業所「サンライズ・ヨピト」
- ・内 容 障がい者手帳取得者の就職を支援、就労後も長期にわたるサポート

○現 状

障がい者手帳をもちながら施設を利用せずに一般就労すると、就職後のサポートがなく孤立しがちで早期離職する傾向が強い。

○成 果

普通高校でも支援すべき対象者がいれば、計画的に連携していくことが望ましい。

◆地域人材を活用した進路行事・校内研修の実施◆

○コミュニケーショントレーニング

- ・講 師 北見信用金庫常呂支店長、同支店職員（卒業生）
- ・対 象 全校生徒
- ・内 容
 - ア 社会人としての基礎マナー（身だしなみ、時間厳守、報連相、メール、席次など）
 - イ チームワーク実習（ゲーム形式での話し合いを行い、チームワークの重要性を学ぶ）

○労働教育講座

- ・講 師 社会保険労務士
- ・対 象 全校生徒
- ・内 容
 - ア 労働法の基礎知識、ブラックアルバイト・ハラスメント等のトラブル
 - イ 相談窓口などについて

○校内研修

- ・講 師 きたみ市商工会常呂支所職員
- ・対 象 全教員
- ・内 容
 - ア 常呂町内・北見市内の企業の現状や今後の見通し
 - イ 早期離職の現状について
 - ウ 高卒就職者に求めること

【成果】

- ・生徒向け講座は、就職後に必要なコミュニケーション能力、社会人としてのマナー、労働の知識などを学ぶことができ、事後アンケートでも好評であった。
- ・教員向け研修は、地元商工会職員を講師として招いたことで、地元企業の現状や生の声を知ることができた。
- ・地域人材の開拓ができ、学校とのつながりができた。

○各研究指定校の取組と成果

	主な取組	成果
美 唄 尚 栄	・企業訪問及び卒業生へのアンケート調査	・離職せずに働くための心構えとともに、仕事のやりがい及び相談できる上司の存在が大きかった。
	・ハローワーク、障がい者就業・生活支援センターとの連携	・就職希望の療育手帳を取得している生徒が、連携によって内定を得ることができた。
余 市 紅 志	・町内事業所へのアンケート調査	・町内企業が新入社員に求める資質・能力や離職状況について、現状を把握するとともに、企業との連携の足掛かりを掴むことができた。
	・地元就職している卒業生を招いてのキャリ	・仕事での体験やアドバイスを伝えてもらう

	インタビューの実施 ・ 未内定で卒業した生徒に対する支援	ことで、卒業生にとっても、後輩からの理解や期待を受けることで、離職防止の一助となった。 ・ 就職先の確保とともに、追跡調査の訪問によって、卒業生が意欲をもって働いていた。
伊達	・ 事業所へのアンケート調査 ・ 学校と事業所の情報共有	・ 企業が求める人材やスキルに関して情報収集することで、今後の就職指導の課題を明確化することができた。 ・ 卒業生に対しての支援体制を整えることができた。
常呂	・ 過去10年間の卒業生への追跡調査 ・ 他の高校や施設等を調査 ・ 障がい者就労支援施設の訪問	・ 地元Uターン就職について把握できた。 ・ 特色ある進路行事等を教職員で共有できた。 ・ 就職後の支援が手厚いほど、離職率が低いことが分かった。
大樹	・ 企業訪問及び事業所へのアンケート調査 ・ 企業説明会の実施 ・ キャリア・パスポートについて、地元の小・中学校や近隣高校との意見交換の実施	・ 高卒就職の採用活動や採用後の人事上の課題について把握できた。 ・ 企業側では、挨拶や日頃の会話だけでなく、事実を正確に伝えることなどが、コミュニケーション能力として必要であることが分かった。 ・ キャリア・パスポートの在り方や、具体的な課題について把握できた。
白糠	・ 地域教育コーディネーターと連携し、8つの事業者が参加する職業人座談会を実施した。 ・ 生徒とハローワークの担当者及び釧路教育局CPSVとの進路面談を全学年にわたって実施した。	・ 働くことについて考えるきっかけになるとともに、後日、生徒が学びの成果を発表した。 ・ 生徒の進路に関する情報を共有することができた。

高校生の早期離職に関わる好事例について

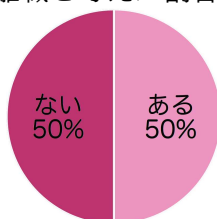
(令和3年度「就職指導の改善に関する研究」指定校報告書まとめ)

1 高校を卒業して就職後3年以内の就業者に対して、就業状況の調査を行ったところ、次のような事例があった。

[伊達開来高校、静内農業高校、標津高校を卒業した就業者を対象に実施したアンケートをまとめたもの]

(1) 伊達開来高校における調査結果

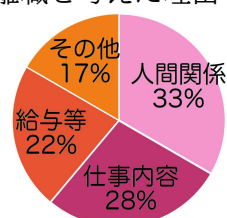
◆離職を考えた割合◆



【分析】

半数は離職を考えたことがあるが、残りの半分は全く考えていない。

◆離職を考えた理由◆



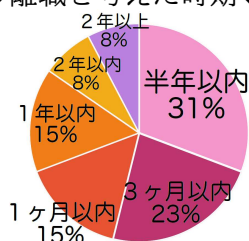
【分析】

・人間関係、仕事内容、給与の順で多く、複数回答も多い。

【その他の主な理由】

- ・他社からの引き抜き
- ・家族が体調を崩したため
- ・寮生活
- ・友人に転職を勧められて
- ・自分のやりたいことが明確になったから
- ・任期を満了し、別の仕事がしたくなったため
- ・仕事上の怪我により仕事を続けられなくなった
- ・進路選択の時点から家業を継ぐための経験として考えていた

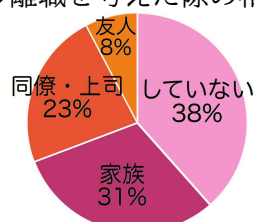
◆離職を考えた時期◆



【分析】

- ・入社後半年以内に、離職を考えた割合が高い。
- ・入社後1年を経過すると、離職を考えた割合は低くなる。

◆離職を考えた際の相談者◆



【分析】

- ・誰にも相談せず、自分で解決する者が最多である。
- ・大事な話だからこそ家族や職場の人に相談する傾向がある。
- ・同僚や上司に相談できる人間関係を築くためには、高校時代からのコミュニケーション能力の育成が重要である。

◆離職を考えたが思いとどまった理由◆

- ・人間関係が改善され、職場が楽しくなった。
- ・お世話になった人の期待を無駄にはしたくないと考えた。
- ・仕事に慣れてもないのに辞めるのは、おかしいし、周りに迷惑が掛かると思った。
- ・今の仕事を辞めても、新しい職場探しが大変そうで、面倒だと思った。
- ・お金が貯まっていない。

◆離職を考えたことがない卒業生の理由◆

- ・同期も同じ高校卒であり、人間関係が良好である。
- ・業務内容が充実しており、やり甲斐がある。
- ・給料がよい。
- ・アルバイトの経験もないため、仕事とはこういうものだと思っている。

(2) 静内農業高校における調査結果

◆職場で意識していること◆

- ・笑顔
- ・先のことを考えて行動する
- ・積極性
- ・臨機応変に行動すること
- ・自分から率先して作業に取り組む
- ・人間関係を大切にする
- ・コミュニケーション
- ・ただ早く仕事を終わらせるのではなく、丁寧に仕事すること
- ・1つのミスが色々な人への迷惑につながるという意識
- ・分からないことはそのままにせず質問する
- ・後になればなるほど聞きづらくなること

◆在学中に身に付けておきたい力◆

- ・仲間や先生への気遣い
- ・転職を考えるとときに役立つような資格
- ・メリハリのある行動
- ・自己実現力
- ・嘘をつかないこと
- ・自分で考える力
- ・何事もメモする習慣
- ・知識、体力、挨拶、返事は大きい声で
- ・人の話を聴くことや自分の気持ちを言えること
- ・お金の大切さ、管理方法など

◆高校で必要だと思われる指導内容◆

- ・自分で考える力を向上すること
- ・学生と社会人の違いについて学ぶこと
- ・インターンシップや施設見学会など
- ・仕事は自分一人で成り立たないことの理解
- ・組織に所属する意義や帰属意識の高揚のための動機付け
- ・コミュニケーション力を様々な場面から学ぶこと
- ・上司やお客様への言葉遣いや気遣い（気遣いができる信頼されて仕事が楽しくなる）
- ・金融関係の知識（預貯金、保険、クレジットローン）
- ・長い人生の中では上手くいかないことや我慢することが多いこと

(3) 標津高校における調査結果

◆高校に期待する卒業生に対する取組◆

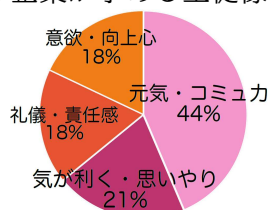
- ・周囲に溶け込みづらい生徒に対して、会社であったことなどを聞いてあげる企画。
- ・入社後は初めて経験することが多く、余裕のない状態にいるため、母校の先生方に会えると嬉しく感じる。そのため、近隣だけでなく、遠方に就職した卒業生にも、電話などにより話をする機会を設けてほしい。

2 高校生に求める生徒像や高校の指導に望むことなどについて、事業所にアンケートを実施したところ、次のような回答があった。

[伊達開来高校と静内農業高校が事業所を対象に実施したアンケートをまとめたもの]

(1) 伊達開来高校における調査結果

◆企業が求める生徒像◆

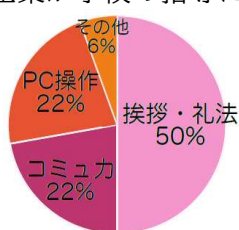


*コミュカ：コミュニケーション能力

【分析】

- ・意欲や責任感よりも、元気・コミュニケーション能力が求められている。
- ・元気や明るさが由来の「親しみやすさ」や、「誰とでも上手く接することができる力」をコミュニケーション能力と捉えていると読み取れる。

◆企業が学校の指導に望むこと◆



【分析】

- ・挨拶や礼法は、しっかりと身に付けさせて卒業させることが大切である。
- ・ワークショップなどを授業で積極的に取り入れることで、コミュニケーション能力や協調性を高める指導を増やしていく必要がある。

(2) 静内農業高校における調査結果

◆離職防止に向けた取組◆

- ・一人一人に向き合い、個人に合った指導を目指している
- ・早期離職の不利益を教育
- ・上司及び人事担当者による面談・相談を増やし、社員の意見を把握している
- ・進路指導の先生による巡回
- ・社内の雰囲気づくり、環境づくり
- ・風通しのよい職場づくりのため意見箱を設置

3 芦別高校が行ったICTを活用した就職指導における効果的な事例

◆Zoomの操作方法の指導◆

Zoom接続及び面接等における操作方法についてまとめた資料を作成することで、生徒はスムーズにZoomを扱うことができた。

Zoom への接続 及び 会議・協議の際の操作方法

④「ビデオ付きで参加」をクリック

① 下にある「ビデオ付きで参加」をクリックする。
※ 場合によってはすぐ映像が送信されてしまうので準備しておく



Zoom への接続 及び 会議・協議の際の操作方法

⑦「音声」の設定

① 「ミュート」の「/」マークがついているときはこちら側の音声は流れません。発言するときは「/」マークをはずしてください。
※ 相手側の音量の上げ下げは、本体横の音量のボタンのみで操作可能



「Zoomへの接続及び会議・協議の際の操作方法」（芦別高校）一部抜粋

◆「オンライン面接の手引き」の作成◆

オンライン面接における注意点等をまとめた手引を作成し、生徒への周知を行うとともに、本手引を参考にした上で、ICTを活用した各種相談会に2年生を参加させたことで、進路意識を高めることができた。

【進学・就職】

オンライン面接の手引き



北海道芦別高等学校

名前 _____

0 事前確認

服装や顔の乱れがないか、事前に確認しておく。他者に見てもらうことも、大事。服装・髪型は日常からの心遣いが重要であり、「面接のための身だしなみ」ではないことに留意する。自己の価値観ではなく、「誰が見ても良い」と思われる客観的な身だしなみが「社会人のマナー」であることを理解する。

ア 髪（対面でもオンラインでも同じ）

- (ア) 寝癖がついていないか
- (イ) 染色・脱色はないか
- (ウ) 前髪が伸びていないか
- (エ) 髪がはきり見える状態
- (オ) 顔全体に清潔感が失われていないか（礼をした時に髪が顔にかからないようにする）

イ 服装（対面でもオンラインでも同じ）

- (ア) 制服・上靴に汚れはないか
- (イ) スボンがゆるんでいないか
- (ウ) ボタンがとまっているか（字フック、シャツ等の確認）
- (エ) 見えないと思うところもきちんと整える（特にスボン、Yシャツの裾など）
- (オ) 遠くで立ち上がった際などに覚えてしまう、面接の際に何が起きるかわからない

ウ PC等の情報機器の確認

- (ア) 先生に協力してもらい、iPad、PC、Webカメラ等の準備を行う。
- (イ) 自分のスマートフォンやPCを使って行う場合は事前に、指定されたツールのアプリをインストールしておく。
- (ウ) Wi-Fiが有線とどちらでもよいが事前にインターネット接続が安定した状態でできるかチェックする。
- (エ) 部屋の状態に気を付ける。
- (オ) 背景は壁の前などできるだけシンプルな背景にし、極力物が映り込まないようにする。
- (カ) 部屋の明るさをチェック、表情が明るく見えるようにする。
- (キ) 企業から指定されるツールを開く。（Zoomやskypeなど）
- (ク）機器の充電を確認する。

カメラの距離や角度



1 オンライン面接の流れと注意点

面接で重要なのは第一印象である。「第一印象は最初の6秒間で決まる」といわれる。Web面接でも同じなので、気を抜くことなく臨んでください。いつ通話につながるかわかりません。

入室はスタート時刻の3分前が目安

※動画でも遅れは厳禁。もし接続がうまくいかなかったらすぐに連絡を！

座ったままのあいさつでいいが「笑顔」を心掛ける

※立ち上がりながらカメラの位置で映らないこともあるので座ったままでよい

出身校・名前を言って、

「よろしくお願いします」、礼

※北海道芦別高等学校の、OXXです。よろしくお願いします。礼

面接

※座る姿勢に注意(背筋を伸ばし肩もたれにつけない。視線は面接官)

※両手肘を机に置き、手は膝の上に置く。(マスクを装着していても、オンラインだと顔が見えやすい)

※手元に履歴書を準備しておいてください

「終わります」と言われたら、

「はい」と言って、「ありがとうございました」、礼

※礼のあとにカメラを切る

※相手の退出してから自分も退出する。

※相手に「退出してください」と言われたらその限りではない。

※退出が完了するまで気配をしないこと！

2 オンライン面接のマナー

オンライン面接ならではの注意点がいくつかあります。離れた場所にいる者同士がインターネットを介して会話をするため、コミュニケーションにおいても対面と違った配慮が必要となってきます。面接官に与える印象をよくするため、次の4つのポイントを押さえておきましょう。

ア 話し方

(ア) 会話の間のけい

通信速度の関係で声が伝わるタイミングにズレが生じやすくなります。普段よりも大きな声、相手の話が終わってから2拍くらい待つなど練習のときから意識しながら行いましょう。

イ 表情、雰囲気

(ア) 表情の読み取り

画面越しに顔は見えているものの、やはり対面の時と比べ相手の表情や温度感が読み取りにくい部分が出てきます。特にオンラインでは相手のリアクションがないと話し手が懸念や不安を抱きやすくなるので、大きめの相槌、頷きなどを使って「私はあなたの話をしっかり聞いています」というメッセージを伝えるようにしましょう。

ウ 目線

(ア) 視線の置き場所

オンラインに慣れていないとどこを見て話せばいいかわからないという場合があります。Web面接では、「自分が話すときはカメラを見る」、「相手が話すときは」画面を見るが基本です。この2点を意識すれば、相手と目が合っている状態になり、ずっと画面を見ている相手から見て常に相手と目が合っている状態になるため、悪い印象を与えてしまいます。相手も慣れていないことがあり、目が合わないかもしれませんが、気にせずあげた2点に集中して面接を行いましょう。

エ 姿勢

(ア) 姿勢

対面と同じで姿勢が悪いと印象はよくありません。背筋を伸ばして椅子に座り、

「オンライン面接の手引き」（芦別高校）一部抜粋

4 遠別農業高校が行った就職指導における効果的な取組

◆進路講話◆

- ・参加対象：3 学年の生徒及び保護者（オンライン参加も可）
- ・講師：留萌教育局キャリアプランニングスーパーバイザー
- ・成果：社会で求められる人物像や能力を把握し、求人票の見方など、進路実現に向けて必要となる事項について学習した。また、参加した保護者も含めて、奨学金を借り際の留意事項を理解することで、進路選択に当たっての生徒と保護者の共通認識につながった。

◆オンラインによる模擬面接試験◆

- ・参加対象：3 学年（オンライン面接の予定がない生徒も含む）
- ・目的：オンライン面接だけでなく対面による面接にも生かす
- ・成果：自分がモニターにどのように映っているかを確認することで、礼儀や所作に対する意識が高まった。参加した生徒からは、「入退室がない分、第一声の挨拶が重要だと感じた。」「自分の癖が気になったので、改善して面接試験に臨みたい。」といった感想が寄せられるなど、面接試験に臨む生徒にとって貴重な時間となった。



オンラインによる模擬面接の様子（遠別農業高校）

◆管内就職内定者向け研修◆

- ・運営：遠別農業高校進路指導部
- ・参加対象：管内高校の就職内定者
- ・講師：留萌教育局キャリアプランニングスーパーバイザー
- ・テーマ：社会人としての自覚を促す
- ・内容：留萌教育局発行の「進路だより★るもい」を活用し、社会人になる心構えや職業人としての姿勢について解説を行った。

生徒のみなさんへ

進路だより★るもい

令和3年度 11月（第5号）北海道留萌庁留萌教育局 発行（留萌教育局） 留萌 刊行

▶▶新社会人になる準備を始めよう▶▶

今月号では、新社会人として身に付けておきたいことについて特集します。

社会人になるということは、企業や行政機関等の一員になり、職業のプロなのです。ビジネス社会で生きていくためには様々な力が求められますが、職業人として主体的に仕事に取り組み、知識を身に付け、技術や能力を伸ばす準備をしましょう。この「進路だより★るもい」は、就職活動に取り入れて、新社会人になる準備を進めましょう。

1. 社会人になる心構え

いよいよ、高等学校を卒業して社会人として一歩踏み出します。社会人になると、どんなことが求められるのでしょうか。社会人としての自覚について、考えてみましょう。（1 記入してきましょう）

項目	内容	記入する欄
経済的自立	自分で得た収入で生活を立てる。	
自己管理	健康や時間等の生活面はもちろん、自分の気持ちや心も自己管理する。	
自己責任	自分の善悪や判断に責任をもつ。	

社会で働くということは、社会に参加することです。労働を通じて社会に貢献することができます。あなたが勤める会社や社会保険料などは、国や地方自治体を通じて、社会に還元されます。

2. 新社会人への期待

① 新社会人のフレッシュな行動や考えが、上司や先輩に影響を与えることがあります。「新社会人が頑張っているから、自分たちも頑張ろう」という気持ちになり、結果的に職場全体が活気のある雰囲気になります。

② ほとんどの職場は、新社会人に対して、いろいろな業務や技術を教える、育てていきたいと考えています。そのために厳しい言葉もあると思いますが、新社会人に期待する気持ちを理解しましょう。

③ 職場の上司や先輩達は、新社会人に職場の雰囲気や慣れに慣れさせてほしいと考えています。ですから、動きがしづからず、積極的にコミュニケーションを図ることで、職場に溶け込むことができます。

3. 職業人としての姿勢

① 主体的に仕事に取り組む。

② 仕事に必要な「知識」を身に付け、「技術」を伸ばす。

③ 職業人として成長しようとする意欲や自信を持つ。

④ 「正確」「迅速」「良質」な仕事をするようになる。

⑤ 事業所全体の中で、あなた自身とあなたの仕事の位置づけを理解し、自分の役割を認識する。

⑥ 一組組の一人としてだけでなく、職業人としての高い視野を持ち、社会の構成員としての教養を身に付ける。

⑦ 定時よく働く環境づくりを行う（共有スペースの整理整頓、ゴミの付け、オフィスの風気等）。

4. 仕事の取り組み方

新社会人として就職したら、「できるだけ早く仕事を覚えたい」「仕事ができる人になりたい」と思うでしょうが、焦らず、段階的に仕事を覚えましょう。また、1年を通して職場や自分の仕事の流れを把握しましょう。

- ① 仕事を前向きに取り組むこととらえらるようになる。
- ② 整理整頓を心がける（自分の机、書類、データ等）。
- ③ 優先順位を考えて行動する。
- ④ 自分で判断できないことは、すぐに上司や先輩に相談する。
- ⑤ ミスした時は、謝罪を言い、繰り返さないようにする。
- ⑥ 仕事で大切な時間や情報は、安眠に気を配る。
- ⑦ 取られた時間を有効に使う（時間管理）。

・仕事と仕事の間のスキマ時間を上手に使う。そのためには業務のひととつとつながる時間を把握し、上手にスケジュールを立てることが大切です。

・1 日の勤務時間内に何をするのか、ToDo リストを活用して、仕事に遅れないが確認する。パソコンのメモ機能や手帳等を活用するのも有効です。

・全ての仕事において、時間にゆとりをもつ。

5. 仕事の問題・課題を発見する

仕事上の問題が起きた場合、その問題を解決するために取り組まなければならないことが課題です。問題と課題については、適切な方法を考えましょう。

＜例＞目標：1 日の来店客数を 100 人に増やしたい。

現状：1 日の来店客数は 60 人である。

課題：1 日の来店客数は目標に比べて 40 人不足である。

解決：来店客数を増やすために取り組むべきことは何か考える。

★目標と現状の差を把握し、課題を特定する。課題を解決するための方法を考える。

※課題を解決する際には、その課題特有のルールがあります。そのルールを理解し守る必要があります。わからないことはそのままにせず、上司や先輩に相談しましょう。以下は課題に関するルールです。

- ① 始業時間の 15 分前には出勤する（出勤によって始業時間がある場合、出勤時間を確認する）。
- ② 立ち遅れする場合は、始業時刻前までに必ず直前に連絡する。メールや LINE 等は使用しない。

★電話相談先あり★今月号は 11 月 14 日まで 1 週間限定で内定者向けに実施しています。お気軽にご相談ください。

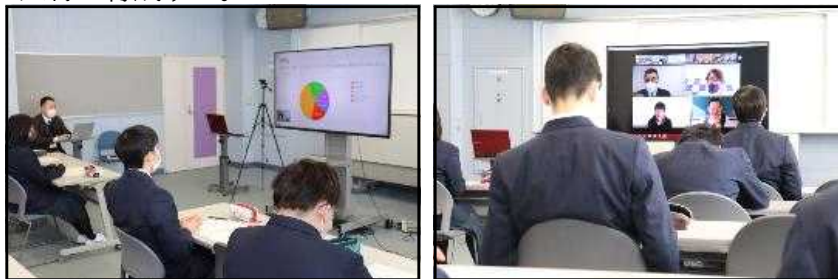
みなさん、それでは自分が必要とする情報を積極的に集めて、準備していただけたらと思います。

＝今後の予定＝12 月「コミュニケーションスキル」1 月「セルフストレスマネジメント」

「進路だより★るもい」令和3年度第5号（留萌教育局）

◆オロロンリレーションプロジェクト「留萌地域の未来創造シンポジウム」◆

- ・運営：留萌教育局地学協働プロジェクトチーム
- ・参加対象：管内の中学生及び高校生
- ・参加者：遠別農業高校2学年
- ・内容：中高生が地域や社会の課題に対し向き合う機会を設けることで、地域の一員としての当事者意識をもつとともに、社会人として働きながら故郷のために活動している方々の話を聞くことにより、持続可能な地域社会のために主体的に行動できる人材を育成する。



シンポジウムの様子

◆教育プラットフォーム・SNSを活用した進路情報の配信◆

- ・内容：紙媒体の配付だけでなく教育プラットフォーム「Classi」及びSNS「Facebook」を活用した。
- ・成果：進路に関する情報などを生徒だけでなく保護者、地域住民の方々も閲覧が可能となった。また、「Classi」では進路だよりのほか、企業や大学等から送付された告知等を配信することにより、長期休業中に家庭で話し合っほしいことや進路活動報告、進路指導部から保護者へのお願い等を確実に伝えることができた。



教育プラットフォーム「Classi」



SNS「Facebook」

5 美深高校が行った就職指導における効果的な取組

◆オンラインの効果的な活用◆

クラウドを活用して、進路指導に関する情報をオンライン上で情報共有することで、学校全体としての計画的・系統的な進路指導の体制が構築できた。



オンライン上に蓄積した進路関係の来客情報



職業ガイダンス後に実施した生徒アンケートの結果も全教員が閲覧可能

職業説明会事前アンケート

設問.1 「仕事」「働く」ということについて、どのようなイメージを持っていますか？

WordCloudで集約分析(Beta版)

回答

番号	回答内容	★	👍	👎
回答1	働くことは大変なこととお金を稼ぐためや個人の達成感のために働いている人が多いイメージ			
回答2	お金を稼いで生活したり、社会に役立つことや必要なことを行なったりするのだと思う。			
回答3	大人にならなければならないこと、自分が暮らしていくためにお金を稼ぐ。大変。ストレス溜まる。			

▼ になりたい職業・学問・発見フェア

設問.1 になりたい職業・学問・発見フェアに参加しますか？

回答

番号	回答内容	グラフ	割合	回答数
1	参加します！		26.3%	5名
2	参加しません		73.7%	14名

設問.2 移動に無料バスは利用しますか？

アンケートや職業相談会等の参加希望もオンラインアプリを活用

○各研究指定校の主な取組と成果

	主な取組	成果
芦別	企業訪問及び卒業生へのアンケート調査	企業が高校生に求める資質・能力には、コミュニケーションスキル、臨機応変な対応、社交性等があることが分かった。
	芦別市商工振興課や芦別市商工会、芦別市ロータリークラブ等との連携	関係機関との協議により、就職後の生徒に対する支援体制を構築することができた。
伊達開来	事業所へのアンケート調査	企業が求める人材や高校の指導に望むことについて情報収集することで、今後の就職指導の課題を明確化することができた。
	卒業生に対する就業状況調査の実施	卒業生の離職を考えた理由や離職を思いとどまった理由を把握することができた。
静内農業	体験型の学習及びその振り返り学習による自己理解の深化	学校行事や特別活動等に「キャリア・パスポート」を活用することで、生徒の自己理解を深める活動につなげることができた。
	クラウドを活用した礼法指導等のデータベース化による遠隔学習の充実	「面接指導の入室マニュアル」等のデータベースを作成し、生徒が進路指導を行う際に、必要な情報を自ら調べることができる環境を整えた。
美深	C-Learningを活用した卒業生及び企業、地域からの情報収集と再就職支援	卒業生の状況を把握して企業情報内に整理するとともに、クラウド上で教員間による情報共有を行うことで、卒業生の状況を適確に把握することができた。
	スタディサプリ進路を活用した3年間の体系的・計画的な進路指導体制の構築に係る研究	これまで学年主導で行っていた進路指導の情報を、クラウドを活用して、オンライン上で情報共有することにより、計画的・系統的な進路指導の体制を整えることができた。

遠別農業	・卒業生による講話等を通じた勤労観・職業観の育成 ・本校ウェブページやSNSを活用し、進路だよりや研究内容の情報を発信	・卒業生は、在校生に対して自身の経験等を伝えることで、自らの現状を振り返ることになり、早期離職の防止につながった。 ・在校生は、今後の進路活動への意欲が高まり、中途退学者の減少につながった。 ・進路だよりを毎月末、紙媒体で発行するとともに、教育プラットフォーム（Classi）で配信することで、企業や大学等の各種イベントの案内を、保護者にも効果的に配信することができた。
標津	・卒業生が就職した企業訪問を通じた就業者及び離職者の追跡調査 ・企業が考える、進路希望を設定できないまま卒業した生徒に対する支援の考え方	・追跡調査が、企業と学校をつなぎ、双方にとって有益なコミュニケーションとなることを認識できた。 ・進路希望を設定できない生徒こそ、自社に入社してくれるかもしれない生徒という見方に変えて、職業の魅力を伝えていきたいと考えている企業が複数あることが分かった。

令和4年度「就職指導の改善に関する研究」報告書まとめ

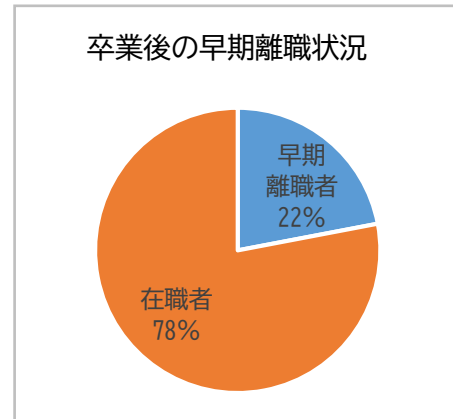
1 標津高校における本研究の調査結果と考察

(1) 離職状況・就業意識

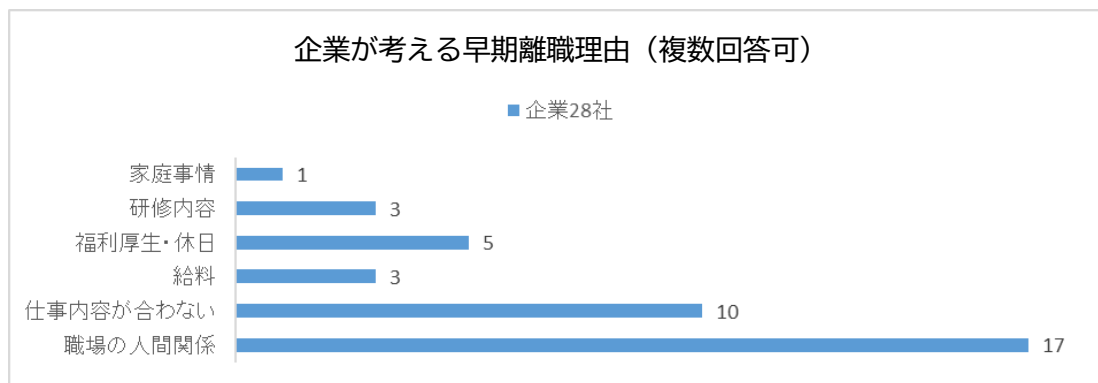
就職指導の改善を図る目的で本校卒業生の離職状況を調査した。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて就職先企業の訪問を控えていたが、今年度は可能な限り訪問を行い、採用担当者や卒業生に面会して状況を聞き取った。

調査により就業状況を確認できたのは51名であった。早期離職者は11名（全体の約22%）で、全国値15.0%（令和2年 厚生労働省）と比較すると高い数値である。（図1）

また、離職理由は、職場の人間関係、仕事内容が合わないことを挙げる企業が多い。（図2）



（図1）



（図2）

(2) 就職未内定又は進路希望を設定できないまま卒業した生徒に対する支援

調査対象となった卒業生の中に、就職未内定で卒業した生徒が1名いたが、今回の調査で標津町の臨時職員として在職していることが判明した。標津町には、希望があれば就職未内定の卒業生を臨時職員として雇用する制度がある。今後、就職未内定又は進路希望を設定できないまま卒業する生徒がでる場合も考えられることから、標津町と連携し支援策の一つとしていく。

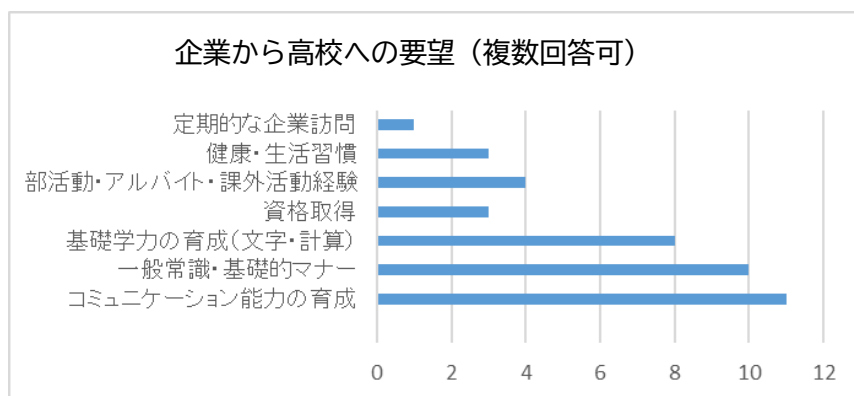
また、今年度も就職未内定又は進路希望を設定できないまま卒業した生徒はいなかったが、求人票公開後も希望職種を決定できず就職活動が難航し、未内定のままでの卒業が懸念されるケースがあった。関係機関の協力を得て、最終的に生徒と保護者が納得する進路に落ち着き、進路希望を設定できないままの卒業とならなかった背景には、1学年時から生徒の進路希望を把握し、日頃から保護者と進路活動について連絡を取っていたためである。正確な状況把握によって、関係機関と連携し、対応することができたと考えられる。

生徒に対する支援として、ハローワークやジョブカフェ、地域若者サポートステーション等の支援機関と連携することが考えられるが、就職未内定又は進路希望を設定できないままの卒業を未然に防ぐことが理想であり、日頃からの進路指導の継続が必要である。

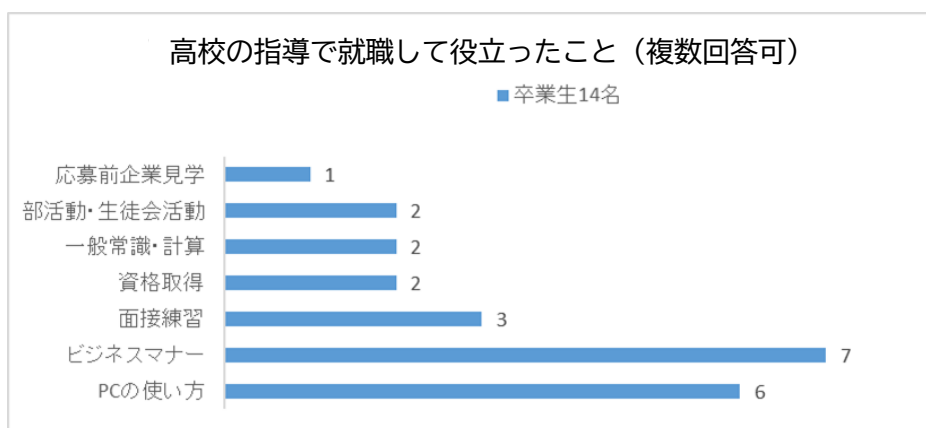
(3) 企業側と卒業生の意識の違い

下の図3に示した調査結果から、高校を卒業し就職する者に対して企業が求める資質・能力は、礼儀やあいさつ等の基本的マナー、文章の読解力や漢字及び文章力をはじめとする基礎的学力、幅広い年代の人と付き合えるコミュニケーション能力など、従来から必要とされてきたものと大きな変化はない。「新入社員研修では、大学卒業生より丁寧に説明している。」「高校卒業間もない新入社員に難しいことは求めません。」と言い切る企業担当者がほとんどであった。

卒業生に対し就職後の悩みを聞く中で、「高校時代に学んだことで役立ったこと」(図4)について尋ねると、「資格取得、ワードやエクセル、パワーポイントなどのパソコン技術、名刺交換などのビジネスマナー」など、仕事の業務に関係するものが挙げられ、新入社員として目の前の仕事と格闘する日々の姿が想像された。学校行事や部活動、ボランティア活動を通じていろいろな立場や年代の人と交流したことを挙げる意見は少数であった。多くの企業が、高校卒業の新入社員に高度な技能を求めず、幅広い年代とのコミュニケーション能力を求めていることを考えると、企業と新入社員の意識に違いがあると言える。



(図3)



(図4)

(4) 企業側の主な意見

◆高校卒業の新入社員に求めるもの

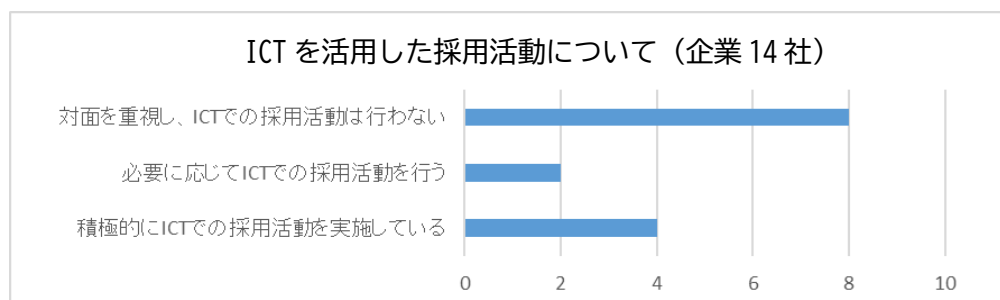
- ・最低限の挨拶と返事ができればよい。高校卒業の新入社員に、大学卒業や専門学校卒業の新入社員と同じ能力を求めているわけではない。(事務職)
- ・明るい性格に越したことはないが、休憩時間などに雑談ができるとよい。(事務職)
- ・職場には色々な年代の社員がいる。離れた世代の社員とも会話してほしい。(販売業)
- ・達筆でなくてよいが、直筆で書く文字が整っていてほしい。手書きの文字は「会社の顔」として判断されるから。(事務職)
- ・高所での作業があるので、元気でキビキビ動けるとよい。(製造業)
- ・作業工程ごとの引継ぎがあり、互いに協力して製品を完成させていく。都合の悪いことも正確に伝え、物事の善悪を判断できること、マナーを守ることができることが大切。(製造業)
- ・簡単な計算、正しい文字、文章が書けること。(事務職)
- ・働く理由が明確な人を採用する。お金が目的でもよい。お金を稼ぐ目的があれば、仕事を簡単にやめないと思う。(製造業)

◆早期離職を防ぐために

- ・アルバイトでも部活動でも、「他人とつながる」経験をしてきてほしい。(製造業)
- ・地元から採用したい。何かがあったときにすぐ頼ることができると考えているからか分からないが、実家が近いと早期離職が少ないように感じる。(製造業)
- ・同じ年頃の社員がいるとお互い高め合って、話もできるのではないか。(製造業)
- ・職場の人間関係の中で「自分の立場」を確立できると、早期離職につながりにくいと思う。(製造業)
- ・分からないことがあれば、小さな事でも周囲に助けを求めてほしい。(事務職)
- ・新入社員の能力を見極めて、なるべく無理のない仕事をさせている。(製造業)
- ・就職後に仕事に必要な資格試験があるので、基礎学力、勉強する習慣を付けていると仕事にも役立つ。(金融業)
- ・ミスマッチを理由に離職する人が多い。応募する前に仕事内容を少しでも理解して、職場で働く自分の姿をイメージして入社してほしい。(金融業)
- ・どんな業務があるのかを知ってから、入社試験を受けてほしい。(サービス業)

(5) ICT を利用した就職試験や採用に対する意識

今年度は ICT を活用した就職試験を受験する生徒はいなかったが、企業側へ ICT を活用した面接の実施について質問した。採用に当たって直接会って話したいと考える企業が多い中で、地元以外の遠方からも採用したいため、積極的に ICT を使って面接を行うとする企業もある。(図5)



(図5)

新型コロナウイルス感染拡大をきっかけに ICT を利用した就職活動が行われはじめたが、新型コロナウイルスが終息した後も、ICT を利用した就職活動が考えられる。本校の進路の手引に ICT を使った面接マニュアル（図 6）を追記し、今後の就職指導に活用する。

面接マニュアル ～標津高校編～ 礼法をチェック（オンライン面接の場合） オンライン面接の進行は対面の面接と基本的に同じです 1. 準備（PC等の接続を確認） ・学校で実施：先生に相談して場所や端末などの使用する機材を確認しましょう。 ・自宅で実施：スマートフォンや PC を使用する場合は、企業から指定されたアプリ等をインストールしておきましょう。 ※ インターネット接続が途切れず、表情が明るく映り、すっきりした壁などを背景にできる静かな場所を選びましょう。 ※ 使用するオンラインツールのユーザー名やアイコン画像をすでに登録している場合就職活動にふさわしいものに変更し、ニックネームで登録している場合は本名に変えておきましょう。 2. 開始（オンライン上での入室） ・予定開始時刻の 3 分前を目安に、画面の前で音声やカメラ角度などの調整が始まります。 ・PC等を ON にし、指定された URL へアクセスします。 ・音声などに不具合があれば、確実に反応し面接官に伝えましょう。 ・互いの画面や音声などに問題がなければ対面と同様に姿勢良く座り、カメラに目線を合わせます。 ・出身校と氏名を伝え、「よろしくお願いします。」（礼） 礼をする時は座ったままで構いませんが、相手に言葉をしっかり伝えるために言葉と礼を分ける分離礼を行いましょう。 〈以降、対面と同様に面接が進みます。〉 ※ オンライン面接では、対面での面接より表情や声が届きにくい場合があります。双方の表情が見えるように確認し、普段以上にはっきりとした声で話しましょう。 ※ 万が一オンライン面接中に通信状況が悪くなり、面接官の言葉を聞き取れない場合はすぐにその旨を伝えるようにしましょう。 ※ 緊張などに備えて、話す内容を書いたメモを見ても良いですが、受け答えや目線に不自然な雰囲気が目立つと印象が悪くないので注意しましょう。 3. 終了（オンライン上での退室） ・「面接を終わります」と言われた後、 「ありがとうございました。」（礼） ・面接官が退室した後、又は「退室して下さい」と言われたら、 PC等の接続を OFF にし、オンライン上で退室します。
--

（図 6）

（6）最後に

今年度行った企業訪問から、早期離職に至った卒業生は経験を踏まえて時間を置かず次の就職先で活躍しているケースもあるが、早期離職を繰り返していた卒業生もあり、高校卒業後に就職した卒業生のさまざまな現状を知ることとなった。また、追跡が難しい卒業生についても、企業側から離職時の状況を聞くことができた。

このことから、就職指導の改善には高校在学中から進路意識を向上させ、職場や働くことへの理解を深める必要があることを実感した。今年度調査研究項目の一つであった「ICT を活用した就職活動支援」も含め、研究成果を生かした的確な就職支援を行うことが重要である。

2 静内農業高校が、3年生を対象に実施している進路ガイダンスにおいて使用したスライド資料と指導事項（早期離職の防止につながる内容を一部抜粋）

（注）枠内の左がスライド資料、右が指導事項を表す ※一部加工済み

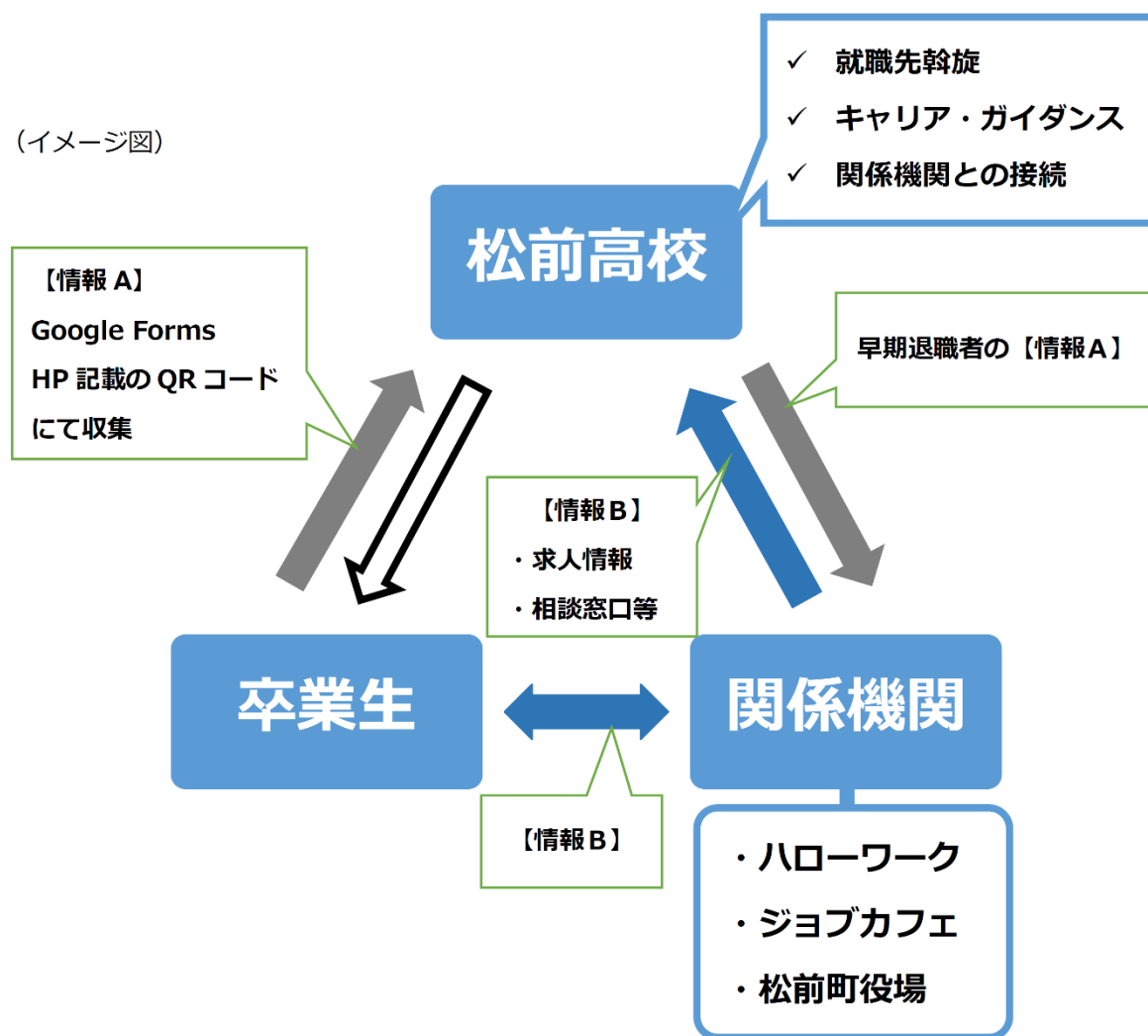
企業研究をしましたか？ ・試用期間 ・みなし残業 ・交通費 ・自分が選んだ企業の福利厚生は？ ・34歳まで独身寮入居可能な企業あり	進学後就職活動を甘くみた学生の失敗例を YouTube で視聴後、進学予定者にスライドを利用して企業研究やインターンシップの大切さを確認させた。
陥るわな（不満） ・6月 先輩社員と違う －せっかくゴールデンウィークに勤務したのに ・9月 休めない －お盆休み自由に取れない ・1月以降 －隣の芝生はよく見える ・会社同僚や上司とうまくいかない －仲良しクラブではない	将来陥るわなとして、新入社員が会社への不満を持つ時期と内容を説明した。
企業は給料と別に ・健康保険、厚生年金保険、労災保険、雇用保険、介護保険（40歳以上） ・給料20万円支給なら企業は、3万負担してくれている	アルバイトと違い社員は優遇されていることを自覚する必要がある。 支給される給与より、企業が多く負担していることを自覚させた。
・言葉遣い → あなた以外は目上の人 ・ビジネスマナー → 新入社員でも相手には関係ない ・笑顔 → 好印象 ・不満をため込まない→人に話すとストレスが軽減する ・会社に過ごす時間は、今まで生きてきた人生の約2倍	主な離職理由を確認し、離職しないための心構えを説明し、事前研修や入社前に再度企業研究をすることでモチベーションを高く維持したまま入社することの大切さを理解させた。

3 松前高校における本研究のまとめ及び今後の方針

まとめ・今後の方針：

- ✓ 職場見学は一定の離職効果があるが、見学先が一つだけであると、比較対照ができず十分な職業理解に繋がらないと考える。今後は早期の希望先の決定と数社の職場見学を進めていく。
- ✓ 卒業生が職場への適応が難しいと感じている段階でのケアが必要である。
- ✓ 次年度以降、卒業生の離職調査を年1回の夏休み前に実施予定。卒業生には Google Forms を活用した離職・退学調査を行う。同時に現状把握を行い、夏休みに面談等をアレンジできると良い。
- ✓ また学校 HP に当該の Google Forms の QR コードを掲載し、常時調査を受け付けておく。
- ✓ 関係機関と情報共有を行い、次のステップへとスムーズに移行させたい。

(イメージ図)



4 旭川北高校定時制が作成した「進路の手引」（一部抜粋）

1 年	前期		4月	5月	6月	7月	8月	9月
		全体	中学生から高校生へ			自己と社会を知る～情報収集する中で進路の方向性を		
		進路活動	高校生活スタート (進路希望調査②) 新入生のための生徒理解調査 進路希望調査②	進路希望調査① 入門自分発見 (クレペリン検査) 宿泊研修 (CST)	職業いろいろ発見 (職業調べワークシート) 進路講座 (職業を知ろう) 進路講座 (アルバイトしてみよう)	進路講座 (ハローワークと就労支援) 高校生活の設計図 (三修制と科目選択) 上級学校調べ①	上級学校見学 上級学校調べ②	高校4年間の設計図
	後期		10月	11月	12月	1月	2月	3月
		全体	自己を理解する					
		進路活動	施設見学 科目選択講座 進路希望調査②	ソーシャルスキルトレーニング	進路相談員講話	コミュニケーション能力講話	日本語ワープロ検定 旭川冬まつり見学	
2 年			4月	5月	6月	7月	8月	9月
		全体	職業に対する考えを深め、社会で求められる力を身につける				進路について深く考える	
		進路活動	Let'sStart 高2生活 (進路指導について)	進路希望調査① アルバイト指導 クレペリン検査	あなたの個性と適性 (職業レディネステスト)	職場 リアル体験 (キャリアシミュレーションプログラム)		自己実現のためのライフプラン 仕事選びのステップ 学校選びのステップ
			10月	11月	12月	1月	2月	3月
		全体	進路目標の決定・進路計画の立案			自己理解を深め、将来の生き方について考える		
		進路活動	日本語ワープロ検定 進路希望調査②		進路相談員講話 見学旅行	コミュニケーション能力講話	日本語ワープロ検定 旭川冬まつり見学	
3 年 (卒業予定生徒) ・ 4 年			4月	5月	6月	7月	8月	9月
		全体	職種や勤務地の確定、試験や面接の準備			求人票の確認、受験先決定		
		進路活動	オリエンテーション (進路指導について) 生徒理解調査 進路面談①	進路希望調査① 進路講座 (職業の世界を知ろ) 適性検査 進路講話① 社会見学①	職場 リアル体験 (キャリアシミュレーションプログラム) 進路講話② 社会見学②	進路説明 就労支援機関を知る	志望理由書の書き方	面接試験トレーニング
			10月	11月	12月	1月	2月	3月
		全体	就職活動開始・公務員試験			卒業後に向けた自己啓発		
		進路活動	情報処理検定 (3年) プレゼン検定 (4年) 社会見学③		進路相談員講話		文書デザイン検定 (3年) 旭川冬まつり見学	

【進路の手引（進路ロードマップのページを抜粋）】

5 白糠高校が、本研究の成果を普及・啓発するため発行した進路だより（一部抜粋）

進路通信

白糠高等学校
進路指導部
第6号
2022年11月2日発行

◆卒業生へのアンケート結果 就職編◆

令和2年3月～令和4年3月に卒業し、就職した先輩方を対象にアンケートを実施したので、その結果を報告します。回答数20名

質問1 勤務している（勤務していた）職種をお答えください。

事務職	5名
製造・生産（自動車整備士1名）	5名
販売	3名
宿泊・飲食	2名
サービス	2名
保安・警備（自衛隊1名）	2名
建設	1名

質問2 早期離職を防ぐための方策として有効なものをお答えください。（複数回答可）

職場内のコミュニケーション	16名
休暇が取得しやすい	12名
若者が話しやすい雰囲気づくり	12名
相談体制の充実	11名
本人の希望を生かした配置	8名
給与を上げる	8名
福利厚生の実施	7名
研修の充実	5名
仕事の分量を平等にする	4名
評価制度の充実	3名
業種適性テストと職場体験・訪問の強化	1名

質問3 早期離職の原因として考えられるものをお答えください。（複数回答可）

職場の人間関係	17名
思っていた仕事の内容と違った	11名
自己分析不足	6名
労働条件のミスマッチ	4名
働きすぎに続けられるかどうか	1名

・「職場の人間関係」については、3年生になってからの短時間の応募前見学だけで全て把握することは難しいでしょう。1～2年生の時期から具体的な職種・企業を定め、できるだけ正確な情報を集めることが大切です。インターンシップや企業説明会を活用しましょう。

進路通信

白糠高等学校
進路指導部
第8号
2022年11月10日発行

◆事業所へのアンケート結果②◆

質問3 早期離職を防ぐための方策として有効なものをお答えください。（複数回答可）

	事業所 (25)	卒業生 (20名)
職場内のコミュニケーション	23	16
相談体制の充実	18	11
休暇が取得しやすい	15	12
若者が話しやすい雰囲気づくり	15	12
研修の充実	12	5
給与を上げる（給与水準を上げる）	11	8
適切な勤怠管理	10	8
本人の希望を生かした配置	9	8
福利厚生の実施	9	7
評価制度の充実	5	3
仕事の分量を平等にする（業務量の平準化）	4	4
アルバイトなどの就業体験（自由記述）	1	4
同期入社がいる。年の近い先輩がいる。（自由記述）	1	4

質問4 早期離職の原因として考えられるものをお答えください。（複数回答可）

	事業所 (25)	卒業生 (20名)
職場の人間関係	15	17
思っていた仕事の内容と違った	15	11
生徒の自己分析不足	6	6
労働条件のミスマッチ	4	4
・年齢差によるコミュニケーションの取り方の誤解の相違によるもの。 ・あいさつや返事ができないことがある。（自由記述）	3	4

・事業所と卒業生の回答傾向がほぼ一致していることがわかります。
・「適切な勤怠管理」は卒業生へのアンケート項目にありません。

進路通信

白糠高等学校
進路指導部
第8号
2022年11月10日発行

質問5 新規高卒者への対応で気を付けていることをお答えください。

- ・職場内のコミュニケーション。声かけ。（5件）
- ・言葉づかいと相談しやすい環境づくり。（2件）
- ・長い目で見て育てる、自信をもってもら。（2件）
- ・一方的に会社側から話すのではなく、新規高卒者の意見を引き出せるような取り組み（研修）、機会をつくるようにしている。
- ・学生時代との日常の対人環境の変化を伝える。
- ・作業を教えていく中で話し方と教え方をわかりやすく説明すること。
- ・わからないことを聞き出す。
- ・積極的に取り組む方が少ない傾向（現在は）なので、わかるまで指導する。先輩から声かけをする。
- ・職場内の挨拶と新人なので先輩社員とのコミュニケーションを取るよう指導したが本人には伝わらなかった。
- ・新社会人なので、「これはわかるでしょ」ということも一から丁寧に教えるようにしています。
- ・現代においては、企業内においてハラスメント防止教育が徹底されています。また現在の若者は個人主義が盛んになっている世代ですので、本人の個性を尊重して、結果として先輩社員からは必要以上に強制することや、干渉しないように心掛けています。
- ・専従の職員からの指導研修
- ・セクションごとの先輩職員として仕事の教え方を検討する。何度も仕事教える。いっぺんに仕事を教えない、少しずつ教える。
- ・若手社員が比較的多い店舗へ配属。通勤が負担にならないよう、自宅からの通勤距離を考慮。
- ・同じ指導者からのきめ細かいフィードバック（社員の業務・行動を評価し、改善点を示すこと）
- ・ご本人の健康管理について、気を付けています。また、楽しく仕事が出来るか、目標を持っているか、悩み事を抱えていないか等の見守りし、気を配っています。
- ・指導する場合にきちんと理由付けしてあげて説明している。
- ・いい事だけではなく、会社の課題点や仕事の大変さを伝えるようにしています。
- ・1週時、1ヶ月、3ヶ月など、定期的に個々で面談を実施している。困っていることはないか等、常に声をかけている。なるべく本人の意向を尊重した配置にしている。
- ・上司や先輩による仕事面でのフォローはもちろんですが、①業務ではあまり関わらない他部署の社員との交流機会を持つ、②外部委託のキャリアコンサルタントによる定期面談 など、精神面でのフォローも出来るよう心がけています。

事業所側は新人を大切に育てようと思慮していることが読み取れます。そして「挨拶」「返事」「丁寧な言葉使い」「わからないことは聞く」など社会人としての基礎力が求められていることがわかりました。このような力は学生のときでも普段から意識して身に付けることができます。日常的に学校の先生や年上、目上の人と接する中で、こうした力を高めてください。

高卒新入社員に即戦力として高い成果を期待している事業所はありません。それよりも、「明るく元気で素直に、たとえ間違っても、叱られても立ち直る姿勢」が求められていると感じました。

【進路通信 第8号（事業所へのアンケート結果②）】

○各研究指定校の主な取組と成果・課題等

	主な取組	成果・課題等
伊達開来	・ 卒業生が入社した企業へのアンケート	・ 企業が求める人物像、就職希望者に対する指導上の課題や卒業生に対する支援について把握することができた。
	・ ICT を活用した求人票検索及び企業の情報収集	・ 求人票管理ウェブシステムの導入を検討しているが、本格導入に向けて環境整備が必要である。
静内農業	・ 進路希望未定者に対する関係機関と連携した進路指導	・ 10 月末時点で、進路希望未定者の情報をハローワークと共有することで、連携して該当生徒を支援する体制が構築できた。
	・ キャリアプランニングスーパーバイザーと連携したオンライン面接指導	・ キャリアプランニングスーパーバイザーによる面接指導を複数回実施し、録画機能を活用することで、生徒自身が面接時の所作等について振り返ることができた。
松前	・ キャリア・パスポート推進会議の発足	・ 町内で一貫したキャリア教育を推進するため、小・中学校、高校の教員が参加して年間で4回開催し、キャリア・パスポートの改善・充実を図ることができた。
	・ 町教委と協力したキャリア・パスポートの普及・啓発	・ 地域で児童・生徒を育成する視点を持ち、進路・学習・生徒指導などの部門に分かれた会議を定期的に行い、学校間連携を強化する必要がある。
旭川北	・ 「進路の手引」の作成	・ 障がいのある生徒に対する個別の教育支援計画等について、職業準備の観点から検討を重ねることができた。
	・ 校内研修会の開催	・ 就職未内定の生徒に関して個々のケースを検証するなど、就業支援について、教員の共通理解を図ることができた。
白糠	・ 町が運営する公営塾と連携した「社会人準備教室」の開催	・ 参加生徒は、敬語、マナー及び電話対応を学ぶとともに、宿泊業に就職を予定している生徒は、来客案内も学ぶことができた。
	・ 卒業生が入社した企業への訪問及びアンケート	・ アンケート結果に分析を加えたものを「進路だより」に掲載して、生徒・保護者に伝えることができた。
標津	・ 卒業生が就職した企業への訪問	・ 企業や卒業生が高校に求める取組について情報を収集できたが、早期離職した卒業生の追跡等は困難な場合が多い。
	・ ICT を活用した応募前企業説明会や就職試験に望む生徒の支援	・ オンライン面接のマニュアルを作成し、従来の「面接のしおり」に加えることができた。

令和5年度「就職指導の改善に関する研究」報告書（野幌）

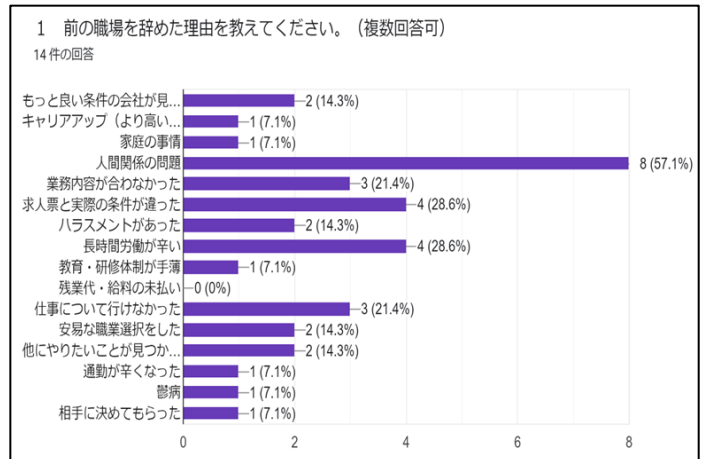
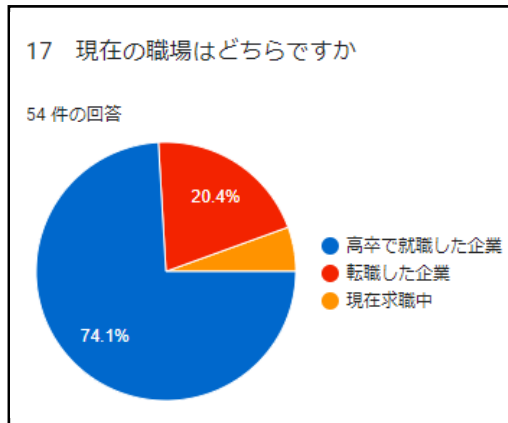
1 就職後3年以内に離職する早期離職の改善のための就職後の生徒に対する支援

【取組内容】・卒業生に向け相談窓口開設
・就職生追跡調査実施

- ・相談窓口開設のお知らせと過去3年就職者追跡調査を Google Forms で対象者 144 名に送付し、54 名から回答を得た。

<成果や課題>（成果○ 課題●）

- 相談窓口に近況報告のメールや電話があり、既卒者の動向把握の一助となった。
- 連絡のない卒業生が多く、離職状況把握には、来年度も継続した取組が必要である。



【アンケート実施結果（一部抜粋）】

2 就職未内定または進路希望を設定できないまま卒業した生徒に対する支援

【取組内容】・進路ガイダンスの実施
・地域若者サポートステーションとの連携
・今年度卒業した卒業生に対し、就職相談窓口のお知らせ葉書の配布

<成果や課題>（成果○ 課題●）

- 人的ネットワークが構築され、若者サポートステーションとのつながりができ、卒業後、次の仕事に踏み出せない生徒や、3年生で進路希望を設定できない生徒を引き続き支援するための支援を充実することができた。
- 今年度卒業生で、進路希望が設定できなかった生徒が1名、就職内定が決まるのに時間が掛かった生徒が1名いるなど、生徒個々の課題について、予防策及び解決策の検討・改善を図る必要がある。

3 新規高等学校卒業者に係る就職慣行（いわゆる「一人一社制」）に関する状況の把握

【取組内容】・江別市役所経済部商工労働課との連携

<成果や課題>（成果○ 課題●）

- 一人一社制に関わる意向調査のための資料を作成し、現状と課題について整理することができた。
- インターンシップの依頼企業にも、意向調査への協力を依頼し、状況把握することを検討する必要がある。

4 その他、就職指導を改善・充実するための教育活動に関する取組

【取組内容】(1)インターンシップの実施
(2)職業適性検査 GATB による生徒の分析
(3)就職支援相談員の活用

<成果や課題> (成果○ 課題●)

(1) インターンシップの実施

(9月13日・14日、2学年全員110名対象に実施、近郊31事業所の協力)

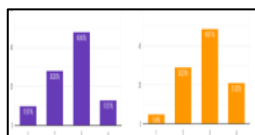
- 生徒にとって、自分の適性や希望進路について深く考えるよい機会になった。
- 企業から、高校生の考え方の理解につながるとともに、職員のよい刺激となったとの感想が見受けられた。
- 教員の業務が多くなり、生徒指導に関わる時間の確保が課題である。

<インターンシップの事前事後アンケート結果(生徒)>

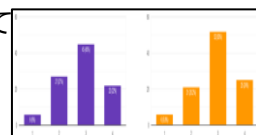
【下記の結果概要グラフについて】

- ・青(左側)が「事前」、橙(右側)が「事後」
- ・4段階で評価
- ・右にいくほど「よく分かっている」、「興味関心がある」、「イメージがつく」

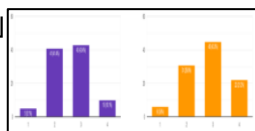
①自分の長所について
「分かっているか」



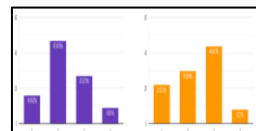
②自分の興味関心について
「分かっているか」



③自分の社会の繋がりについて
「興味関心があるか」



④将来職場で働くことについて
「イメージがつくか」



<インターンシップの事後アンケート結果(教員・事業所)>

- ・「学校や生徒に事業内容などを理解してもらえた機会になった」と回答…82.1%
- ・『生徒にとって今回のインターンシップは有意義なものになったと感じますか』
「おいになった」と回答…58.3% 「まあまあだった」と回答…41.7%

(2) GATB 一般職業検査の実施

- 生徒の足りないスキルが明確になり、次年度以降の進路指導の重点が明らかになった。

特に、生徒への自己認知の理解不足について、職員間で共通認識をもつことができた。

- 生徒の足りないスキルを計画的に育成する教科等横断的な指導が必要である。

・知的能力 状況を分析する。

工夫したり、新しいアイデアを出す。

評価段階		R4 (%)	R5 (%)
高い	A	0	0
↑	B	1	3
↑	c	0	1
↓	C	8	7
↓	D	33	21
低い	E	57	66

(3) 就職相談員の活用

【一般職業検査実施結果(一部抜粋)】

- 職業選択段階より面談を実施したことで、春休みに職場見学を申し出る生徒が見られた。
- 面接時間が十分に確保できず、全就職希望者に機会を設けることができなかった。
- 普段、接していない方に対して、自己開示できない生徒がいる。

5 成果の普及

- (1) インターンシップの振り返りについては、教員の classroom で共有
- (2) 年度末評価会議で、本研究の取組内容について提言
- (3) 3月12日に、在校生に対して、就職の流れや取組について、進路指導部員から説明するとともに、職場見学の必要性について、卒業生からの講話を実施

6 今後の方策

- (1) 「総合的な探究の時間」で、学習プログラム確立のため、インターンシップの方法検証、成果を収集するなどの取組を継続して実施する。
- (2) 来年度、外部 NP0 に協力いただき、メタ認知力の獲得をねらう行事を実施する。
- (3) 引き続き個別面談等の内容の充実を図る。

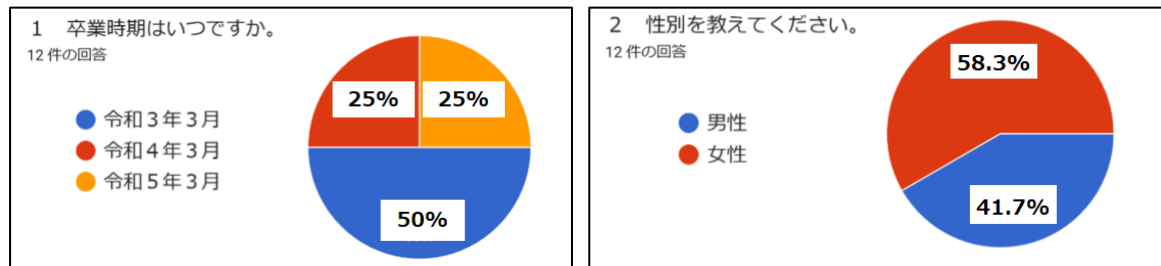
令和5年度「就職指導の改善に関する研究」報告書（伊達開来）

1 就職後3年以内に離職する早期離職の改善のための就職後の生徒に対する支援

【取組内容】・過去3年の本校を卒業し、就職した生徒へのアンケート実施

<成果や課題>

【アンケートの実施結果】



今年度実施したアンケートは、アンケート対象者の85名（R5：25、R4：23、R3：37）に実施のお願い（二次元コードを読み取り、Google フォームで回答）を郵送した。住所不明により、戻ってきたものが9件あり、76名に連絡がついたと仮定すると、回答数は12件であったため、回答率は15.8%（85名とすると、14.1%）となり、実態を把握できたとは到底言いがたい結果であった。

卒業生の現況把握のためには、回答率の向上が課題である。そのために今年度の卒業生に対しては、就職内定者指導を1月19日に行われた「就職内定者サポートセミナー」に合わせて実施した。全体の説明が終了後、本校の進路就職担当からの説明の中で、卒業後も高校との関わりとして、悩み事や仕事に関する相談の窓口があることや、アンケートが実施されることなどを説明した。この取組を円滑に進めるためには、本校の学校体制のあり方を整備する必要がある、担任等が異動しても継続して支援できる体制づくりが必要である。

また、本校を訪問いただいた企業からは、卒業生の会社での様子などについて知ることができた。また、企業が求める生徒像などを尋ね、その結果を就職希望生徒と共有することができた。

2 就職未内定または進路希望を設定できないまま卒業した生徒に対する支援

【取組内容】・ハローワークと連携した支援の継続

<成果や課題>

今年度、1名が未内定のまま卒業したが、担任・進路指導課が連携をとりながら支援を継続している。また、ハローワークとも連携をとり、新卒者用個別相談窓口の登録を済ませ、本人が一般求人も含めて検討できるよう支援を続けている。

課題としては、どこまで支援をするかであり、例えば、本人がアルバイトを始めた場合などは学校としての支援が難しくなる。

3 新規高等学校卒業者に係る就職慣行（いわゆる「一人一社制」）に関する状況の把握

【取組内容】・現状では一人一社制が有効

<成果や課題>

生徒・保護者などに対するアンケートを実施することができなかった。しかし、三者面談等における聞き取り状況から、現状の一人一社制の方が、生徒も保護者も制度について理解しやすく、複数社（一人二社）受験には、生徒の負担も増え現実的ではないと考えている声があった。

4 その他、就職指導を改善・充実するための教育活動に関する取組

【取組内容】・総合的な探究の時間の有効活用
・学年団、進路指導課との連携の充実

<成果や課題>

今年度は、3年次の総合的な探究の時間をほぼ前期に集中し、右表のように進路先別にクラス編成をして実施した。そのため就職に関しては、9月の就職解禁までに例年より指導する時間を多く確保することができた。自己理解からはじまり、職業内容の理解、希望企業の調べ学習など、ミスマッチを減らすために、受験する企業選びに時間をかけた。

求人票が公開になってからは、履歴書の作成や商工会と連携した面接練習等の実施など、生徒に対して手厚い指導を実施することができた。

また、学年団（個々の担任）などで指導に偏りが起こらないよう、右表にある進路シラバスにもとづいて指導を実施した。また、詳細については進路指導課からその都度発せられる実施要項により、指導を充実することができた。

5 成果の普及

HP等により、指導内容・結果等の普及を図っている。校内においては、年度末反省会議などを利用して情報の共有を図った。

6 今後の方策

- ・就職後の生徒に対する支援のために実施しているアンケートの回答率をあげるために、実施方法を含め検討する。また、卒業生が離職等の問題が相談できるよう、相談窓口を設置し、ウェブページに掲載するなど支援の継続性を図る。
- ・総合的な探究の時間の活用方法を更に検討し、継続的な進路指導ができる校内体制の改善を図る。
- ・ウェブページの有効活用を図り、進路指導の成果の普及を発信する。また、「進路だより」の作成などを計画し、より一層開かれた学校をめざす。
- ・来年度は、一人一台端末の活用の完成年度になるため、ICT機器を利用した進路指導を検討する。その際、求人票の管理の方法、求人票の閲覧の方法等を検討する。
- ・C P S V及びカウンセラーとの連携を強化し、効果的な活用の在り方について検討する。

<「総合的な探究の時間」における進路別のクラス編成>

総合的な探究の時間（3年次）キャリア探究概要						
カテゴリー	大学①②		短大・専門学校①②	看護	公務員	就職
使用教室	3F 202		3D 3C	3B	3A	207
回	月	日	曜			
内容						
1	4	27	木	オリエンテーション 課題設定 ・自らの進路探究（進学・自己探究）に向けた課題を設定する。		
2	5	11		スケジュール確認 カレンダー作成	看護模試（英語） 解説	スケジュール確認 自己理解（プリント） スケジュール確認
3		24		入試方法の説明	看護模試（生物） 解説	自己理解 自己理解（プリント）
4		30		総合型（AO）に係るエ ントリー指導	集団討論の練習	自己理解 自己理解（プリント）
5	6	22		学校比較・研究 PR研究 課題研究	自己推薦書 入学願書の書き方	試験情報収集 自己理解（プリント）
6	7	5		学校比較・研究 PR研究 課題研究	自己推薦書 入学願書の書き方	試験勉強 企業研究 求人票の見方
7		12		学校比較・研究 PR研究 課題研究	自己推薦書 入学願書の書き方	試験勉強 企業研究 求人票の見方

<進路シラバス（3年次用）>

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
学校行事	入学式 対面式 交通安全教室	生徒総会 高体連地区	高体連全道 学校祭準備 留学報告会	学校祭 夏期休業	体育祭①	体育祭② 自動車運転免許説明会
進路に係る活動	基礎力 診断テスト① 基礎力振り返り	教育相談		三者相談		
就職			合同企業説明会	求人票公開 応募前職場見学	試験試験解禁	
公務員					一次試験	
専門学校			AO入試エントリー開始			
看護・大学・短大	進学相談会	奨学金 予約申し込み	小論文添削指導			推薦選考

令和5年度「就職指導の改善に関する研究」報告書（苫小牧工業(定)）

1 就職後3年以内に離職する早期離職の改善のための就職後の生徒に対する支援

【取組内容】・卒業生の就業状況を把握し、離職した生徒への支援の実施

<成果や課題>

卒業生の離職状況と企業の実態を把握するため、就職状況調査を実施した。調査結果をグラフ（図1、2）に示したが、卒業生と企業側での意識や考え方に違いがあることが把握できた。調査に当たっては、卒業生への連絡が取れず、回答数が少なかったため、個人情報に配慮しつつ、卒業生との連絡方法等について確立する必要がある。

離職した生徒の再就職へ向け、学校が地域若者サポートステーションと連携して、早期離職した生徒への支援を行うことができた。

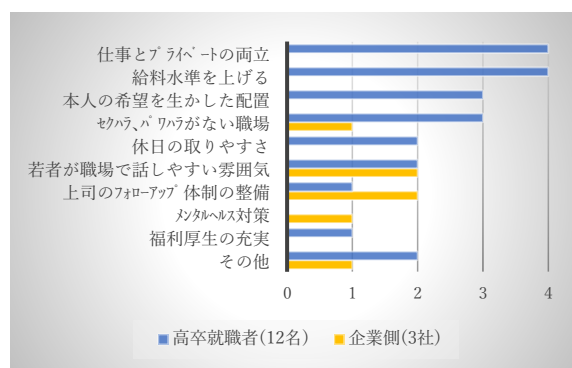
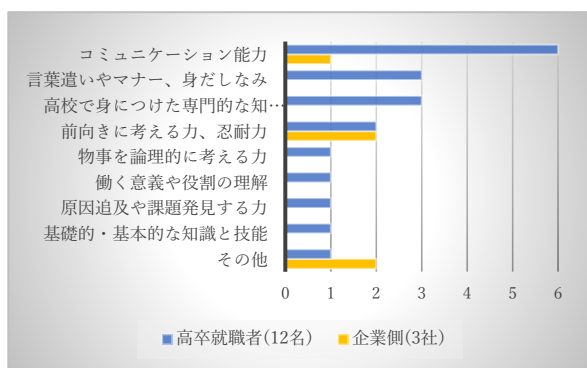


図1 高校時代に身につけるべき仕事に役立つ能力(複数回答可)

図2 早期離職を防ぐための会社の取組(複数回答可)

2 就職未内定または進路希望を設定できないまま卒業した生徒に対する支援

【取組内容】・生徒に寄り添った進路相談や面談の実施
・関係機関と連携した支援の実施

<成果や課題>

就職未内定や進路希望が設定できない生徒には、それぞれに複雑な状況や様々な課題があり、生徒の状況や特性を十分に把握したうえで、一人ひとりにあった支援が必要である。

進路指導部では担任と連携し、生徒に寄り添った進路相談や面談をきめ細かく実施している。さらに、ハローワークや地域若者サポートステーションと連携することで、様々な課題を抱えた生徒への支援体制を構築することができた。

今年度より、ソーシャルスキル育成プログラムを実施し、進路実現に向けて、他者との人間関係を構築する能力の向上を図り、自己理解の向上のきっかけとなった。



【ソーシャルスキル育成研修の様子】

3 新規高等学校卒業者に係る就職慣行（いわゆる「一人一社制」）に関する状況の把握

【取組内容】・就職慣行（一人一社制）について聞き取り調査の実施

<成果や課題>

8月以降、就職慣例について生徒及び企業へ聞き取り調査を実施したところ、生徒によって「一人一社制」が56%、「複数受験可」が44%と意見が分かれた。

また、企業側は「一人一社制」が91%となっており、人手不足により確実に人材確保したいという理由を挙げる企業が多数あった。

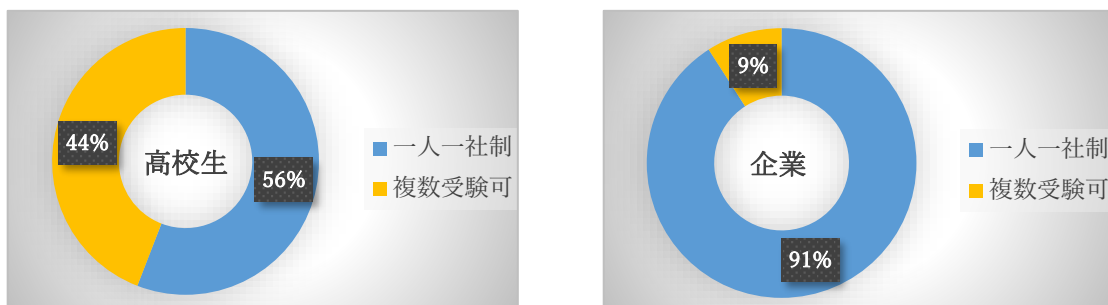


図3 新規高等学校卒業者に係る就職慣行についての調査

4 その他、就職指導を改善・充実するための教育活動に関する取組

【取組内容】・地域の関係機関と連携したキャリア教育に関する取組の実施

<成果や課題>

地元の中小企業家同友会に協力をいただき、「地元企業の方と話す会」を10月と3月の2回にわたり実施した。複数の企業の方が御自身の体験談を交えて、それぞれの業種と立場で話していただき、生徒は企業の方の話を真剣に聞いて職業観を深めることができた。

今後は、在学中の地元企業へのアルバイト等から、卒業後の地元企業への就職につながる連携体制の構築をしていきたい。



【「地元企業の方と話す会」の様子】

5 成果の普及

成果の普及は、本校ウェブページに進路活動を掲載し、普及に努めているところではあるが、今後は掲載内容の充実や普及する手段について検討を行うなど、改善を図る必要がある。

6 今後の方策

次年度以降も引き続き、地域若者サポートステーションや中小企業家同友会などの関係機関との連携を継続し、生徒の進路実現や早期離職の改善、離職者への支援体制の構築に努めていく。

令和5年度「就職指導の改善に関する研究」報告書（静内農業）

1 就職後3年以内に離職する早期離職の改善のための就職後の生徒に対する支援

【取組内容】・卒業生が働いている事業所への電話や事業所訪問の実施
・就業状況調査の実施

<成果や課題>

事業所や卒業生との情報共有を円滑にするため、卒業生が働いている事業所を10社程度訪問した。訪問したことで、卒業生の様子をより深いところまで聞くことができたと同時に、卒業生と直接話をする場を設定したことで、卒業生の現状を確認することができた。一方で、訪問により、既に離職していたことに気付いた例もあった。そのため、今まで以上に事業所との関わりを深め、卒業生が学校に相談できるような窓口の設置も検討していく必要がある。

就業状況調査を実施し、直近3か年の就職者66名中33名から回答を得ることができた。卒業生に「早期離職を防ぐために、高校でも取り組むことが大切だと思うもの」を質問すると、職場見学を繰り返すことの大切さやビジネスマナーの重要性など、今後の指導計画を見直す貴重な機会となった。今年卒業した生徒に対しても、継続的に支援するとともに、調査内容の改善に努めていく。

2 就職未内定または進路希望を設定できないまま卒業した生徒に対する支援

【取組内容】・ハローワークと連携を図った進路活動の実施

<成果や課題>

在学中に関係機関（ハローワーク、日高教育局等）と連携し、支援体制を確立することができた。次年度は卒業生と連絡する方法を改善していく必要がある。

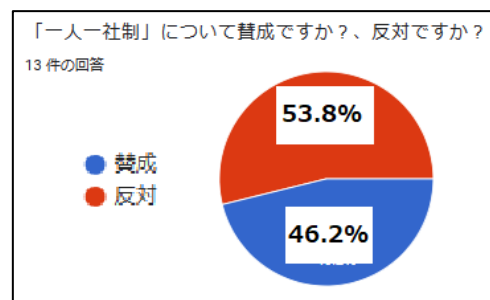
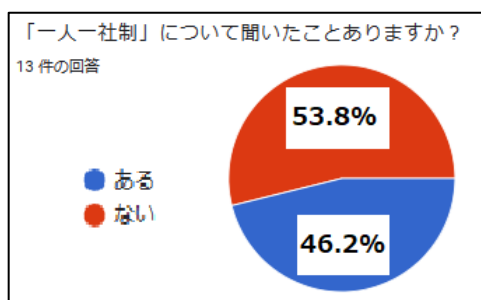
3 新規高等学校卒業者に係る就職慣行（いわゆる「一人一社制」）に関する状況の把握

【取組内容】・Google フォームによる「一人一社制」のアンケートを実施

<成果や課題>

10月に3年就職者を対象に「一人一社制」についてのアンケートを実施した。

「一人一社制」については、意見がほぼ半々に分かれている。また、進路活動の経験から賛成の理由、反対の理由について、次のとおり回答している。



<賛成の意見>

- ・一つに絞らないと、履歴書や面接の完成度が下がりそうだから。
- ・集中できるから。
- ・本当にその企業に行きたい人が集まると思うから。

<反対の意見>

- ・個人の可能性を試す機会が減ってしまうから
- ・時代に逆行しているように感じるから
- ・企業の選択が狭まってしまうから
- ・試験に落ちた時のことを考えて、2社受験できるようにしてほしい

【生徒へのアンケート結果】

4 その他、就職指導を改善・充実するための教育活動に関する取組

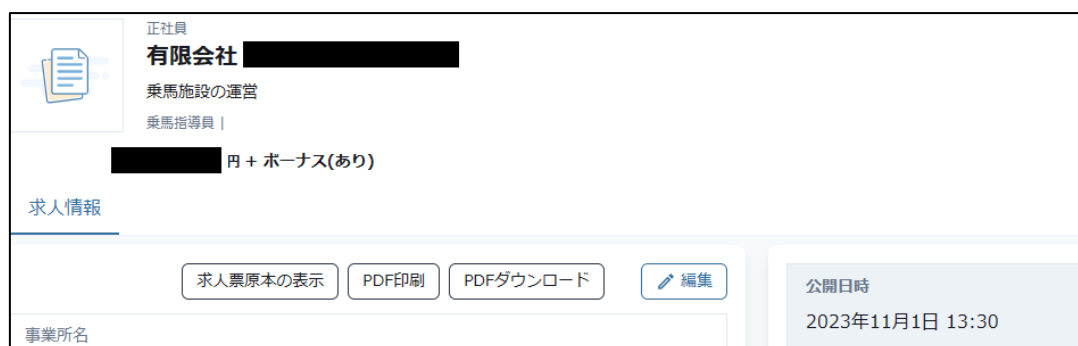
【取組内容】・企業説明会や面接セミナーの実施

・求人票管理クラウドサービス(handy 進路相談室)を導入

<成果や課題>

企業説明会や面接セミナーを、日高教育局やハローワーク、静内ロータリークラブと連携し実施したが、生徒は日頃と違う環境で進路に向き合うことができた。次年度も実施を予定しており、履歴書作成や面接など、早期から計画的に取り組める環境を整えていく。

今年度、求人票管理クラウドサービスを導入し、本校に届いた求人票や来校、訪問の際に頂いた求人票をすべてデータ化した。それにより、生徒がいつでも閲覧できるようになったものの、生徒は、本システムを利用する習慣が身に付いていなかったため、あまり活用されなかった。今後、効果的な活用方法を伝えるなど、今後も積極的に活用していく必要がある。



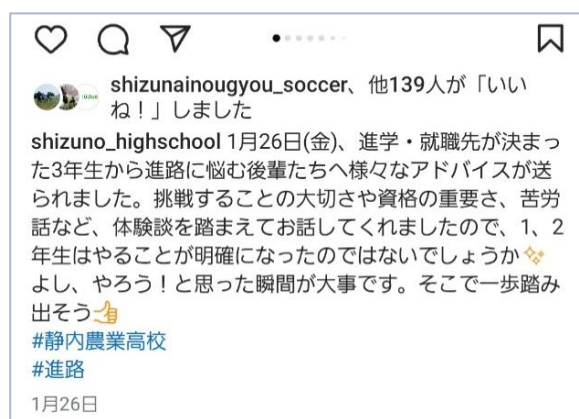
【データ化した求人票】

5 成果の普及

生徒が取り組んできた進路活動の様子をメディアへ発信するとともに、本校の SNS に掲載した。また、本事業の取組の成果を、先生方で共有することで、生徒の進路活動を全教職員で支援する意識の向上を図った。



【後輩へのメッセージの様子】



【進路活動の様子を SNS に掲載】

6 今後の方策

- ・就業状況調査の継続と調査方法の改善
- ・PDCAサイクルを踏まえたキャリア教育に関わる授業改善
- ・就職先とのミスマッチを減らすための就業体験活動や職場見学の充実
- ・事業所と学校の連携を円滑にするための積極的な事業所訪問

令和5年度「就職指導の改善に関する研究」報告書（幕別清陵）

1 就職後3年以内に離職する早期離職の改善のための就職後の生徒に対する支援

【取組内容】・企業訪問による就業状況の把握及び企業が求める人物像の把握

<成果や課題>

6～7月、過去2年間に卒業生が就職した十勝管内の企業を進路指導部員で訪問した。卒業生の就業先での勤務状況や企業が求める人物像を把握でき、特に早期離職した卒業生の背景や理由を探ることができた。中には、理由を誰にも伝えずに離職していく事例もあった。改善策として、就職に対する確かな「職業観」の形成や社会人基礎力である「コミュニケーション力」の育成を図る必要がある。

【早期離職の主な理由】

- ・保護者の勧めで就職したため、仕事に対する基本的な姿勢や態度が前向きになれない。
- ・仕事内容を十分理解せずに就職したため、理想と現実の落差に悲観した。
- ・職場の方々とのコミュニケーションが取れず、誰にも悩みを相談できない。
- ・仕事がハードで耐え切れない。辛抱強く物事に打ち込めない。

【早期離職しないための改善策】

- ・応募前見学（複数）に行き、仕事内容を十分理解したうえで応募する。
- ・自己分析により自分の希望や適性を客観的に知り、就きたい職種を把握しておく。
- ・働く意義、就職の心構えを学ぶ機会を増やす。
- ・授業、部活動並びに校外活動に対し、生徒自ら主体的に取り組める状況を教員側も意識的につくり上げる。

2 就職未内定または進路希望を設定できないまま卒業した生徒に対する支援

【取組内容】・十勝教育局、ハローワーク、ジョブカフェ等と連携した支援体制の強化

<成果や課題>

4月から8月にかけて、生徒が下表の各種就職セミナーに参加するよう促し、講師の方々から就職に向けての心構えや自己分析、自己PR、履歴書の書き方等の指導を仰いだ。この結果、生徒達は具体的な就職活動（求人票公開まで、応募書類作成まで、就職試験まで）を概ね計画的に遂行し、内定を得ることができた。中には、複数回就職試験を受験する生徒もいたが、12月末までに就職希望者全員が内定を得た。

課題としては、各種セミナー参加に対する一部生徒のモチベーションの維持があり、予め質問事項を準備する等の事前指導の工夫が考えられる。



【就職セミナー 模擬面接の様子】

表1 参加した進路別オリエンテーション及び就職セミナー

月 日	内 容	生徒数	講 師 等
4月24日	進路別オリエンテーション 進路実現に向けた心構え	38名	北海道教育庁十勝教育局 進路相談員 八幡裕樹子 氏
5月10日	進路別オリエンテーション 自己PR・履歴書の書き方	38名	ハローワーク帯広 就職支援ナビゲーター 細野博樹 氏
5月29日	進路別オリエンテーション 自己分析	38名	ジョブカフェ帯広 キャリアアドバイザー 村上博子 氏 コーディネーター 大和田真澄 氏
7月26日	就職ガイダンス(厚労省委託事業)	38名	東京リーガルマインド 八木森敏男 氏、城戸和子 氏
7月27日	社会人になるための就職セミナー 就職の心構え キャリアデザイン講座 カンセリング 実践面接	20名	東京リーガルマインド 城戸和子 氏 officeフォージ エミネット 高橋好志子 氏 ノースパスト(株) 小森豊弘 氏 (株)曾我 曾我浩昌 氏 ほか
8月2日	就職セミナー コミュニケーションスキルアップ セミナー	26名	ジョブカフェ帯広 村上博子 氏、大和田真澄 氏 十勝総合振興局商工労働観光課 會田憲幸 氏、小林龍一郎 氏
8月4日	就職セミナー 模擬面接練習	22名	ジョブカフェ帯広 村上博子 氏、大和田真澄 氏 サンテクノ(株) 兼子賢 氏 ほか

3 新規高等学校卒業者に係る就職慣行（いわゆる「一人一社制」）に関する状況の把握

【取組内容】・アンケート調査の実施

<成果や課題>

令和6年1月、民間就職予定者を対象に Google フォームを用いてアンケート調査を実施し、23人から回答を得た。約半数が一人一社制を望んでいることが分かった。複数企業を希望する場合は、準備段階から負担が増え、精神面でも重荷を負うことが予想される。早期離職の要因に「一人一社制」も挙げられるため、一層のキャリア教育の充実が求められる。

「一人一社制」アンケート結果

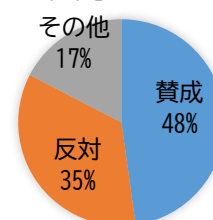


表2 「一人一社制」に対する賛成・反対理由

賛成理由	反対理由
入社したいと決めている人が優先的に選ばれて欲しいから 早期離職しないことにつながるから その方が気持ち引き締まり、やる気が出るから 複数の会社を選べると、行くところが曖昧になってしまうから	受ける機会が多い方がよいから 何社も受けた方が就職しやすいから

4 その他、就職指導を改善・充実するための教育活動に関する取組

【取組内容】・企業説明会及び新規高卒者就職面接会への参加 ・療育手帳所有者に対する就職指導

<成果や課題>

企業説明会を通して、地元十勝の「企業の概要・社風」、「具体的な職務内容」、「求める人材像」を把握し、就職応募先を絞り込む際の参考となった。中には、自分の興味・関心のあるブースを回るだけで、希望分野以外の企業の説明を受けない生徒もあり、職業理解につなげる指導も必要だと感じた。また、11月の新規高卒者就職面接会までに就職試験受験に至らない生徒に対しては、キャリアカウンセリング等、生徒に寄り添う継続的な支援も行った。

療育手帳所有者に対しては、生徒及び保護者の了解の上、企業の人事担当者に事前に生徒の情報を電話で伝え、応募前の企業見学を行った。その際、進路指導部の就職担当も同伴し、生徒の不安を払拭と企業の人事担当の生徒理解につなげ、その後、障がい者雇用枠で面接試験を受験し、内定を得た。

表3 参加した企業説明会及び新規高卒者就職面接会

月 日	内 容	生徒数	参加企業数
6月26日	お仕事フェア2023 高校生のための合同企業交流会	35名	参加企業 40社
8月3日	高校生のための合同企業説明会	23名	参加企業 50社
11月1日	新規高卒者就職面接会	6名	参加企業 29社



【合同企業交流会の様子】

5 成果の普及

早期離職する現状や企業が求める資質・能力を把握することで、ミスマッチを未然に防ぐことにつながる。校内研修会（8月）では、卒業生の現状や企業側の対応等について、全教員で情報共有し、本校生徒の就職指導の課題を明確化することができた。また、道進協十勝支部就職分科会において、本校と同じ規模の学校と情報交換をすることができた。

6 今後の方策

急速に変化する社会情勢に適切に対応するためには、主体的な選択能力の育成及び職業意識の育成を図っていくことが重要となる。その上で生徒に対し、就職セミナー、企業説明会、並びに応募前職場見学等へ積極的に参加を促す。情報収集した中から自分のキャリアプランに適した職種を自らの意思で選択させていくという自己決定能力の涵養を図ることが必要である。

令和5年度「就職指導の改善に関する研究」報告書（標津）

1 就職後3年以内に離職する早期離職の改善のための就職後の生徒に対する支援

【取組内容】・企業訪問、卒業生への聞き取りアンケートの実施

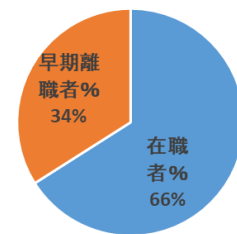
<成果や課題>

就職指導の改善を図る目的で、可能な限り企業訪問を行い、採用担当者や卒業生50名から離職状況を聞き取った。

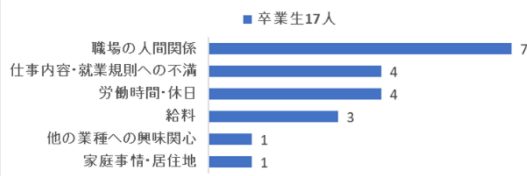
早期離職者は17名（全体の34.0%）で、全国の値28.9%（令和5年6月厚生労働省）と比較すると高い数値である（図1）。離職理由は、職場の人間関係、仕事内容が合わないことを挙げる卒業生や企業が多い（図2）。

このことから、コミュニケーション能力や企業訪問等による職業調べを一層充実させる必要がある。

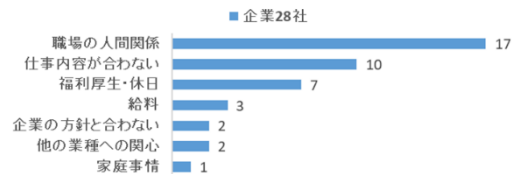
卒業後の早期離職状況（図1）



卒業生が考える早期離職理由（複数回答）（図2）



企業が考える早期離職理由（複数回答）（図2）



【アンケート調査の結果】

2 就職未内定または進路希望を設定できないまま卒業した生徒に対する支援

【取組内容】・関係機関の把握

<成果や課題>

今年度は対象者がいなかったが、今後、該当する生徒がいる場合、希望により就職未内定の卒業生を臨時職員として雇用する制度がある標津町と連携することや、他の就職支援などを実施している相談機関を把握し、必要に応じて活用する。

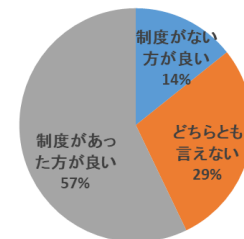
3 新規高等学校卒業者に係る就職慣行（いわゆる「一人一社制」）に関する状況の把握

【取組内容】・企業への聞き取り、生徒アンケートの実施

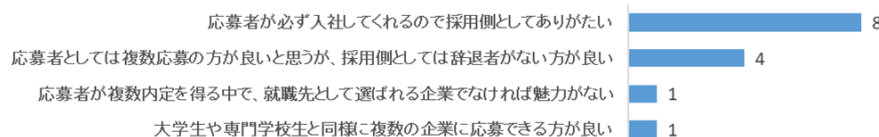
<成果や課題>

企業14社に対し、実施したアンケートの結果は、図3のとおりである。理由として、「複数応募できる状況で、若い求職者から選ばれる企業でなければ、会社の存続が難しい」という前向きな考えを示す企業がある一方で、「高校新卒者の応募者は（『一人一社制』のため）内定を出すと辞退することなく、確実に入社してくれるので採用側としてはありがたい」とする企業も多い。また、内定辞退者を増やしたくない採用側の事情と、制限されることなく、複数の会社を応募したい求職者側の事情の両方を考え、「どちらとも言えない」とする企業も多い実情がある。（図4）

1人1社制について（企業14社）（図3）



一人一社制についての考え（企業14社）（図4）



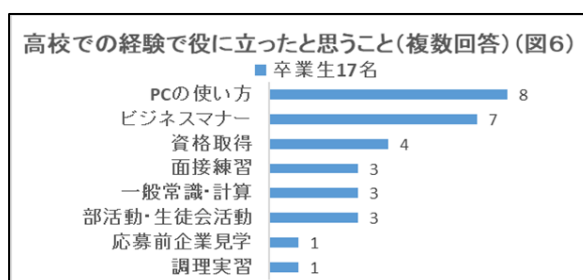
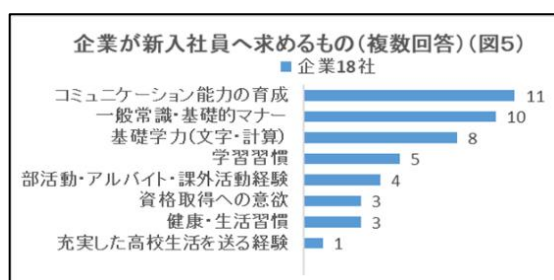
4 その他、就職指導を改善・充実するための教育活動に関する取組

【取組内容】・企業への聞き取り、生徒アンケートの実施
・キャリア計画の見直し

<成果や課題>

今年度実施したアンケート調査から、就職後3か月以内に離職していたケースや、次の職場においても早期離職に至ったケースもあることなど、卒業生の様々な現状を知ることができた一方、離職後の追跡調査が難しい卒業生が多かった。

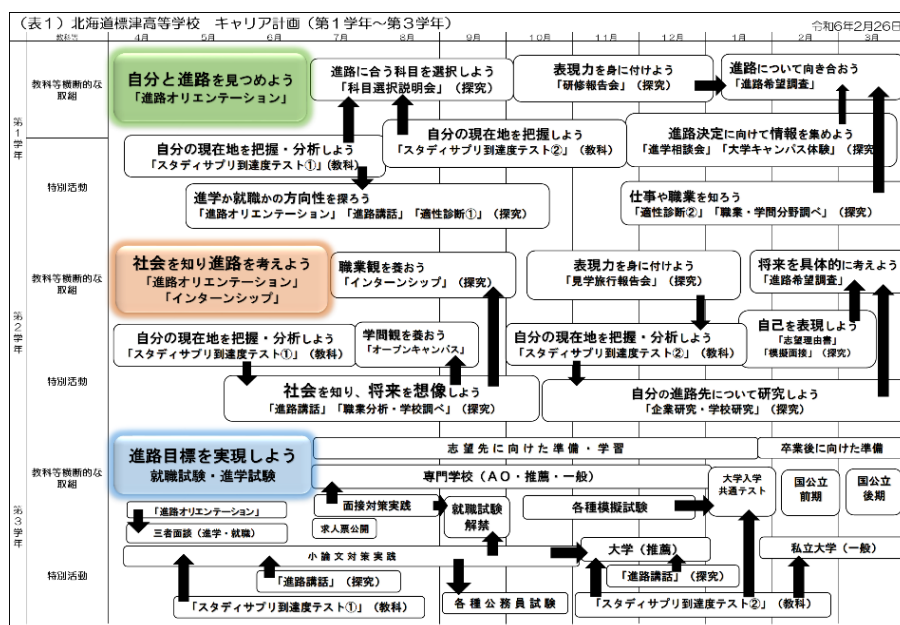
また、企業が新入社員へ求めるものや、高校での経験で役に立ったと思うことを把握することで（図5、図6）、企業が求める資質・能力との違いについて明確化でき、今後、企業が求める資質・能力を育む教育活動の充実が課題となる。調査結果を生かし、的確な就職支援を行うことを目指して、これまでのキャリア計画を見直し、教育課程の改善を図っていく。



5 成果の普及

今回の調査結果を踏まえ、進路シラバスや面接練習に使用する面接マニュアルの内容とともに、3年間を見通したキャリア計画を見直した。

第1学年では、探究的な学びとして「自己を知る」ことを目指した取組の充実、第2学年では「社会を知る」ことを目的とした取組、第3学年では、これまでの活動を踏まえて面接練習や履歴書作成に取り組み、「進路実現」を目指していく。3年間を通じて生徒の進路意識を向上させ、早期離職を防いでいきたい。



【見直しを行ったキャリア計画】

6 今後の方策

- ・卒業生の就職先への企業訪問による企業の要望や卒業生の就業状況を聞き取りの実施
- ・就職未内定、進路希望未設定の卒業生へ対応するための支援機関との情報交換及び連携
- ・オンラインを含めた企業説明会や応募前企業見学など、企業理解を深めるための取組の推進
- ・キャリア・パスポートの活用を通じた生徒の自己理解を深める取組を推進

令和6年度「就職指導の改善に関する研究」報告書（野幌）

1 就職後3年以内に離職する早期離職の改善のための就職後の生徒に対する支援

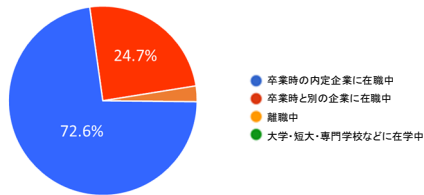
【取組内容】卒業生向け相談窓口の開設 就職者追跡調査の実施

相談窓口開設のお知らせと過去3年分の就職者追跡調査を Google フォームで実施

(113名へ送付 回答者73名)

<成果と課題> (成果○ 課題●)

4 現在の状況
73件の回答



○本校卒業生の離職率が全国平均より低かった。

○相談窓口にて近況報告のメールや電話があり、既卒者の動向把握の一助となった。

●一方で、連絡のない卒業生が多く、継続した取組が必要である。

2 就職未内定又は進路希望を設定できないまま卒業した生徒に対する支援

【取組内容】進路ガイダンスの実施

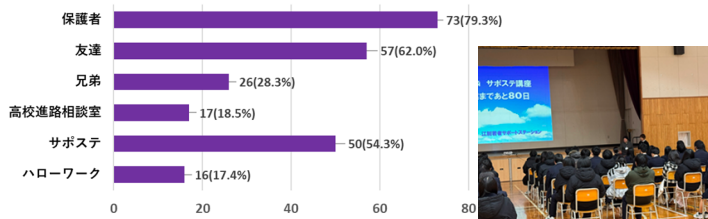
若者サポートステーションとの連携

卒業生あて就職相談窓口のお知らせ葉書の配布

<成果や課題> (成果○ 課題●)

○若者サポートステーションによる職業講話を2回、面談を8回実施し、卒業後の生活に不安がある生徒を引き続き支援するために、若者サポートステーションとつながる機会を設けることができた。

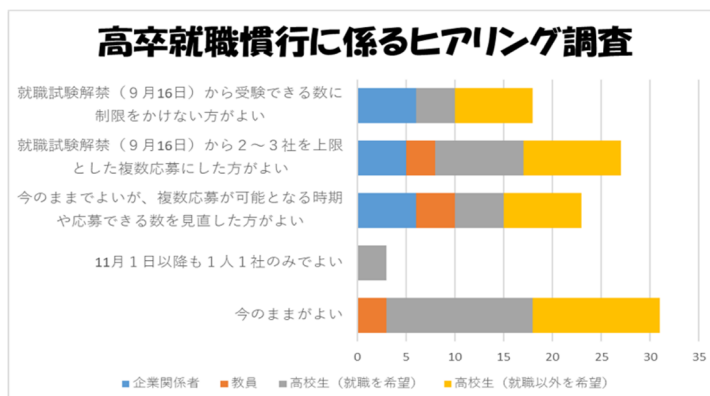
自分が卒業後に困ったときに相談できる選択肢を選んでください。
92件の回答



4月	9日基礎学カテスト 16日進路ガイダンス12年 18.19.25.26日進路相談員面談 23日進路ガイダンス3年 30日日本学生支援機構奨学金説明	10月	25日職業・学問説明会 28日サボステ面談 29日合同企業説明会
5月	10.15.16.21日進路相談員 14日サボステ講話	11月	8日2年生向け進路別ガイダンス 25日サボステ面談 26日SPI振り回り
6月	7日体験型職業体験 13日サボステ面談 26日GOGO企業説明会 27日カタリハ出前授業	1月	29日江別市高校生と企業との交流会 21日サボステ面談
7月	17日一般職業適性検査 18日サボステ面談	2月	5日卒業生の進路報告会
8月	27日サボステ面談	3月	1日就職相談室、サボステのお知らせ 進路相談員面談
9月	13日2年生保護者対象進路説明会 18.19日インターンシップ 24日SPI 25日サボステ面談		

3 新規高等学校卒業者に係る就職慣行（いわゆる「一人一社制」）に関する状況の把握

【取組内容】企業、保護者、教員及び生徒対象のアンケート調査の実施



<成果や課題> (成果○ 課題●)

○道教委からのアンケート調査を基に現状を把握することができた。

4 その他、就職指導を改善・充実するための教育活動に関する取組

【取組内容】(1) インターンシップの実施
(2) 進路相談員(キャリアプランニングスーパーバイザー)の活用
(3) カタリバの実施
(4) 江別市高校生と企業との交流会参加

<成果や課題>※ (1)～(3)について(成果○ 課題●)

(1) インターンシップの実施(9月18日・19日 2学年全員61名を対象にコンソーシアム協力企業、事業所27箇所で開催)

○生徒にとっては自分の適性や希望進路について深く考えるよい機会になった。

○企業にとっては、高校生の考え方を理解するとともに、職員のよい刺激となった。

●教員の業務が多くなり、事前指導等に関わる時間の確保が課題である。

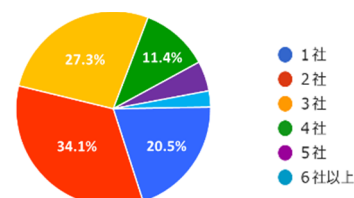
(2) 進路相談員の活用

○職業選択段階より面談を実施したことから、春休み中に職場見学を申し出る生徒が見られた。

●面談でうまく自己開示できない生徒がいた。

3月	15日 8人 21日 8人	18日 10人	6月	12日 11人 19日 11人	13日 11人
4月	18日 11人 25日 10人	19日 11人 26日 10人	9月	2日 11人 11日 11人	9日 11人 18日 11人
5月	10日 10人 15日 11人	14日 10人 16日 11人	10月	9日 9人	10日 7人

企業への職場見学は何社行きましたか
44件の回答



(3) カタリバの実施(自己理解、メタ認知獲得のための啓発)

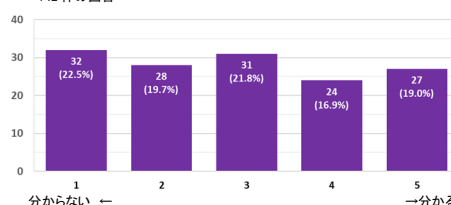
○自分自身を考えるきっかけになった。

○生徒の自己認知の理解不足について職員間で共通認識した。

●必要なスキルを計画的に育成する教科等横断的な指導、継続的な指導が必要。

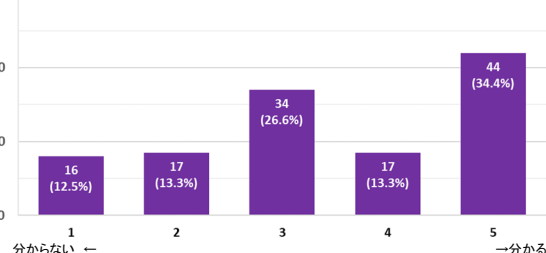
事前

4自分のやりたいことが何なのか分からない
142件の回答



事後 ⇒

128件の回答



5 成果の普及

○生徒が行ったインターンシップの振り返りについては、受入れ先の企業には礼状とともに送付し、本校教員にはGoogle classroomにより共有した。

○2年生保護者に対し、12月に進路の流れを周知するためのアンケートを実施した。

○3年生へ進路を振り返るアンケートを実施し、その結果を本校ホームページに「進路実現への道のり」として掲載した。

○進路行事などの実施状況等を、随時本校ホームページ及び公式noteに掲載した。

6 今後の方策

(1) 総合的な探究の時間の学習プログラム確立のために、インターンシップの方法について検証する。

(2) 進路相談員と引き続き連携し、計画的かつ効果的な面談の在り方について検討する。

令和6年度 就職指導の改善に関する研究報告書（伊達開来）

1 就職後3年以内に離職する早期離職の改善のための就職後の生徒に対する支援

【取組内容】・就職後の生徒との連絡方法の検討

<成果や課題>

【昨年度のアナケート調査】

- ・対象：過去3年間の卒業生 85 名
- ・調査方法：依頼状の郵送と Google フォームを用いたオンライン回答形式
- ・回答数：12 名（回答率 14.1%）

【今年度の取組】

- ・同形式での調査は見送り、卒業生の就職状況の把握については、来校された企業の人事担当者様から聞き取りを行うなど、可能な範囲で情報収集した。
- ・連絡先の確認：2月末（新住所、電話番号、メールアドレス）
- ・卒業生専用の Google Classroom を開設し、就職後の状況把握のためのアンケート調査を継続的に実施する予定。

2 就職未内定又は進路希望を設定できないまま卒業した生徒に対する支援

【取組内容】・未内定者との面談実施

<成果や課題>

【今年度の進路状況】

- ・就職希望者 33 名のうち、1 名未定（心身の健康上の問題）
- ・2月に進学希望から就職に変更1名、進学辞退1名。
→上記3名は担任が面談し、進路意向を確認中。

【支援における課題】

- ・家庭事情の複雑さや保護者の面談拒否により、情報収集が困難なケースがあった。
- ・家庭環境が不安定な生徒や保護者とのコミュニケーションが難しい生徒への支援に苦慮するケースがあった。

【今後の取組】

- ・個別支援、早期からの進路指導の充実。
- ・関係機関との連携強化、多様なニーズに対応できる体制構築。
- ・保護者との信頼関係構築、家庭と連携した進路指導。
- ・定期的な進路状況把握と支援内容の見直し。

3 新規高等学校卒業者に係る就職慣行（いわゆる「一人一社制」）に関する状況の把握

【把握方法】・一人一社制についてのアンケート実施

<把握内容>

令和7年1月に、「一人一社制」についてのアンケートを実施した。民間就職予定者の生徒23名及び教員3名から回答を収集した。「一人一社制」について以下のような意見があった。

- ・このままでよい（半数の意見）
- ・複数応募の時期を早める（最初から複数応募を可能にする）ことで、選択の幅が広がり早期離職を防ぐことができる。
- ・一社のみだと視野が狭くなり、他により良い企業を見落としてしまうかもしれない。
- ・最初の受験のみ一社に限り、時期に関わりなく、以降は複数応募可とするのが良い。

4 その他、就職指導を改善・充実するための教育活動に関する取組

【取組内容】・地域機関と連携した就職支援の実施

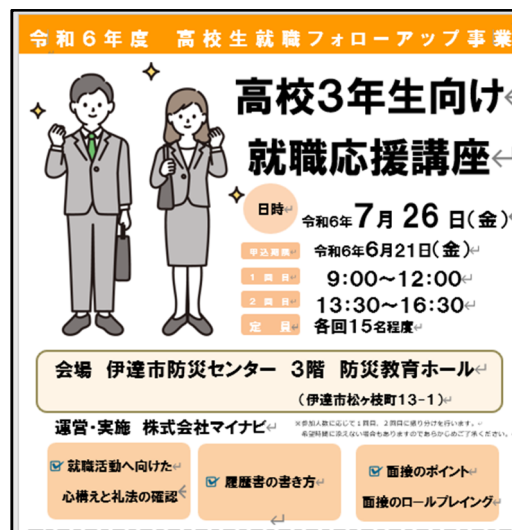
・求人票管理システム「Handy 進路室」の導入

◆ 伊達市主催の「就職応援講座」への参加

対象：市内の就職希望の高校生

時期：2年次3月、3年次7月末

内容：外部講師による講義、模擬面接指導



【効果】

- ・学生の就職活動に対する意識向上、スキルアップ
- ・段階的かつ効果的な指導による自己理解促進、面接試験の自信向上

【来年度の取り組み】

- ・就職応援講座に加えて、伊達市主催の「地元企業説明会」に参加予定



◆クラウド型の求人票管理システム 「Handy 進路室」導入

【効果】

- ・紙媒体での作業を大幅削減
時間を進路相談に活用
- ・生徒の興味関心に基づいた指導
- ・2年次生へ求人票の見方を一斉指導
早期のキャリア形成支援

5 成果の普及

本事業の成果は、校内で共有し、指導の改善に務めたい。また、進路活動において生徒の様子などを積極的に本校 HP に掲載していく。

6 今後の方策

- ・卒業生の就業状況を定期的に把握するため、聴き取り調査を実施する。
- ・進路未決定の卒業生に対しては、関係支援機関との連携を強化し、適切な支援を提供できる体制を構築する。
- ・校内および指導部内の体制を見直し、組織的な取組を推進することで、生徒および卒業生一人ひとりにきめ細やかな指導が行えるよう改善を図る。

令和6年度 就職指導の改善に関する研究報告書（静内農業）

1 就職後3年以内に離職する早期離職の改善のための就職後の生徒に対する支援

【取組内容】支援体制確立に向けた、「連絡会議」の創設

<成果や課題>

新ひだか町役場まちづくり推進課と連携し、「連絡会議」を創設した。本会議では、学校、企業及び役場が抱える課題を共有し、学校・企業・町が一体となった取組について、具体的な協議を行うことができた。今後は、2～3か月に1度程度、定期的開催する予定である。

今後、本会議の参加者の幅を広げ、小・中学校関係者や多くの企業を巻き込む必要があることや、進路先が限られ多様な進路選択が困難であるという地域課題を克服するため、本校や地域で実施するインターンシップの方法を地域全体で検討していく必要があることが挙げられる。



【会議の様子】

2 就職未内定又は進路希望を設定できないまま卒業した生徒に対する支援

【取組内容】(1) ハローワーク等の関係機関と連携した定期的な情報共有
(2) 支援内容を把握するためのキャリアカウンセリングの実施

<成果や課題>

卒業生へのキャリアカウンセリングや悩み相談を実施し、ハローワークや就職先の企業等と定期的に情報共有を図った。また、ハローワーク浦河の職員による卒業前内定者指導を実施し、就職後の相談窓口等について情報提供を行った。卒業生に対して、卒業後の悩みごとや困りごと等がある場合、高校やハローワークに相談するよう周知し、卒業生への就労に関する支援を一層進める必要がある。

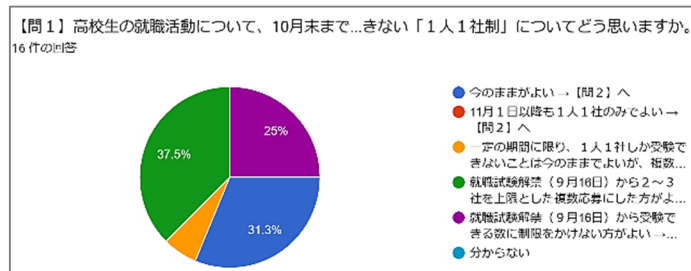
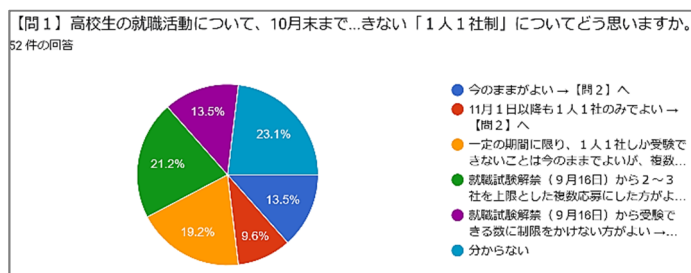
3 新規高等学校卒業者に係る就職慣行（いわゆる「一人一社制」）に関する状況の把握

【把握方法】(1) 事業所訪問による情報収集を実施
(2) 生徒・教員への調査を実施

<把握した内容>

事業所訪問の際に、一人一社制についての情報収集を実施した。企業は、辞退者が出ると採用計画への影響が大きいことから、一人一社制の方が望ましいという意見が多かった。

また、11月下旬に、本校3学年生徒（52名）、教員（16名）を対象に調査を実施した。一人一社制に肯定的な回答と見直すべきだとする回答の割合は、生徒と教員で差があることがわかった。肯定的な回答の理由を聞き取ると、「複数応募に向けた準備に係る生徒、保護者及び教員の負担が非常に大きく困難である」、「複数内定により辞退者が増加することで、企業の採用計画に影響を及ぼし、大きな負担をかける」等の回答が多かった。一方、見直した方がよいと回答した理由を聞くと、「大学生等は複数応募が可能であるため」、「複数応募により、職業選択の幅を持たせることができるため」等の回答が多かった。



【新規高等学校卒業者の就職慣行に係るヒアリング調査結果（一部抜粋）】

4 その他、就職指導を改善・充実するための教育活動に関する取組

【取組内容】(1) 離職者調査に基づく生徒の実態及び課題に即した授業改善
(2) キャリア・パスポートを効果的に活用するための研究及び校内体制の整備

<成果や課題>

卒業生への調査結果から、早期離職する本校生徒の特徴の一つとして、義務教育段階の学習内容や学習習慣が身に付いていないという特徴が見られた。そのため、高校入学後に既習事項の定着に向けて指導するとともに、連絡会議等を活用しながら、義務教育段階から学力向上を図る取組を地域全体で進めていく必要があることがわかった。また、進路意識調査を年4回実施し、生徒の進路意識の変動や進路イベント等が与える影響等についての調査を行っていることから、生徒の実態及び課題に基づき、「産業教育と人間」等の授業改善を推進していく。

現在、本校は道外から入学する生徒が多く、中学校までのキャリア・パスポートの様式に統一性がないことや農業クラブ活動の記録簿（F F J 記録簿）との棲み分けが困難であったため、キャリア・パスポートの記録や活用が進まなかった。そのため、高校入学後の記録については、Classi 内のポートフォリオ機能を活用し、すべてデータで管理するよう改善を図った。また、進路指導部内にキャリア・パスポート担当教諭を配置し、担当が記録等を集約し、様式を整えた状態で生徒へ配信することにより、教員や生徒の負担を減らすとともに、記録漏れの防止にもつなげることができた。

5 成果の普及

令和6年12月3日（火）に開催された日高管内進路指導部会で、本研究事業の中間反省を基に資料を作成し、就職指導改善に関する研究の成果を発表した。

6 今後の方策

地域の小・中学校と連携し、小学校から高校までの12年間を見通したキャリア教育の推進を図るため、早期からの職場見学や職業体験の実施に加え、新ひだか町教育委員会及び新ひだか町役場まちづくり推進課と連携し、小学校から高校までの12年間を見通したインターンシップの実施を検討する。

また、連絡会議の定期開催を進め、人口流出の防止や若年層の地域定着の促進等の地域課題の解決に向けた方策を地域全体で検討する。連絡会議が地域の企業、学校、官公庁及び関係機関等を結び付ける役割を果たせるよう、更なる機能の充実を図る。

令和6年度「就職指導の改善に関する研究」報告書（北見緑陵）

1 就職後3年以内に離職する早期離職の改善のための就職後の生徒に対する支援

【取組内容】企業訪問による過去3年間の就職者の就業状況の把握
早期離職に対する企業の意識の把握、企業へのアンケート実施
就職希望生徒による応募前見学の充実

<成果や課題>

○企業訪問を実施し、過去3年間の就職者の就業状況と離職の状況や理由を次の通り把握することができた。

- ・全てのケースが1年目、かつ多くが1年目の1ヶ月目から3～4ヶ月以内の離職であった。
- ・離職理由の中には、仕事内容や必要な技能・資格を把握せず入社しミスマッチとなったケースもあり、受験前に仕事内容を的確に把握できれば離職を防げたと思われる場合があった。

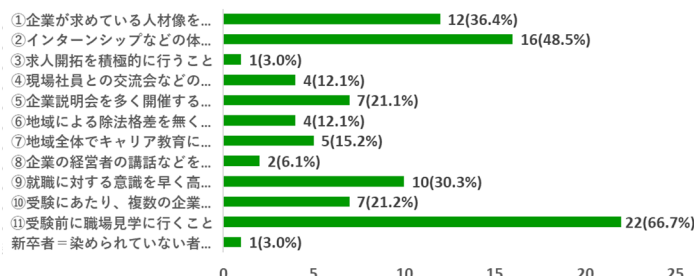
○以上のことから、会社名や業種だけで受験先を決めるのではなく、応募前に仕事内容を的確に把握することが重要である。今年度就職希望者も2～3社の応募前見学に参加し、実際に会社説明や雰囲気等を自分で確かめた上で受験先を決定する流れを取ることができた。

○企業訪問することにより、卒業生の様子やその企業が求める人物像、採用に関する見通し等の情報交換をすることができ有意義であった。

●課題としては、離職した卒業生に直接支援をする機会が作れておらず、連絡を取る難しさがある。

【企業アンケートから】（抜粋）

Q1. 高卒者の早期離職を防ぐために、高校で（学校として）取り組むことが大事だと思うものは何ですか。



<アンケート回答上位>（3つ）

- ・受験前に職場見学に行くこと 66.7 %
- ・インターンシップなどの体験活動を重視した指導を行うこと 48.5 %
- ・企業が求めている人材像を明確に伝えること 36.4 %

就職者中→離職人数

R3卒 9名中→離職2名(離職率 22%)
R4卒 13名中→離職2名(離職率 15%)
R5卒 13名中→離職2名(離職率 15%)
3年間合計35名中→離職6名(離職率 17%)

【「企業が高校生を採用し勤務させるにあたって、気になること、困っていること、ご意見」から抜粋】

- ・何でもやります！というような気概を持って面接に望む方が少なく感じます。
- ・人との関わり方・社会通念上一般常識というものを体得していない人が多い。
- ・個人差はありますが、貪欲さに欠けている。同期または先輩に対し、向上する気力が見受けられない傾向があります。 無我夢中になって一年目からしっかり覚えていく体力をつけ勤務に臨んで欲しいと願います。
- ・ハラスメント時代となり、コミュニケーションが取り難くなったと感じる。
- ・近年、平均して「おとなしい」「自分の気持ちを伝えられない」という高卒者が多いと感じています。頭脳よりも「コミュ力」を重要視していますので、活発まではいかなくとも、自分の意思を伝えられる、協調性があることがどの企業でも求めていることではないかと思っています。
- ・在学中から、社会人になるという自覚をもう少しだけ持って就職してほしい。
- ・学校教育でも社会的基礎力を学べる場を増やすと良いと思います。

2 就職未内定又は進路希望を設定できないまま卒業した生徒に対する支援

【取組内容】ハローワーク・ジョブカフェと連携した面談、面接練習の実施

<成果や課題>

- 昨年度卒業生に対象者はいなかったが、進路実現に向けての意識向上のねらいで今年度の就職希望者にハローワークとジョブカフェによる進路相談、面接練習を実施することができた。（ハローワーク・ジョブカフェともに担当者各2名、合計8回、生徒1名につき4回程度実施）
- 普段接していない外部の方に相談しアドバイスをもらうことで、生徒の視野が広がる良さがある。面接練習についても違った緊張感を持つことができ有意義だった。

3 新規高等学校卒業者に係る就職慣行（いわゆる「一人一社制」）に関する状況の把握

【把握方法】企業・生徒への「一人一社制」についてのアンケート実施

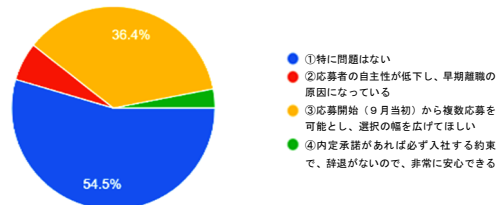
過去3年間卒業生が就職した企業とインターンシップ依頼先企業へ協力依頼

<把握内容>

・アンケートからは半数を超える企業が現行の一人一社制に問題はないと回答しているが、内情は企業が置かれている状況により様々である。意見が分かれている背景に、就職希望生徒の減少により求人票を出しても応募者がいない企業の声も多く聞く現状がある。複数応募により、応募者が増えることを期待する企業もある。

【アンケート結果】(抜粋)

Q5.「1人1社制」(現行の道内高卒求人制度、11/1まで複数応募をしない申し合わせ)についてあてはまるものをお選びください(1つ)



4 その他、就職指導を改善・充実するための教育活動に関する取組

【取組内容】(1)インターンシップの実施(1年次全員対象)

(2)オホーツク振興局主催 出前型ワークショップの実施(1年次全員対象)

(1)インターンシップについて

- ・10月9日・10日の2日間、1年次118名全員対象に実施。市内・管内の28社に協力依頼。
- ・「知らないことを知ることの大切さに気づく」をねらいとして実施し有意義であった。
- ・事後に実施した発表活動によりお互いの体験を共有することで、どの職業も「人々のために」「誰かのために」など自分以外の人のために働き、支え合っていることがとても素晴らしい等、生徒は気づきを得ることができた。

(2)オホーツク振興局主催 出前型ワークショップについて

- ・地域で働く様々な社会人の方とパネルディスカッションやグループディスカッションを行い地域の仕事の魅力や地元で働く選択肢があることを知る目的で実施。社会人7名がパネリストとして来校。パネリストの多くが本校卒業生だったこともあり、身近に感じられる話となった。
- ・具体的な仕事内容ややりがい、苦労話や裏話、高校時代にしておくといふことなど、親身になってアドバイスをもらい、生徒の質問にも丁寧に誠実に答えていただき良い機会となった。

5 成果の普及

- ・本校HPにアンケート結果や研究成果報告書等を掲載する。
- ・校内において、年度末反省会議等を利用して情報の共有を図った。
- ・支部校長会で実践事例を共有する。

6 今後の方策

- ・就職者の追跡調査をGoogleフォームで実施し、既卒者の動向を把握できるようにする。
- ・インターンシップについて、事前・事後学習、発表会の充実を図るとともに実施方法の検討を重ねていく。

令和6年度 就職指導の改善に関する研究報告書（幕別清陵）

1 就職後3年以内に離職する早期離職の改善のための就職後の生徒に対する支援

【取組内容】・企業訪問による就業状況の把握及びインターンシップ実施に向けて

<成果や課題>

離職の主な理由にミスマッチが挙げられる。その要因は自己理解及び企業研究不足によるところが大きい。方策として従来の企業訪問時期を6月から8月へと変更したことで、就労後の様々な変化を把握し、今まで以上に多くの情報を得ることができた。更に、本校で初となる2学年全員参加のインターンシップについて企業訪問時に依頼することで、企業と学校の相互理解を深めて実施できた。これにより、就職希望の生徒は、卒業後の進路実現を見据え、意識を高揚させ、学校生活の改善に向けた良い影響を受けた。

今後は、インターンシップを一時的な就労体験に終わらせることなく、就職先を見定めて中長期に渡る就労体験を通して、企業と高校生相互のマッチングプログラムの充実を図っていく。

以下、企業訪問時に聴き取った「企業が求める人物像」及び「離職者の傾向」を列記する。

【企業が求める人物像】

- ・目を見てコミュニケーションができること。 ・体調管理、自己管理ができること。
- ・元気で、明るい人柄であること。 ・忍耐力があること。
- ・一生懸命打ち込んできたこと（部活動や学業）があること。

【離職者の傾向】

- ・コミュニケーションが苦手であること。異年齢との交流経験が不足していること。
- ・連絡、報告、相談ができないこと。
- ・相談する相手がいないこと。内向的な性格であること。上司に現況を吐露できないこと。
- ・仕事に意義を見出せないこと。

2 就職未内定又は進路希望を設定できないまま卒業した生徒に対する支援

【取組内容】・十勝教育局、ハローワーク、ジョブカフェ等と連携した支援体制の強化

<成果や課題>

進路活動を早期に本格化させるために、外部講師を招いて就職に向けての心構えや自己分析、自己PR、履歴書の書き方等の指導を仰いだ。夏休み直後の就職ガイダンスでは、社会人として準備すべきことや面接練習等、就職活動本番に向けた具体的な準備について学ばよい機会となった。学年主導による就職指導もあり、順調に就職内定を獲得できた。複数回就職試験を受験、公務員からの進路変更もあったが、2月中旬までには就職希望者全員の内定を得ることができた。

今後は、夏季休業中の各種就職セミナーへの積極的な参加を促すことも必要である。

表1 参加した進路別オリエンテーション及び就職に向けた活動

月 日	内 容	参加生徒数	講 師 等
4月24日	進路別オリエンテーション 進路実現に向けた心構え等	32名	十勝教育局進路相談員 八幡裕樹子 氏
5月10日	進路別オリエンテーション 自己PR・履歴書の書き方等	27名	ハローワーク帯広就職支援ナビゲーター 細野博樹 氏
7月30日	就職ガイダンス(厚労省委託事業)	21名	KIDOライフデザイン研究所所長 城戸和子 氏 キャリアコンサルタント 沖田泰範 氏
1月21日 22日	就職内定者研修	13名	ジョブカフェ帯広 キャリアアドバイザー 村上博子 氏 コーディネーター 大和田真澄 氏



【進路別オリエンテーションの様子】

3 新規高等学校卒業者に係る就職慣行（いわゆる「一人一社制」）に関する状況の把握

【把握方法】・アンケート調査の実施

＜把握内容＞

12月、高校生の就職あっせんの方針についてのアンケートを実施した。3年生就職希望29人、就職以外を希望42人、本校教員7人、合計78人から回答を得た。以下、一部抜粋する。

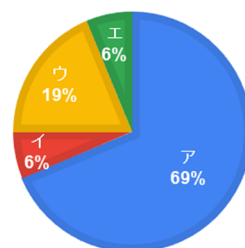
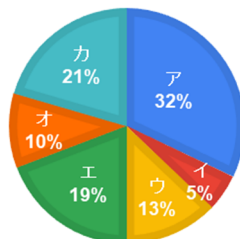
その結果、「一人一社制」で問題なく運用されているため、現状を肯定的に捉えている割合が高いことが伺える。詳細なデータは別紙資料1及び資料2に掲載した。

問1 一人一社制について

図1 問1 一人一社制について

図2 問2 問1でアまたはイと回答した方

- ア 今のままがよい
- イ 11月1日以降も一人一社のみでよい
- ウ 1人が複数に同時に応募できる
- エ 就職試験解禁から複数応募
- オ 就職試験解禁から制限
- カ わからない



問2 問1でアまたはイと回答した方

- ア 一人一社制でも問題なく運用されるから
- イ 一人一社制を止めた場合のデメリットの方が大きいから
- ウ 内定を複数得られる生徒と全く得られない生徒が生まれてしまうから
- エ その他

4 その他、就職指導を改善・充実するための教育活動に関する取組

【取組内容】・企業説明会、新規高卒者就職面接会並びに就職内定者指導への参加
・求人票管理クラウドサービス（handy 進路指導室）の導入

各種企業説明会に参加し、求人票だけではわからない企業の様子、仕事内容について複数の企業・業種の説明を受け比較検討することができた。就職を目前に控えた不安を払拭でき、意識を高めることができた。

表2 参加した企業説明会及び新規高卒者就職面接会

月 日	内 容	参加 生徒数	講 師 等
6月18日	お仕事フェア2024 高校生のための合同企業交流会	33名	主催:ジョブカフェ・ジョブサロン北海道 参加企業 42社
7月18日	とちぎ学校、企業交流学習 とちぎ企業説明会	26名	主催:(株)サトウさん 参加企業 32社
7月29日	高校生のための合同企業説明会	20名	主催:北海道中小企業家同友会とちぎ支部 参加企業 62社
10月31日	新規高卒者就職面接会	3名	新規高卒者就職面接会 参加企業 29社

興味がない企業の説明を傾聴し、視野を広げる生徒は少数に留まり、積極的に参加させる指導が必要である。

求人票管理クラウドサービス（Handy 進路指導室）の導入により、求人票公開までの作業をデジタル化し、業務を効率化した。これにより生徒と向き合う時間が確保できた。学外で保護者と自宅でスマートフォンやタブレットを用いて就職先の具体的な相談が可能になった。



【お仕事フェア2024の様子】

5 成果の普及

校内では進路指導部と学年団との綿密な情報共有により、組織的な進路指導につなげることができた。校外では道進協十勝支部就職分科会で情報交換ができた。

6 今後の方策

終身雇用が崩壊した昨今、保護者や生徒の意識にも変化が見られることを踏まえ、ハローワーク、ジョブカフェ等と連携し、生徒一人ひとりに寄り添う進路達成プログラムを充実させる。

令和6年度 就職指導の改善に関する研究報告書（釧路湖陵（定））

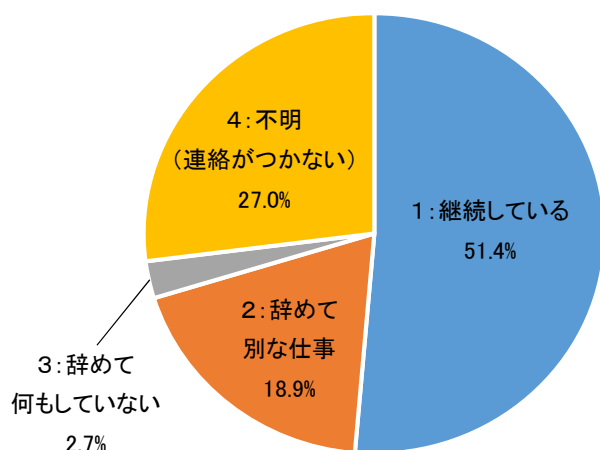
1 就職後3年以内に離職する早期離職の改善のための就職後の生徒に対する支援

【取組内容】就職者に対して定期的（3ヶ月、6ヶ月後）に状況の確認をする。

<成果や課題>

○令和4年3月・令和5年3月・令和6年3月に卒業し就職した生徒の1年後の状況

番号	分類	令和4年 3月卒業	令和5年 3月卒業	令和6年 3月卒業	合計	割合%
1	はじめの仕事を継続している	7	4	8	19	51.4%
2	辞めて別に仕事に就いている	2	3	2	7	18.9%
3	辞めて何もしていない	0	1	0	1	2.7%
4	不明(連絡が取れない)	5	3	2	10	27.0%



本校においては、研究指定を受ける以前から卒業1年後の就職・離職状況を確認しており、上記はそのデータである。調査結果では、1年後に約2割の生徒が離職している状況であり、また、3割近くの生徒と連絡が取れなくなっているなど、卒業生に関する情報の収集や就職支援の難しさを感じている。

令和3年度・4年度については、当時の卒業担任がすでに異動しているため、その後の状況は把握できていない。一方で、令和5年度の卒業生に対しては、Google Classroomを活用し、ある程度は生徒の状況を把握することができている（具体的な数値は1年後と変わらない、辞める生徒は早期に退職していた）。しかし、離職したことを把握できていなかった生徒がいたことや、再就職に向けて指導を行うことができなかったことなどに課題がある。生徒から積極的に学校へ連絡しない限り、卒業後の情報収集や継続した指導は非常に難しい。そのためには、在学中における指導の改善が必要であり、その一つの方策として、早い段階から学校外部の組織と関わりを持つことが有効ではないかと考えている。また、早期に離職する生徒の中には障がいがある生徒が含まれており、今後は在学中から、自立支援組織等との連携による就職指導・就学支援について取り組みたいと考えている。

2 就職未内定又は進路希望を設定できないまま卒業した生徒に対する支援

【取組内容】卒業担任が本人と連絡を取り続けた。

<成果や課題>

非正規ではあるが仕事に就くことができた。

1でも記載したが、卒業時の担任が異動すると連絡が疎遠になってしまう傾向がある。卒業生から積極的に学校と連絡を取ろうとしなければ、指導や支援は難しくなる。また、卒業後も支援を継続することは教員の仕事量の増加にも繋がることから、卒業した生徒に対して、学校としてどこまで関わるべきなのか検討が必要である。

3 新規高等学校卒業者に係る就職慣行（いわゆる「一人一社制」）に関する状況の把握

【把握方法】 高校教育課より要請のあった就職慣行に関する調査を行った。

<把握内容>

定められた期間を超えても、同時に複数の事業所に応募する生徒はいなかった。
特に生徒や保護者からは意見はなかった。

4 その他、就職指導を改善・充実するための教育活動に関する取組

【取組内容1】

- ・ 企業訪問（1年生）、インターンシップ（2・3年生）を実施する。また、実施にあたり、事前指導・事後指導が充実するように意識した。

<成果や課題>

進学希望者も含めて3年生は原則全員参加としている。事前指導及び事後指導を行い「働く」ことに対する意識を高めることができた。

【取組内容2】

- ・ 4年間を見通したキャリア教育プログラムの実践を行っており、キャリアパスポートの有効活用を行っている。また、「進路マップ」の作成を進めている。

<成果や課題>

キャリア教育のプログラムは進路指導部が中心となっており、その多くを「総合的な探究の時間」で行っていることもあり、教務部と連携して取り組む方向で検討している。本校生徒の実態に応じた実践的なプログラムを行えるよう進めている。

【取組内容3】

- ・ 障がいがある生徒の在学中からの就労支援について専門機関等との連携を図っている。
- ・ 自立支援施設の職員を招聘し就労支援について講演会を実施した。

<成果や課題>

講演会（校内研修を兼ねて研究協議会として実施）を実施したことにより就労支援A・Bについて具体的に理解することができた。専門機関からの支援が必要な生徒については、早期段階からの連携が必要であり、学校と専門機関と組織的連携を図るよう取り組みたいと考えている。

【取組内容4】

- ・ 北海道更別農業高等学校（就労支援が必要な生徒に対して組織的・計画的に指導している）へ視察訪問を行った。

<成果や課題>

本校と同様に義務教育段階での不登校経験者が多く在籍している高校を訪問し、1年生から計画的に外部機関と連携しながら就職指導を行っている取組について説明を受けた。今後の取組の参考にしたい。

5 成果の普及

- ・ 校内研修を実施し、校内の教職員へ成果を還元した。
- ・ 研究の実践内容と成果を学校ホームページに掲載した。
- ・ 釧路工業高校定時制と研究協議会を行い、研究成果の還元や意見交換を行った。

6 今後の方策

早期離職の防止に向けて、インターンシップや応募前職場見学に参加させている。早期離職する生徒の中には、コミュニケーションに課題があり、それに対して苦手意識がある生徒が多いことから、自立支援等に関する専門機関との連携した就職指導の改善を研究する予定である。

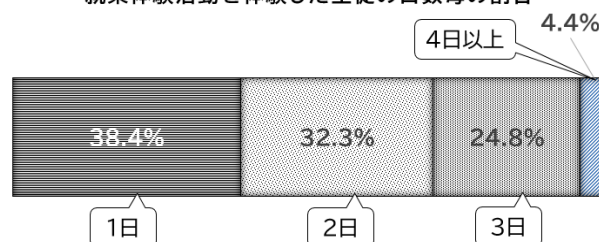
就業体験活動の充実

～長期のインターンシップ、デュアルシステム～

令和6年1月 北海道教育庁学校教育局高校教育課

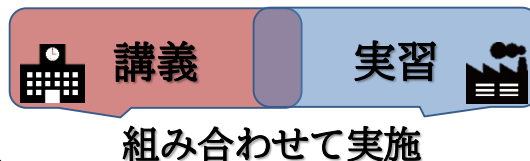
令和4年度に、インターンシップを体験した生徒の実施日数別の割合(全日制道立高校)は、1～3日間が95.6%、4日以上が4.4%となっています。国立教育政策研究所生徒指導研究センターが取りまとめた「職業教育・インターンシップに関する調査研究報告書」(平成19年3月)では、「実施日数が長かつ、開始年度の早いほど進路指導上の効果が高く、事業所側も効果を上げるためには長期化が望ましいと考えている。」と示されています。高等学校学習指導要領(平成30年告示)では、「長期間の実習を取り入れるなど」と、その意義や重要性を示しています。このことから、本リーフレットでは、長期間のインターンシップやデュアルシステムの実践例も含め、その意義や重要性を3つの観点から再確認します。各学校においては、効果的な就業体験活動の実施の参考にしてください。

就業体験活動を体験した生徒の日数毎の割合



道教委「令和4年度インターンシップ状況等調査結果」

デュアルシステムのイメージ



観点①

調査研究結果(長期間のインターンシップの効果)

国立教育政策研究所の調査研究報告書は、調査結果を踏まえ、以下のように報告しています。

- 5日以上実施した大学科は、5日未満実施の大学科に比べ、進路指導上の教育効果で優位となっている。
- 事業所側の担当者の60%以上は、インターンシップの効果を上げるための期間として、5日以上が適切であると考えている。

【参考(報告書からの引用)】

職場体験において、中学校と事業者両方にヒヤリングを行ったところ、職場体験5日間の成果は、『3日目から生徒が変わり、4日目から生徒が積極的・主体的に動き始め、5日目に人間関係が深まる』ということが報告されている。

出典:「職場体験・インターンシップに関する調査研究 報告書」(国立教育政策研究所 生徒指導研究センター)

観点②

高等学校学習指導要領による取扱い

学習指導要領(平成30年告示)第1章総則第2款の3(7)には、「産業現場等における長期間の実習」の実習について、以下のように示されています。

キャリア教育及び職業教育を推進するために、生徒の特性や進路、学校や地域の実態等を考慮し、地域や産業界等との連携を図り、**産業現場等における長期間の実習を取り入れるなどの就業体験活動の機会を積極的に設けるとともに**、地域や産業界等の人々の協力を積極的に得るように配慮するものとする。

出典:高等学校学習指導要領(平成30年告示)

観点③

取組実践校の声等

長期間のインターンシップやデュアルシステムを実践している学校の導入の理由や実施方法、取組による成果などを紹介します。

標茶高校のインターンシップ



【実施方法】

学 年: 2学年
科 目: 総合的な探究の時間
(地域探究)
実習日数: 5日間(夏季休業前)

【5日にした理由、メリットや効果】

就業体験としてだけではなく、「地域を知る」という目的も兼ねて実施しようと考え、この日数としました。この体験の中で、生徒は、地域企業が抱えている課題に注目できるばかりでなく、地域の魅力を再発見する生徒やアントレプレナーシップを学ぶ生徒なども出てきています。

また、日を追うごとに、企業の方々とのコミュニケーションが潤滑になり、1日目、2日目では深められなかった働くことの意義についても、学びを深めていった生徒が見られました。

函館工業高校定時制のインターンシップ



【実施方法】

学 年: 定時制課程4学年
科 目: 位置付けなし
実習日数: 38日(5月、7～8月)
※授業に影響のない昼間の実施

【受入事業所の声】

定時制課程の新卒採用実績がない中、学校から就職希望者がいることを伺いました。そこで、定時制課程の生徒を十分理解するため、企業としてもミスマッチをさせないために事務職から製造部門までの様々な業務体験を積んでもらいました。おかげさまで生徒さんは製造部門へ就業意思が固まり本社を受験していただき人材確保ができました。また、職場の従業員と協調性や業務に対しての責任感や使命感が向上し、職業観・勤労観を養うこともできたのではないかと思います。

静内農業高校のデュアルシステム



【実施方法】

学 年: 食品科学科2、3学年
生産科学科3学年
科 目: デュアル派遣実習
(選択、学校設定科目)
実習日数: 15日(5～10月)

農業高校と関連企業双方のハイブリッド型で人材育成を行うシステムとして10年ほど前から実施しています。

【体験生徒の声】

入学当初から「この牧場に行きたい」という強い気持ちがあったため、デュアルシステムを活用してこの牧場に行くことを決めました。実際に牧場に行くと、学校では経験できない作業の体験のほか、企業ならではの考え方を学ぶことができ、ここで働きたいと感じました。卒業後は実習先の牧場に就職することになりました。

鵜川高校のデュアルシステム



【実施方法】

学 年: 1、2学年
科 目: チャレンジスタディ
(学校設定科目)
実習日数: 8日(10～12月)

講義形式による事前学習後、選択した企業で実習を行い、実習後は毎回、学校で振り返りを行っています。

【「実習」と「講義」の組合せによるメリットや効果】

講義で、職業知識及び現場のイメージをもってから実習を行うことで、社会人として必要な考え方やマナーはもちろん、仕事の内容についても深い学びになっていると感じています。また、実習後、すぐ学校で振り返りを行うことにより、次の実習に向けた新たな課題発見を行う学びのサイクルが効果的です。

旭川工業高校のデュアルシステム



【実施方法】

学 年: 3学年
科 目: 企業実習
(選択、学校設定科目)
実習日数: 20日(5～6月)

学校設定科目「企業実習」で事前指導を8時間(4・5月)、事後指導を8時間(6・7月)実施しています。

【デュアルシステムを導入しようと思った理由】

実習期間を長く設定することで、「働くこと」に近い経験ができることや、学校では実習先の職業についての講義を行うため、より実践的な知識が深められること、実習先企業で必要となる技術、技能を習得することができること、社会人とのコミュニケーションを深める時間を多くとることができることから導入しました。



令和5年度就業状況調査の結果から

本道の新規就職者の卒業後3年以内の離職率(43.9%)が全国平均(37.0%)を上回っている(令和5年3月時点)状況を受け、道教委は、就職した生徒の就業状況などを調査。調査対象は、「就職指導の改善に関する研究」指定校における就職者。

早期離職を防ぐために、高校でも取り組むことが大切だと思うもの	
「受験前に職場見学に行くこと」	28.7%
「就職に対する意識を早く高めさせること」	16.0%
「インターンシップ等の体験活動を重視した指導を行うこと」	10.2%
高校で身に付けておけばよかったと思う資質や能力	
「コミュニケーション能力」	22.3%
「言葉づかいやマナー、身だしなみ」	13.5%
「勤労観・職業観等の価値観」	10.4%

取組実践校の「声」
(下線部)の中で、
身に付けられた
資質・能力と一致する

Q&A

- Q. 長期の就業体験活動は、教育課程上どのように位置付けているのでしょうか？
- A. 「総合的な探究の時間」や、専門高校においては科目「課題研究」の他、「企業実習」のような学校設定科目を開設して実施する学校もあります。取組実践校の例では、インターンシップでは2単位程度、デュアルシステムでは4～7単位程度、特別活動の一環として「学校行事」(勤労生産・奉仕的行事)で実施している学校があります。
- Q. 学校外において企業等が用意したプログラムを、就業体験活動等に単位認定する場合、必要なこととはどのようなことでしょうか？
- A. 単位認定する場合は、企業等との打合せの他、オリエンテーションの実施、計画書の提出、学校による事前・事後の適切な指導など、評価に必要な事項を実施することが望まれます。
- Q. 工業や農業、水産など、職業に関する各教科・科目においては、就業体験活動をもって実習に替えることができますが、その際の留意点はどのようなことですか？
- A. この場合は、その活動が各教科・科目の内容に直接関係があり、その一部としてあらかじめ計画し、評価されるものであることを要することが求められます。

リーフレットに関する問合せ先

北海道教育庁学校教育局高校教育課キャリア教育指導係

〒060-8544 札幌市中央区北3条西7丁目 TEL 011 (231) 4111 (内線35-729)

<https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/kki/career.htm>



公立高等学校の調査月ごとの就職内定(決定)率の推移

【道教委調査から】

年度	9月末内定率			10月末内定率			12月末内定率			3月末決定率		
	道内	道外	全体	道内	道外	全体	道内	道外	全体	道内	道外	全体
9				42.0	81.8	45.1	66.1	93.2	68.3	85.5	98.5	86.6
10	19.7	63.5	23.5	33.3	77.5	37.2	58.8	89.1	61.5	81.3	97.4	82.7
11	16.3	46.7	18.3	30.9	66.6	33.1	56.6	83.6	58.3	81.7	93.6	82.4
12	14.6	44.2	16.4	30.2	60.3	32.0	58.4	80.4	59.7	82.8	91.9	83.3
13	12.6	45.6	14.4	28.7	60.9	30.5	56.5	78.7	57.6	80.2	93.2	80.9
14	10.3	38.3	11.7	24.6	55.1	26.1	52.5	75.0	53.7	78.5	89.5	79.1
15	11.6	46.0	13.3	26.1	63.9	27.9	53.6	81.9	55.0	79.5	94.9	80.3
16	11.3	45.7	13.1	25.3	66.0	27.4	54.3	78.6	55.7	79.8	92.7	80.5
17	12.7	43.8	14.6	30.1	68.9	32.5	58.2	85.0	60.0	80.8	94.0	81.7
18	12.9	50.9	15.9	33.6	70.3	36.6	61.1	87.5	63.3	82.2	94.8	83.3
19	14.1	51.8	17.4	36.3	77.2	39.9	63.7	89.6	66.1	83.2	97.2	84.5
20	15.3	55.5	19.8	35.2	74.7	39.7	63.1	89.1	66.2	81.1	95.5	82.8
21	10.1	39.0	12.8	28.0	64.0	31.2	54.6	79.6	56.9	78.6	91.6	79.7
22	12.7	46.1	15.7	31.0	71.6	34.3	62.3	85.9	64.2	84.5	96.1	85.5
23	14.5	45.6	16.9	32.7	71.6	35.6	65.5	87.2	67.2	87.9	95.4	88.5
24	14.4	48.2	17.2	38.1	76.1	41.0	72.5	90.8	73.9	94.6	98.2	94.9
25	17.6	50.4	20.0	45.8	77.2	48.0	79.4	92.4	80.3	95.7	98.9	95.9
26	23.6	58.4	26.4	50.9	78.8	53.1	82.7	93.7	83.6	96.3	99.0	96.5
27	23.4	52.3	25.7	53.6	79.4	55.7	85.8	91.9	86.3	97.6	96.3	97.5
28	27.6	52.5	29.5	55.1	80.1	56.9	88.0	96.6	88.6	97.8	102.2	98.1
29	30.3	52.3	32.0	58.0	81.0	59.7	88.0	95.8	88.6	97.2	103.4	97.7
30	26.2	48.0	28.0	59.3	81.5	61.2	89.5	95.2	90.0	97.7	100	97.9
R1	28.1	48.3	29.7	60.0	79.2	61.6	90.5	91.1	90.6	97.9	100.8	98.1
R2	(別途記載)									96.7	101.7	97.0
R3	26.9	39.1	27.6	57.1	74.0	58.1	88.3	96.0	88.7	96.8	102.2	97.1
R4	37.3	47.1	37.8	59.2	83.9	60.6	87.7	97.5	88.3	97.8	102.8	98.1
R5	31.5	43.6	32.2	59.6	83.6	61.1	87.7	95.0	88.2	97.5	98.6	97.6
R6	30.8	32.9	30.9	60.1	69.6	60.7	88.1	86.9	88.0	97.4	94.0	97.2
R5比	-0.7p	-10.7p	-1.3p	0.5p	-14.0p	-0.4p	0.4p	-8.1p	-0.2p	-0.1p	-4.6p	-0.4p

＜参考＞

年度	10月末内定率			11月末内定率			1月末内定率		
	道内	道外	全体	道内	道外	全体	道内	道外	全体
R2	32.8	39.7	33.2	70.0	83.1	70.8	91.3	100.2	91.9

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、就職試験の解禁が1か月後ろ倒しになったため、調査の時期を変更している。